2017年6月
ISSN 2187-1205

尾道市立大学
地域総合センター
叢書 9

はじめに

毎年、センター叢書の冒頭に、その年の出来事などを書かせていただいている。理由は、大学の出版物なので、大学がしっかり管理し保存する。そしてその時代の先生方が、専門ジャンルで、しっかり研究され執筆されることに所以する。後世の人たちが、その本を目にしたとき、そんな時代にこんな考え方や方法論、分析、解析などやっていたのだと。つまり、その時代にタイムスリップし、その時代の感覚で読んでいただき、理解を深めていただきたいからである。今年度は、戦争に巻き込まれる可能性は少なからずある、と考えてしまった。

- 北朝鮮の度重なる核爆弾の実験と 20 発以上の弾道ミサイルの発射実験。
- トランプ氏が米大統領に就任、ワシントン政治の常識からかけ離れた、型破りな公約をしたが、なかなか実現せず。トランプ劇場開幕。
- 英国民投票による世論調査の予想に反して EU 離脱が僅差で決定した。移民問題。
- アサド政権軍が化学兵器による空爆を行い、子どもを含む、罪のない市民が無残に殺害される。トランプ米大統領、シリアの空軍基地の兵器格納庫にミサイル 59 発を発射した。また、米軍の通常兵器で最強の大規模爆風爆弾でイスラム国（IS）の拠点を攻撃した。
- 米国は北朝鮮の、米国まで到達する、大陸間弾道弾開発で核の脅威が広がった。北朝鮮が軍事的挑発に踏み切った場合、強力な報復措置をとる、と米韓一致の記者会見を行った。
- 安倍首相はこの報復措置発言に賛同した。
- 一昨年度から起こっている、世界での無差別テロ。この事件は本学にも影響があった。この 2 年、美術学科油画コースの EU への古美術研究旅行は中止になっている。

今年度、起きたことはまだあるが、世界でも治安のいいと言われる日本で、こんな脅威を感じたことは、いまだ嘗てない。

尾道市立大学地域総合センター長
稲田 全示

目次

はじめに　尾道市立大学地域総合センター長 稲田 全示 —— 01

特別寄稿

戦後尾道駅前広場の光景　小説家 森岡 久元 —— 04

研究論文／研究要旨

コントロール・パッケージと従業員の認知〜ケース・スタディを通した検討
〜尾道市立大学経済情報学部経済情報学科講師 藤原 靖也 —— 19

高垣寅次郎とアダム・スミス〜増補版〜
尾道市立大学経済情報学部経済情報学科准教授 林 直樹 —— 28

ビートルズに学ぶデザイン、広告、PR。
〜『ビートルズのデザイン』序章　要旨論文〜
尾道市立大学芸術文化学部美術学科デザインコース教授 世永 逸彦 —— 40

尾道の産業に焦点を当てた経済波及効果
尾道市立大学経済情報学部経済情報学科講師 岡本 隼輔 —— 53

尾道の認知地図
尾道市立大学芸術文化学部日本文学科准教授 塚本 真紀 —— 55

小泉八雲の英語が語る松江
尾道市立大学芸術文化学部日本文学科准教授 平山 直樹 —— 57

尾道を検索しよう
尾道市立大学経済情報学部経済情報学科講師 木村 文則 —— 59

尾道てのひら怪談について
尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授 光原 百合 —— 61

日本財政の現状と消費税増税延期の影響
尾道市立大学経済情報学部経済情報学科講師 金田 陸幸 —— 64

学びを考える ― 新しく自分を創っていくために ―
尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授 信木 伸一 —— 66

徳川将軍家と広島藩浅野家 ― 大奥から大名家へのお輿入れ ―
尾道市立大学経済情報学部経済情報学科講師 森本 幾子 —— 69

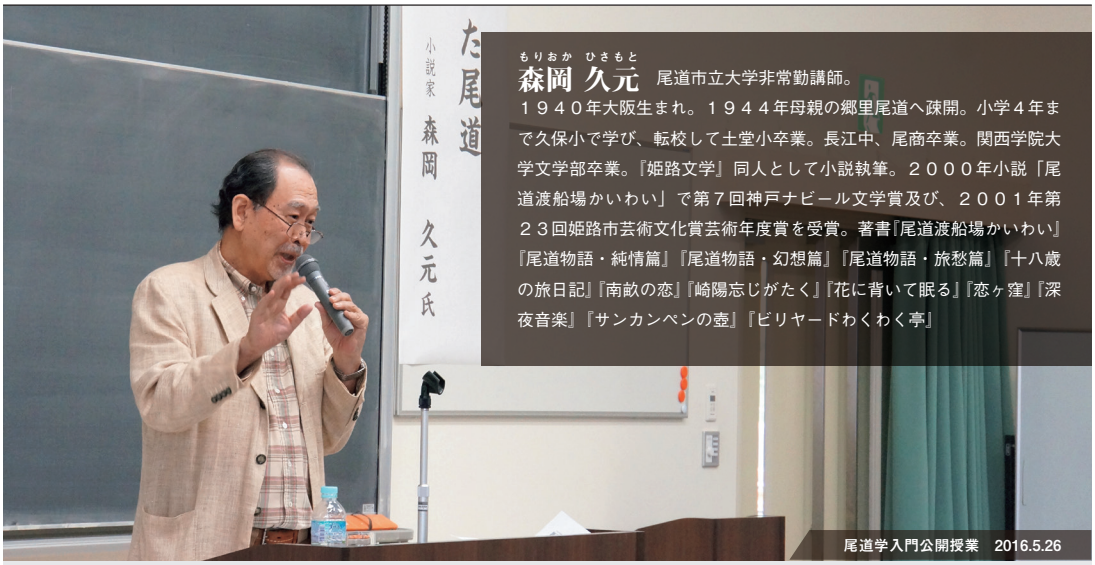
アートを通じて広がるネットワークの可能性
尾道市立大学芸術文化学部美術学科油画コース講師 稲川 豊 ―― 74

公開講座開催リスト／アンケート集計

平成27年度　教養講座 アンケート集計 ―― 76
平成28年度　教養講座 アンケート集計 ―― 80
平成28年度　尾道学入門公開授業 アンケート集計 ―― 84
平成27年度　尾道文学談話会 テーマ一覧 ―― 88
平成28年度　尾道文学談話会 テーマ一覧 ―― 88
尾道の古文書解読講座（初心者対象） アンケート集計 ―― 89
情報科学研究会 アンケート集計 ―― 90
コンピュータ公開講座 アンケート集計 ―― 95
尾道市立大学教員FMおのみち出演 トークテーマ一覧 ―― 96

受託研究

受託研究一覧 ―― 98



森岡 久元（もりおか ひさもと） 尾道市立大学非常勤講師。

１９４０年大阪生まれ。１９４４年母親の郷里尾道へ疎開。小学４年まで久保小で学び、転校して土堂小卒業。長江中、尾商卒業。関西学院大学文学部卒業。『姫路文学』同人として小説執筆。２０００年小説「尾道渡船場かいわい」で第７回神戸ナビール文学賞及び、２００１年第２３回姫路市芸術文化賞芸術年度賞を受賞。著書『尾道渡船場かいわい』『尾道物語・純情篇』『尾道物語・幻想篇』『尾道物語・旅愁篇』『十八歳の旅日記』『南畝の恋』『崎陽忘じがたく』『花に背いて眠る』『恋ヶ窪』『深夜音楽』『サンカンペンの壺』『ビリヤードわくわく亭』

尾道学入門公開授業　2016.5.26

［特別寄稿］

戦後尾道駅前広場の光景

小説家
森岡 久元

はじめに

平成２４年５月から毎年１回「尾道学入門」授業の講師をつとめ、「私の書いた尾道」と題して自作の小説を題材に、戦後から昭和３０年代の尾道風景について話している。なかでも平成２６年から２８年までの３回は終戦直後の尾道につき、「尾道へ進駐軍がやってきた日」「尾道駅前の闇市」「天皇の浜焼き鯛―昭和天皇の尾道行幸」のタイトルで話した。それら３回の講義の中にあらわれた、当時の尾道駅前広場の光景だけをまとめてみたい。

1．占領軍の尾道進駐

米軍部隊による尾道進駐は昭和２０年１１月３日だった。これより先、同年１０月６日に米国軍第６軍の中の第１０軍団は輸送船約３０隻で広湾に到着し、翌１０月７日午前６時、約２万名の米兵がジープやトラックで呉地区に進駐を開始して、正午には予定の進駐を終了していた。第１０軍団は広島県を中心として中国地区へ展開して、広島、岡山、島根、鳥取各県と

四国を責任地区としていた。

昭和２０年９月２日に東京湾のアメリカ戦艦ミズーリ艦上において日本軍の降伏文書が調印されると９月９日、マッカーサーは占領下日本の管理方針を正式に声明した。連合国総司令部（ＧＨＱ）が発表した広島を中心にした中国地区への占領軍の進駐計画に対応するために、９月１８日には広島県庁内に〈連合国軍進駐対策本部〉が設置された。そのころ県庁は原子爆弾投下被害のために安芸郡府中町にあった東洋工業本社の中へ疎開していた。そこへ県下の五市の市長や市役所と地方事務所の幹部たちを召集して対応策が協議されたが、その五市には尾道市も含まれていた。

９月２４日、広島県は〈連合軍進駐ニ関スル警備計画〉というものを策定して、各市町村へ通達してきた。尾道でもいまは廃止となった〈国民義勇隊本部〉に替わって、〈連合国軍進駐対策本部〉に名称を変更した本部室で対策会議が開かれる。対策事項は（１）進駐軍宿舎、（２）交通取締り協力、（３）車両供出、（４）衛生施設、（５）特殊慰安施設、（６）連合軍の警備、（７）労務供出、（８）県民指導、（９）食糧供出の９項目だった。

尾道市における進駐軍の宿舎は、吉和地区にある県立尾道商業学校校舎が接収され、これが宿舎とされた。尾道商業校長の官舎が接収され司令官の宿舎となる。

県と尾道市当局が恐れたことは県民と進駐軍との間で起こり得る暴力沙汰や婦女暴行だった。「連合軍進駐付近住民の心得」とか「事故防止にかんする通達」が当局から出されるのみならず、新聞各紙でも繰り返し「進駐軍に対する女性の心構え」を説く記事が掲載されている。呉市が進駐軍に対する市民の心構えとして通達したものがある。尾道でもほぼ同様の通達を市民に出したと思われる。

一、戦意昂揚の為に電柱や壁等に掲げた標語類は見つけ次第剥ぎ取ること。

一、武器に類するものは所持せざること。

一、進駐軍の歩哨に呼び止められた場合逃げてはいけない。危険人物と疑われて銃撃されるおそれがある。

一、生かじりの英語で知ったかぶりに話すと、かえって禍を招くことがあるから、むしろ口出しをせぬ方が無難である。

一、婦人はなるべく『モンペ』等を着用し、素肌、素足、乳房等を見せざるよう心掛くること。

一、往来から家の中が見えないように、なるべく窓や障子をしめること。

一、婦人や子供が物珍らしき風をして進駐の軍人を見たり笑ったり、または『ハンカチ』を振ったりすることはいけない。

一、外出の時はなるべく独りで出歩かぬようにし、または夜の外出は避けた方がよい。

一、ピアノ、レコード等は家の中でなるべく鳴らさぬこと。

一、万一の場合は、戸外に出たり、または大声を出して助けを請うこと。

終戦当時の尾道の人口はおよそ５万３千人で、そのうち男性が２万４千、女性が２万９千人

だった。男性が５千人少ないのは、兵隊にとられた者がまだ復員していなかったのが主たる理由だが、２万９千人の婦女を進駐軍の暴行の脅威からいかにして守るか、市民にとって重大な問題だった。

ポツダム宣言受諾からわずか３日後の８月１８日に、内務省は全国の警察に対して〈外国軍駐屯地に於る慰安施設について〉とか〈外国駐屯軍慰安設備に関する整備要項〉という通達をして、進駐してくる連合軍の将兵向けに慰安所の設置を指令していた。それは８月１７日に成立した東久邇宮内閣の国務大臣近衛文麿からの「日本の娘の純潔を守ってくれ」という要請に応えたものだった。８月２０日には近衛国務相は〈特殊慰安施設協会〉の設置を決め、占領軍将兵による「性犯罪から一般の婦女子を守るため」「性の防波堤」という大義名分のもと、日本各地に慰安所が設置される。慰安婦は「芸妓、公私娼妓、女給、酌婦、常習密淫売犯等を優先的に之を充足するものとす」（外国駐屯軍慰安施設等整備要領）とされた。

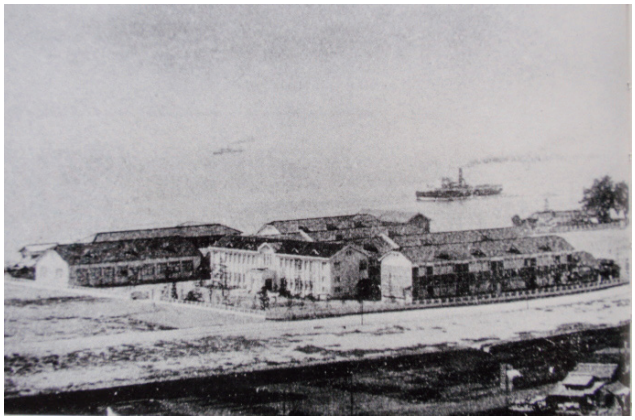
内務省からの通達によって、広島への進駐軍上陸に備えて設けられた呉地区の慰安所では、慰安婦の獲得に困難をきわめ、数が不足していた。そこで広島県警察部は尾道特飲組合へ救援要請した。要請に応えて尾道の久保遊廓から、７０名の娼妓が呉の慰安所へ派遣されたのである。

終戦の時点で、久保遊廓にどのくらいの人数の娼妓がいたのだろうか。昭和初期が尾道遊廓の最盛期だったといわれるが、そのころの娼妓数は２１０名、新開の貸座敷数は５１だったという。終戦までには数は減少していたと考えられるが、７０名は全娼妓の三分の一以上の数だったことは推測可能だ。

しかし７０名が簡単に呉の慰安所派遣に応じたのではない。昨日まで鬼畜と呼んで恐れ、また軽蔑していた米軍兵を相手にすることは娼妓たちにも強い恐怖感と恥辱感があったからであろう。県警察部は破格の条件を提示して、久保妓楼の主たちから説得させた。その条件とは、毎日白米４合のほか油、牛肉、砂糖などの特配を保証だった。この条件が功を奏して７０名の派遣人数を集めることができた。なにしろ１日１人あたり米麦で２合１勺というきびしい食料配給で、それすら遅配欠配つづきで、市民は腹をすかせてひもじい生活をしていたから、食糧保証は彼女たちの心を動かした。

広島、呉地区の慰安所は１０月７日から慰安婦７２５名で営業を開始する。１０月２０日までの米兵の登楼人数はおよそ３万５千人にのぼる。しかし性病の蔓延などを理由に、わずか３ヶ月で閉鎖される。また全国に設置された慰安施設もまた、性病の蔓延や米本国での慰安婦の人権問題に対する批判の高まりを受け７カ月で閉鎖された。

こうした尾道市民の不安と動揺の緊張下に、昭和２０年１１月３日、米軍の尾道進駐となった。進駐軍の規模はどの程度だったのか。昭和１１年尾道生まれの作家熊谷独の自伝的小説『尾道少年物語』には、尾道に進駐した米国軍は「第１０軍団第４１師団第１６２連隊将兵約一千人」で、海路来航し吉和の新浜海岸に上陸したとしている。尾道商業学校校舎を兵舎として、米軍部隊はこの日から翌昭和２１年５月に豪州軍と交代するまでのおよそ６ヶ月間尾道に駐屯したのである。



尾道商業学校、昭和１４年頃

尾道商業学校に進駐した米兵は、さっそくジープで吉和地区を走り廻って陽気に奇声をあげたり、塀の上にのぼり、通行人へガムやドロップを投げたりした。すぐにそうした行為は上層部から禁止されたらしい。

米軍は宿舎の設営を終えると、すぐに進駐軍専用のホテルと将校クラブを設けるために、いくつかの旅館や料亭を視察したが、その規模といい、その内部の様式や設備といい、一も二もなく、久保２丁目の料亭藤半が彼らの眼鏡にかない、将校用ホテル兼将校クラブに指定された。さらにクリスマス・パーティーに間に合わせて、ダンスホールを整備するよう命じられた。こうして藤半では、進駐軍の声掛かりによって、県内でもっともはやくダンスホール開設となった。しかし苦労したのは進駐軍将校たちを相手に踊るダンサーをみつけることだった。女性たちは米兵たちを恐がって、みな尻込みしたからである。つい三ヶ月前までは、鬼畜米英と呼び赤鬼と呼んで恐れていた相手であれば、無理からぬことだった。

この藤半のダンスホールを題材にして、筆者は『昼下がりのダンスホール』という小説を書いた。筆者は当時れんが坂下のスミレ幼稚園に通っていたのであるが、園児たち数人で米兵のいるダンスホールをひそかに覗きに行くというフィクションを書いている。

昭和２１年５月に米軍は尾道から退去した。中国四国地区の進駐任務が米軍から英連邦軍へ移り、尾道へは米軍と入れ替わって豪州軍が進駐してくる。

３月７日に英連邦軍３万９千人が呉に進駐して、占領業務を米軍から引き継いだ。

４月１日英連邦軍の中から、豪州軍第３４歩兵旅団のうちの第６５歩兵大隊が福山と尾道に別れてに進駐する。大隊は３ないし４の中隊から編成されて、全体で６００人から８００人規模である。福山と尾道とで､別れて駐留したとすると､尾道駐留兵は３００～４００人規模だったのではないか。中隊長はイースト大尉だった。

５月４日、尾道へ進駐した豪州軍は、軍楽隊が先導して市中行進を行っているが、悪天候で、雨中の行進となったために、出迎える市民の出足は悪かったようである。

５月７日には、豪州軍は改めて軍楽隊だけの市中行進を行った。好天とあって、本通りから駅前を巡る午後２時半から４時までの吹奏行進はたくさんの人出で賑わい、大成功をおさめた。おまけに、駅前に設けられた休憩場では、軍楽隊の隊員の労をねぎらって、土堂小学校の女生徒たちがお茶のサービスをしたことで、イースト中隊長はすこぶるご満悦だった。その市民の歓迎を喜んだイースト中隊長は、５月２４日にも軍楽隊を先頭にした軍隊行進を行っている。彼みずから指揮をして、駅前を出発して本通りから海岸通りまで市中を一周している。

６月２０日になると、市内の大松百貨店ビルの３階４四階に〈キャバレー上海〉が開店する。店内には進駐軍専用のダンスホールがつくられた。２６日からは一般市民にも開放されるが、進駐軍専用ダンスホールは、もちろん立ち入り禁止だった。

こうして尾道市民の戦後生活の風景に進駐軍兵士の姿は徐々に日常的なものとなって行く。

米軍、豪州軍が進駐してきた時、尾道駅前にはどんな光景が見られたであろうか。終戦後まもなく駅前一帯にバラック建ての粗末な小屋がつくられて、闇市場兼簡易住宅となっていた。食料や生活必需品が指定の配給所に行ってみても、商品棚はいつも空っぽだったのに、駅前のマーケットにくると、何故か何でもあった。マーケットの住人たちは朝鮮、中華民国系から国内の戦災被害者、海外からの引き揚げ者たちだった。市は不法占拠であるから立ち退きを迫ったが、朝鮮系中華民国系の住人たちは、自分たちは戦勝国民であるから、敗戦国の戦前の法律には縛られないと主張した。その主張の底には戦前に自分たちが辛酸をなめさせられた差別に対する深い怨念があったことはまぎれもない。さらに朝鮮人連合会や中華民国華僑連合会などは自警団も組織したから、市も警察も為す術がなかった。

豪州軍の軍楽隊が駅前広場の休憩所で、土堂小学校の女生徒たちからお茶のサービスを受けている時、広場の海岸寄りには闇市マーケットが雑然と広がっていたことになる。

それから４ヶ月後の昭和２１年９月、ＧＨＱ呉民事部の命令によって、マーケットは海岸沿いの市有地へ移ることになる。駅前広場を突っ切ると正面に駅前桟橋があるが、そこから東へ海岸沿いに立ち並んだ２４軒ばかりの飲み屋街がそれだった。昭和４０年１１月の市による強制撤去で取り壊されるまで存続した。

駅前の旅館鶴水館あとに、昭和２１年１１月第一劇場（昭和２２年６月に尾道松竹と改称）が竣工、開場する。駅前広場を臨む劇場に観客は行列してつめかけた。駅前広場の新しい光景だった。昭和２１年の正月以降、千日前の映画館にも渇望していた平和と開放感のもと、娯楽を求めて、尾道市民の群衆が殺到していた。

山陽日日新聞社発行の『戦後の足跡』（昭和４１年１月）から第一劇場のこけら落としの記念公演演目を列挙する。

１１月７，８日昼と夜、関西新派梅野井秀男一座。

１１月１０日夜、天光軒満月の襲名披露浪曲公演。

１１月１１日昼と夜、宝塚出身の加茂組による京都少女歌劇公演。

１２月２日昼と夜、松竹専属大歌舞伎公演。

１２月８日午後２時から広沢虎吉、梅中軒鶯童ら９人による浪曲大会。入場料５０円。

広島、呉地区の慰安所開設に協力した久保遊廓のその後について述べておく。昭和２１年１２月１日に、藤半ダンス・ホールを会場として、特殊飲食店組合広島県連合会の総会が、占

領軍の県軍政部法務官ソーマス中尉の指令によって開催された。特殊飲食店組合とは遊廓の妓楼の組合のことである。

ＧＨＱの法務官ソーマス中尉が推進しようとしていたのは娼妓の人権保護と特飲店の業態改善だった。娼妓の人権保護のために、妓楼という職場への就業は本人の自由意志でなければならないとして、たとえ親権者の承諾証があろうとも本人の同意なしに束縛することはできないということを組合に同意と宣言をさせたのである。

特飲店は業態を刷新して、娼妓による売春業から飲食物の提供を主とする業務へ移行すること、店舗を飲食店風に改装すること、売春のための客の勧誘や呼び込みは禁止すること、性病予防のための衛生設備と教育を普及させることなども組合に合意、宣言させたのである。

特飲店組合の宣言文の一部が資料に残されている。それを読んでみると、売春禁止までには踏み込まれていないものの、ＧＨＱが戦後日本に持ち込んだ職業選択の自由と人権意識が、尾道の久保遊廓を震撼させている様子をうかがうことができそうである。

「われら業者は協力一致、従来の封建的思想を一掃すると共に、新しい人権の確立と業界の刷新、衛生設備の完遂を期し、民主主義新日本の建設に邁進せんことを期す」

売春防止法がつくられるのが昭和３１年である。施行は昭和３２年４月１日、完全施行が昭和３３年４月１日からで、尾道の久保遊廓は消えることになる。

その豪州軍は尾道から昭和２４年に退去して、尾道から進駐軍の姿は消えたのである。

2．駅前の闇市

終戦直後尾道駅前には闇市があった。闇市は国際マーケットとも呼ばれていたが、市が所有する駅前広場に、海外からの引き揚げ者や戦災で焼け出された人や、困窮していた朝鮮や台湾の人たちが集まって自然と闇市を形成して、粗末な材料でバラックを建てて住みついたのがはじまりだった。日本人には市が引き揚げ者住宅という安普請の長屋を紹介するようになって、だんだん駅前から出ていったから、闇市の住民は朝鮮と台湾系の人が主になった。闇市は配給制度や物価統制に違反しているし、雑踏の中で喧嘩やスリ、かっぱらいなどの犯罪が野放しになっても、警察はまるで無力だったから、まるで一種の無法地帯でもあった。

闇市問題に悩ませられた全国各県からの強い要請があって、ＧＨＱが闇市閉鎖命令というようなものを出した。昭和２１年の９月、広島県でもＧＨＱ呉民事部の命令によって、国際マーケットは広場から立ち退きになった。

陳応雲氏という中華人が闇市マーケットの代表になり、市長と交渉して、駅前から立ち退きには応じるが、行き場のないもののために暫定的に昭和２４年３月末までの期限付きで駅前桟橋の東側にある市道の一部を使うことを認めさせた。海岸べりの市道の端を細長く分割した土地で、建てた２４軒の家は床の３分の１が市道の上に、３分の２が広島県が管轄する海上に建てられた。海に木の杭を打って，その上に床を張った。海上部分の使用は広島県によって認可された。

市道の占用許可は昭和２４年３月までという期限付きだったから、それを盾に市は期限が来ると立ち退きを迫った。しかしそんな誓約書が交わされたからいって、住人は新築したマーケットをわずか２年半で立ち退く筈がない。立ち退くといっても行き場所がないし、こんどは値段が跳ね上がった土地を買わされることになるが、そんな大金のあるはずがない。問題はずるずる引きずって、昭和４０年１１月の市による強制代執行まで延びることになる。

昭和２２年１２月の昭和天皇の尾道行幸時には、駅前に闇市はなかったことになるのである。

3．昭和天皇の尾道行幸

昭和２１年の２月から昭和天皇の戦災地巡幸がはじまる。同年１月１日に〈新日本建設に関する詔書〉が出される。その中に天皇の神性を否定した部分があるので、〈天皇の人間宣言〉と一般に通称されているものである。神性が否定されたくだりというのは、つぎの通りである。

《然レドモ朕ハ爾等（なんじら）国民ト共ニ在リ、常ニ利害ヲ同ジウシ休戚ヲ分タント欲ス。朕ト爾等国民トノ間ノ紐帯（ちゅうたい）ハ、終始相互ノ信頼ト敬愛トニ依リテ結バレ、単ナル神話ト伝説トニ依リテ生ゼルモノニ非ズ。天皇ヲ以テ現御神（あきつみかみ）トシ、且日本国民ヲ以テ他ノ民族ニ優越セル民族ニシテ、延（ひい）テ世界ヲ支配スベキ運命ヲ有ストノ架空ナル観念ニ基クモノニモ非ズ》。

その中で、自分と国民とは共に在って常に利害を同じくし、喜び悲しみも分かちあいたい、と宣言をされた昭和天皇が、戦災地の民情視察と国民の再起激励のために全国の巡幸をはじめられたのである。

昭和２２年の８月下旬に、原子爆弾の被災地である広島と中国地方の戦災都市を巡幸されるとの報が尾道にもたらされた。広島県下の戦災都市は広島であり、呉、福山だったが、ぜひ尾道にも行幸を願おうという議が尾道市会でもちあがり、９月市長と市会議長、副議長ほか数名が上京して、宮内庁に請願におもむいた。

尾道の空襲といえば、昭和１９年の４月に原田町上空で米軍機のＢ２９が一機、焼夷弾１２発を山林に投下したのが、最初で最後だった。被害は納屋の一部が焼けただけであり、尾道が戦災都市になるのをまぬがれて、終戦を迎えられたのはさいわいだった。おかげで日本遺産にも認定されたのである。

したがって戦災都市巡幸の基準から外れていたのだが、天皇がとなりの福山へ行かれるのなら、その前に尾道にお立ち寄りいただき吉和町にある海外からの引き揚げ者、戦争被災者のための応急住宅２００戸を視察していただき、住民を激励していただきたい。それから風光明媚の尾道水道に面した尾道市役所で、瀬戸内の美味い鮮魚でお昼を召し上がっていただきたい、などと熱心に陳情して、ついに宮内省の承諾を得た。

市役所で昼食としたのには理由がある。当時天皇が巡幸中に食事をされる場所は県庁か、ま

たは特別に施設の整った公立学校に限られていたからである。

その後天皇の尾道行幸は１２月８日と正式にきまると、東京から役人が尾道視察に来る。飾り付けはよろしいが提灯などは風で落ちたらいけないので、やめるように命令があり、日の丸の旗を立てることや、市民が日の丸の小旗を振ることはＧＨＱの命令で禁止とされる。

尾道駅頭の昭和天皇、昭和２２年

昭和２２年１２月８日、天気は晴れ。天皇はお召し列車で三原から尾道駅へ到着。吉和町新浜の海外からの引き揚げ者や戦争被災者が暮らす応急住宅を視察される。そこは旧暁部隊兵舎だった８棟（２，４００坪）を補修、改修した建物である。また千光寺公園から瀬戸内海の景色も展望されたとのこと。

つぎに駅前桟橋から特別仕立ての船で向島の津部田（つぶた）へ向かわれた。乗船なさろうとした時に、桟橋の周囲を取り巻いた群衆が、天皇の姿を一目見ようと規制線を越えて押し寄せたので、奉迎係をつとめていた市の学務課長は人波の圧力に抗しきれず、後ずさりして、思わず天皇のお尻にぶつかったということで、課長は大層恐縮したそうである。

ハプニングは続く。船は急ごしらえの特別船だったため、塗装がまだ完全に乾いていなかった。そのため船上で柱に触れた天皇の手がペンキだらけになった。山陽日日新聞は、世が世であれば《切腹ものだった》と書いている。

市庁舎の前で市長、市会議員、代議士たちとたくさんの市民が天皇をお迎えした。玄関口には新造した伝馬船が据えてあった。船内は工夫を凝らして生（い）け簀（す）にしてあり、アコウ、アナゴ、鯛などの鮮魚を泳がせていた。天皇が生物学に造詣が深いと宮内庁から聞いていたから、市長は瀬戸内海の高級魚を詳しく説明する。すると天皇は「ああそう」と、短い返事をなさりながら、船縁に両手をのせて熱心にご覧になる。市長たちはてっきり泳ぐ魚の動きを興味深くご覧なのだろうと思っていたところ、あとで天皇は船底に沈んでいた海藻に関心があったと分かったのだそうである。

市庁舎に入ると左側には、この日の天覧にあずかろうと郷土物産や名産品が所狭しと並べられており、それを市長が説明する。「ああそう」と短くご返事になる。

二階の議事堂に天皇の〈御座所〉がしつらえてあり、休息していただいた。ここに市内の良家から選抜された振り袖姿の令嬢たち１０名が控えていた。彼女たちは献茶の接待をうけもつ。しばしのご休息が終わると、侍従から声があって、天皇は接待役の令嬢たちに「ありがとう」と言葉をかけながら、食事の席へと移動された。

この後天皇は市庁舎前での市民による熱狂的な見送りに応えながら尾道駅へ向かい、午後一時のお召し列車で福山へ移動されたが、地元の山陽日日新聞は《あの盛大、熱烈なお見送りの人波は二度とは見られぬ規模、心からの奉迎であった》と書いた。

市長は談話を発表した。《市民は初めて人間としての天皇を親しくお迎えし、陛下をご理解申し上げたことと存じます。陸上でも海上でも陛下は非常な親しみをもって、われわれに接しられ、感激の極みである》と。

天皇には献上品として尾道の名産である蒲鉾と鯛の浜焼きが贈られた。このことから筆者は『天皇の浜焼き鯛―尾道少年の戦後絵日記から―』という小説を書いた。

4．国際マーケットの強制撤去

昭和４０年に強制撤去された国際マーケットの撤去前の画像をネットでさがしてみた。少年期から思春期にかけて一番踏切近くで育った筆者にとって、国際マーケットや福本渡船わきの雁木沿いにあった３０軒の海岸マーケット（平成１０年３月取り壊し）は筆者の日常生活圏の中に存在していた風景であり、筆者自身の過去を見ることでもあったからだ。

後者の雁木に沿って形成された海岸マーケット撤去の様子を撮影した画像は見つかった。尾道ケーブルテレビによるニュース番組からの保存記録である。しかし昭和４０年に強制撤去された駅前桟橋沿いにあった国際マーケットに関する画像は容易に発見できなかった。それでも諦めず根気よく検索する言葉を入れ替え組み替えして、『市民戦争』というテレビ・ドキュメンタリー作品の記事にたどりついた。

それは平成２０年に物故した記録映画作家土本典昭 (つちもとのりあき) が監督して昭和４０年に製作された放送時間２５分のモノクロ作品で、その年の１２月に日本テレビの番組『ノンフィクション劇場』で放映されていた。強制撤去は１１月１８日と１９日の２日間に行われたものであり、テレビ放送が１２月１２日の午後９時半だったから、現場撮影から放映までの日数はわずかに２４日間しかなかったことが分かる。

ドキュメンタリー専門の映画祭や土本典昭記念映画祭など上映された機会に作られた２つの短い解説文が見つかった。

《土本典昭（１９２８年～２００８年）が初期に手がけたテレビ・ドキュメンタリー作品。広島県尾道市の貧民街「国際マーケット」に店を開く戦後の引揚者と朝鮮人が港湾整備計画で無償退去を通告される。貧民街の住人で在日と結婚した日本人女性を中心に、市と住民のやりとりを克明に記録》

《広島県尾道市に存在した、通称「国際マーケット」。事実上は不法建築である建物に２４戸１５０人が住んでいた。強制撤去までの過程と、その当日の動きの記録。昭和２１年に３年間の期限付きで引揚者などが商店を開いたものだが、その後１６年間黙認されて、水道も引かれ、市税も徴収されていた。しかし港湾整備計画のために立ち退き通告が出された》

解説は要約されすぎて、そこからは〈市民戦争〉のタイトルから連想される法的正当性をバッ

クにした行政側の圧倒的な力に対する、法的立場の弱い住民たちによる激しい抵抗の記録、といった強いイメージは伝わらない。はたしてどれほどの抵抗を押しのけて強制撤去がなされたのだろう。

それにしても〈貧民街〉とあるのはどうか。２４戸は安普請ではあったが水道、電気、ガスも使える飲食店街として成り立ち、納税もしている住民たちだった。どこにでもある飲み屋横丁と遜色はなく、決して〈貧民街〉ではない。床の３分の１が海上に建てられた家並みは現代の豊かな都会の住宅しか知らない人の目には異様に映り、それも〈貧民街〉と呼んだ要因かも知れないが、尾崎の漁師町でごく普通に舟屋を見て暮らした筆者からすると、そうした建築は海岸の狭い土地に家を建てる住民の古くからの智恵なのだ。

平成２５年の６月のことである。筆者は『市民戦争』のビデオがどこかに収蔵されていて閲覧できないだろうか、と日頃書いているブログにつぶやいてみた。すると驚いたことに数日して故土本典昭監督の身近な人から書き込みがあって、『市民戦争』は川崎市の市民ミュージアムでビデオの閲覧ができると教えられたのである。筆者はその人の親切にお礼のメッセージを書いてから、川崎市の等々力緑地公園の中にあるミュージアムまで『市民戦争』を見に行った。

ドキュメンタリー『市民戦争』はナレーターである俳優小松方正の聞き覚えのある濁声ではじまった。冒頭は尾道市役所のまだ新しい庁舎屋上で、市の責任者が男性の市役所員多数に向かって、「いよいよ強制執行の強行は明日１１月１８日であります。全職員は職場を離れて、過去１６年間続いた駅前不法占拠問題を解決する強制執行に全力を尽くして欲しい」と檄を飛ばすシーンだった。

国際マーケット、昭和４０年、「市民戦争」より

その職員の中に、まだ若い土木課勤務の迫田さんがいる。彼は仕事とはいえども、「市と市民がまるで戦争のようにぶつかりあう代執行はやりにくい」と正直な気持ちをテレビカメラにもらす。その述懐の中にある言葉から『市民戦争』という刺激的なタイトルがついたものか。

ナレーターが国際マーケットが戦後駅前に出現した闇市から、姿を変えて暫定的に駅前桟橋東に移転することを昭和２１年市が認めてから現在にいたるまでの歴史を語る。その暫定期間は２年６ヶ月だった。飲食店を開いて生活する住民にとって、２年半は短すぎた。だが、その期限を超えて市道を占用するから、市としては「不法占拠」と呼んで、代々の市長は立ち退きを迫ってきた。

市はまた昭和３１年に住民の市道占用許可の条件を改めた。「居住者が代替地が必要な場合、市は代替地を提供するが、有償である」こと。占用地を「市が公用に供するため立ち退き通告をした場合、居住者の費用をもって、その建物を撤去し、道路を原状に復して市に返還するもの」としたのである。ということは、居住者は一円の補償もなく立ち退くことを迫られ、建物撤去の費用は請求されることになったのである。

ナレーターが事ここに至るまでの縺れた経緯を語る間に、マーケットの表と裏の映像を流す。狭い間口の店々が押し詰まるように立ち並び、大衆食堂、赤のれん、トリスバー、中華食堂と読める看板が重なり合って映る。

マーケットの裏側からの映像は海上にくい打ちしてその上に床を張った特徴的な建物の姿である。いかにもバラックというか安普請だが、こびりついた生活の匂いがある。

国際マーケット、海側から撮影、昭和３０年

いよいよ強制代執行が決定される。住民たちはそれに反対して、期間延長を求めたり、代替住宅の斡旋を要求したりと代わる代わる連日市長に抗議、要求するため市庁へ押しかけた。市長は面談に応じようとはしない。住民は土木課の窓口で「死ねということか」と口々に叫ぶ。

居住者の中の、ある夫婦をテレビカメラが紹介する。飲食店を居抜きで３年前に買って、岡山から尾道へやってきた崔夫婦である。夫は北朝鮮系らしく家の壁に金日成の写真を飾っている。妻は日本人だということである。

崔夫婦の、とくに妻の表情や言動を国際マーケット住民の代表としてテレビカメラが捉えてゆく。市側の代表としては土木課の迫田さんをカメラが交互に追う。こうして『市民戦争』は強制執行の朝を迎える。

その１１月１８日の朝、不安そうな表情をした住民たちがマーケットの前の道路に集まる。その数は数十人か。重苦しげな空気がかれらを包む。となり同士がぼそぼそ言葉を交わすが、すでに負け戦を覚悟しているのか、いさましいシュプレヒコールは飛び出さない。寒そうに両腕で胸を抱える者もいる。家から出てきて仲間に加わろうとする二人の若い女性の後ろ姿をカ

メラが映す。彼女たちは白いシャツを着ているが、それぞれ背中の真ん中に黒い漢字一字を入れている。一人は〈怨〉の字を、他の一人は〈死〉の一字を入れている。おそらくほかにも同様のシャツを着た住民はいるのだろう。

代執行を実行する関係者たちは数台のバスに分乗して国際マーケット近くへ集結する。全員が揃いの作業服を着て手袋をし、金属製ヘルメットをかぶっている。

ナレーターが語る。尾道駅前の国際マーケットには２４戸のバラック建築があり、居住者は１５０人だった。それを取り囲んだ市の職員は３００人、その背後にはさらに警察機動隊３００人が配備された、と。不測の事態に備えたのだろうが、なんというものものしい警戒態勢だろう。

代執行の開始が告げられて、作業員たちは一斉に作業にかかる。まずは屋内から住民の排除と家具類の運び出しである。

ここではじめて住民たちの抵抗が始まった。作業員たちへバケツから水を掛けたり、家の入り口に立ちはだかって侵入を阻止しようとする。もみあい、こぜりあいになる。男たちの怒号や女たちの罵り声、絶叫、悲鳴が渦のように湧き上がる。

テレビカメラの前に立ちはだかり激しく興奮して、「これが日本か。これが日本の法律か」とたどたどしい日本語で叫ぶ痩せぎすの高齢者がいる。岡山から応援に駆けつけてきた崔さんの父親である。「居住者は一銭の補償もなしに立ち退きを迫られた上に、あろうことか建物撤去の費用は居住者に請求されるんじゃ。こんな理不尽が、人間として許されることじゃありゃせん」と拳を振り上げる。

しかし、多勢に無勢。反対住民の数倍とも見える代執行側の人数に抵抗者はたちまち排除されてしまう。

崔さんの店の入り口では、妻が立って作業員に告げる姿がある。

「もう抵抗はしませんけえ。どうか家具や食器を割れたり毀れたりせんように注意して運び出してもらいたい。うちらが大切に買い集めた財産ですけえ。運びだしたところで、これからどこへ持って行けるんか、なんのあてもありゃあせんけど」

彼女の沈着冷静な声は悲痛なものを秘めている。家の中へとなだれ込む作業員たちをにらみつける彼女の目に無念の思いが満ちている。

あまりにあっけない住民の敗北である。やはり〈市民戦争〉はテレビ製作側が視聴者の注目を集めるために付けた誇大なタイトルだ。とてものことに〈市民戦争〉と呼べる規模の騒動ではなかった。どこかの労組が組合員を動員したとか、学生や一般の市民が支援したとか、そんな気配はない。それは〈市民戦争〉とはほど遠い孤立無援で見捨てられた住民たちの小さな抵抗だった。

戦後の闇市の残滓を強制的に撤去しつつ高度成長期を直進する日本社会の一断面だった。「もはや戦後ではない」と経済白書が書いたのが昭和３１年のこと。３４年には「世紀の御成婚」

があった。東海道新幹線が開通したのが、オリンピック開幕直前の３９年１０月だった。その翌年、こうした「もはや戦後ではない」という社会変貌の裏側で、戦後の顔を持った尾道駅前の国際マーケットが姿を消したのである。

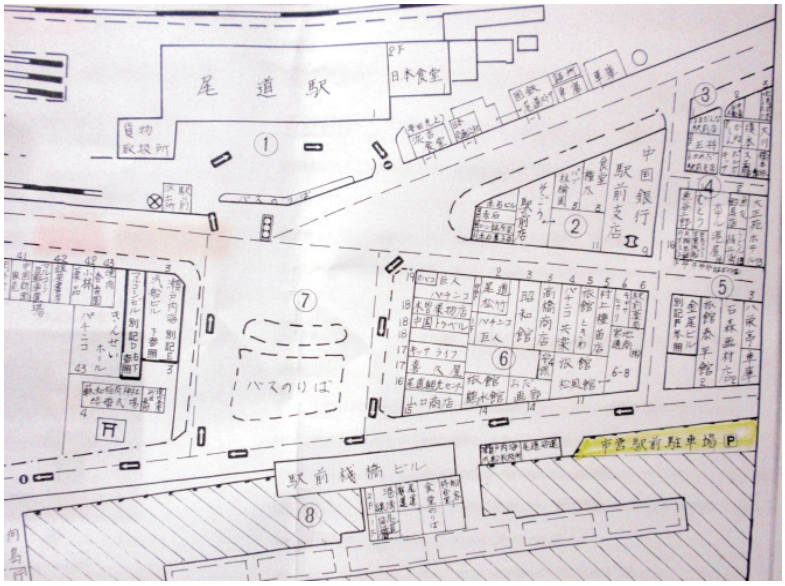
店舗兼住居を失った住民は、その後どうなったのか。「尾道郊外の母子寮とバラックに収容された。市は希望者からの仮設住宅の申し込みを受け付ける」と『市民戦争』のナレーターが言っている。崔さん夫婦は、市内の朝鮮人連合会事務所に身を寄せたという。

映像の中で目についたものがあった。マーケット前の道路の反対側に立ち並ぶ三軒の家だった。作業員たちがの背後に映っているのは〈関西ペイント〉の看板のある家と商売が不明な工事用シートで目隠しされた家、そして旅館らしい二階の窓格子に特徴のある家だった。

いまひとつ印象が強かったものがある。家具類の搬出が終了した崔さんの家のがらんとした暗い屋内にカメラが入った時、窓枠の外に作業員のヘルメット越しにカメラがとらえた屋根付き浮き桟橋と海の一部の映像だった。

ビデオに残された国際マーケットの映像は見捨てがたいものばかりで、筆者は繰り返しビデオを４回見た。店々の看板、家々の姿、空から写された屋根、屋根と桟橋に横付けになった小形船舶、壊されていく家屋、廃墟になった街。もはや二度と見ることのない街であり、筆者の過去の時間もそこには流れていたのである。

国際マーケットが建っていた場所を地図上で確認しておく。強制撤去の３年前である昭和３７年に「地図の (有) 日本出版社」が発行した『戸別記入住宅地図６２尾道市』を見る。



戸別記入住宅地図６２尾道市（地図の (有) 日本出版社　昭和３７年発行）

尾道駅からまっすぐ南へ進むと駅前桟橋ビルがある。その前の道を左へ（東へ）曲がる。
地図に「市営駅前駐車場」とある細長い区域が国際マーケットの場所である。地図発行当時に

は、もちろんマーケットは存在していたが、マーケットの２４戸は図示されることなく市が土地の使用計画をしている「駅前駐車場」として記載している。

平成２６年５月、筆者は尾道駅に降り立った。駅舎を出ると正面には尾道水道と向島が見える。まっすぐ広場を渡って海岸の芝生をめざして歩いた。信号を渡り、植え込みに沿って左に曲がると、数軒の商店がある。商店の前には駅前から続く道路がまっすぐ海岸通りに伸びて行く。右手前方数十メートルのところに新しく造り直された雁木の石段が波に洗われている。そこにかつて戦後闇市時代から生き延びたバラック建ての３０軒が平成１０年の撤去まで廃屋同然になりながら存在した。そのうち最後まで店を続けていた３軒、食堂とお茶屋と食品店は右手にある芝生の中に市が建てたこぢんまりした長屋に入居している。

筆者はあらためて左側に並んだ商店のうちの東端の３軒をよく見た。塗料店、画材店としもた屋である。ちかくに付近の略地図があるから、それで確かめると、しもた屋は以前は旅館だったことが分かった。手書きの略地図はかなり古いものらしい。

この３軒はまちがいなく『市民戦争』の中で代執行のヘルメットの波の上にカメラがとらえていた建物のあった場所なのだ。〈関西ペイント〉の看板があったのがそこの塗料店だ。旅館風家屋の二階に見えた特徴のある窓格子は、いまもそこにある。３軒の真ん中にあった工事用シートで隠されていた店はこの画材店だったのだろう。

するといま歩いている道路上に国際マーケットがあったのだ。そして芝生の公園となっている場所は海だったということになる。芝生を踏みながら海岸の端まで歩いた。

筆者は『怨の文字入りシャツの女』という小説を書いた。主人公の中学時代に同級だった少女がいて、台湾人の父と日本人の母を持っていた。あわい恋心があって、少女の一家が海岸の国際マーケットに食堂を開くと何度となく食事に行った。彼は尾道を離れ関西の大学へ行き、卒業すると就職して東京へ。そのとき昭和４０年の代執行があった。後年ビデオの中の怨の文字の入ったシャツの女性がその少女だったのではないか、と面影を追うという物語である。

おわりに

戦後７１年、戦災をまぬかれた尾道は美しい景観や町並み、歴史的建造物を保存して日本遺産の認定も受けている。その一方で駅前の再開発によって、風景は変わり、さらに駅舎建て替えの計画もあるらしい。そうした変化の中で、戦後の駅前風景と市民生活のいくばくかを記憶に留めてほしいと考えて、学生たちに講義をしている。

参考文献、資料

『心のふるさとシリーズ第四集　戦後の足跡』昭和４７年（山陽日日新聞社）

『心のふるさとシリーズ第六集　戦後の足跡』昭和４９年（山陽日日新聞社）

高坪富美子（１９８８）「占領軍進駐当時の呉市における社会福祉の一断面」

jwu.repo.nii.ac.jp から 28-29.1988.takatsubo.pdf

田代国次郎（１９９０）「戦後日本の売春問題―１―広島県内の売春問題を中心に」

jairo.nii.ac.jp/0057/00001229/en

『ノンフィクション劇場　市民戦争』昭和四十年（日本テレビ）

写真「尾道商業高校」出典：「ふるさとの想い出写真集　尾道」昭和５４年（国書刊行会）

写真「尾道駅頭の昭和天皇」出典：同上

藤原 靖也（ふじわら のぶや）　大阪市立大学商学部卒業。株式会社日本政策金融公庫勤務を経て神戸大学大学院経営学研究科博士課程に入学。博士（経営学）の学位を取得し現職。
専門分野は管理会計システムと組織行動。

［研究論文］

Management Control "Package" and Employees' Perception: A Case Study

コントロール・パッケージと従業員の認知

～ケース・スタディを通した検討～

尾道市立大学経済情報学部経済情報学科講師
藤原 靖也

概要

本論文の目的は，マネジメント・コントロール・システム（MCS）の効果的な活用方法について，コントロール・パッケージ論のフレームワークを援用して論じることである。近年の管理会計研究では，経営戦略の効果的な実現のためには，複数のコントロール手段がどのように関連して特定の効果を生起させているのかを解明することがより重要であることを強調している。一方，経験的研究はコントロール手段の複雑な相互作用を考慮することが困難であることもあり，少数にとどまっている。とりわけ，そのような相互作用と従業員の逆機能的な認知・行動との関係性を検証している文献はほとんどない。本論文では，実際に MCS の活用形態により組織を機能不全に至らしめたケースを対象として検討した。本ケース・スタディの結果は，総体としてのコントロールシステムの効果性と従業員の認知との関係性を経験的研究から指摘している点で既存の研究に対して新しい知見を付加しているものといえよう。

キーワード

コントロール・パッケージ，逆機能，従業員の認知，ケース・スタディ

1 はじめに

本論文の目的は，マネジメント・コントロール・システム（以下，「MCS」とする。）の効果的な活用方法について，従業員の認知に着目して探索的に検討することである。

Anthony and Govindarajan(2007) によれば，MCS とは戦略実施のためにマネジャーが組織構成員に影響を及ぼすプロセスであるとされる。とりわけ近年の諸研究は，MCS を効果的に機能させるためには複数のコントロール手段を組み合わせ適切に活用する必要があることを強調している (e.g. Simons,1995)。とりわけ戦略的不確実性が高まっている経営環境下では，多様なコントロール手段がどのように相互作用を引き起こしているのかを勘案することがより重要であるためである。この研究領域を構成する理論は，コントロール・パッケージ論と呼ばれる (e.g. Malmi and Brown,2008)。

当該理論によれば，まずコントロールの要素にミッション・ステートメントに代表される理念や避けるべきリスクを表す規定も含める必要があると言及される。それは，当該諸規定が組織戦略を決定づける側面を持つためである。そのうえでマネジャーが組織構成員に影響を及ぼすためには予算管理・業績評価システムなどの管理会計システムも一方で必要であり，他方でエンパワーメントやイノベーションを促進させるシステムも必要であると言及されている (e.g. Malmi and Brown,2008; Simons,1995; Tessier and Otley,2012)。

一方，コントロール・パッケージ論が主張するコントロールの類型は複数であることに加えて複雑な相互作用を同時的に考慮することがが困難であるという課題も一因となり，当該研究群は概念的な検討に傾斜していることに加えて，現在も経験的研究は少数である[1]。とりわけ，Tessier and Otley(2012) が概念的に提唱したコントロール・パッケージと従業員の認知との関係性を経験的に検討している研究はほとんどない。

本論文では，以上の問題意識に基づき，ケース・スタディを用いてコントロール・パッケージと従業員の認知に焦点を合わせて検討を行った。ケース・スタディの結果は，総体としてのコントロール・パッケージを効果的に機能させるためには，内包する個々のコントロール要素それぞれについて従業員の認知が良好となることが決定的に重要であることを示している。とくに，拘束的な性格を有するコントロールシステムを放棄するのではなく従業員の認知を納得する方向に導きつつ正しく運用することが重要であること，自由裁量を与える際にも従業員の認知が行き過ぎ逆機能的行動を起こさないように運用する必要性が示唆されている。本論文の結果は，従業員の認知が MCS の効果性に影響を与えていることを示している点で既存の研究に対して新たな知見を付与している。

本論文の構成は以下の通りである。第 2 章では先行研究のレビューを通して残された検討課題を示している。第 3 章ではケース研究の概要を示している。第 4 章ではケース研究の結果を踏まえた議論を行い，第 5 章では本論文の結果と今後の研究の方向性を指摘している。

[1] とくに定量的研究は Widener(2007) などがあるものの少数である。ただし近年，定性的研究は Abernethy and Chua(1996) や窪田ほか (2014) など増加傾向にある。

2 先行研究のレビュー

2.1 マネジメントコントロールシステム概念とコントロール・パッケージ論

Anthony and Govindarajan(2007) によれば，MCS とは戦略実施のためにマネジャーが組織構成員に影響を及ぼすプロセスであるとされる。そのために管理会計研究において従来着目されてきたのは予算管理システム・業績評価システムなどの数値を用いた管理手法であり，現在も重要なトピックとして研究が続いている。

ただし，MCS は人間が介在して初めて機能するものであり，各種の手法が人間行動に与える影響を看過しては有効な MCS のあり方を議論することはできないと言及されてきた (e.g. Hopwood,1976)。さらに，戦略は意図された戦略のみならず意図せざる戦略―創発戦略―があり，それは組織構成員のインターラクションの結果として生じうると指摘されてきた (e.g. Mintzberg and Waters,1985)。

これらの指摘を受け，Simons(1995) は MCS のあり方を議論するにあたって従来の概念を拡張し，数値による管理手法以外のコントロール手段を含めて，4 つの要素を主に勘案する必要があることを概念的に示した。それらとは，（1）理念によるコントロール (belief control)，（2）境界のコントロール (boundary control)，（3）診断的コントロールシステム (diagnostic control systems) および（4）インターラクティブ・コントロールシステム (interactive control systems) である。

第 1 の理念によるコントロールは，企業理念に代表される望ましい組織の姿を表すものである。理念によるコントロールは，組織構成員を同一の方向に向けて行動することを後押しする効果があると言及されている。第 2 の境界のコントロールは組織として行ってはいけない事項を明示する規則などによるコントロールを指す。この類型のコントロールは組織構成員が向かってはいけない行動を規定する点で拘束するコントロール手段であると指摘される。第 3 の診断的コントロールシステムは従来の管理会計研究が主眼としてきたコントロールシステムであり，予算管理・業績管理システムに代表される数値を用いた管理 (management by numbers) である。この類型のコントロールは組織構成員に組織としての指針を指示し，その方向に向かって行動を起こさせるという点において拘束的な役割を果たすと言及される。そして第 4 のインターラクティブ・コントロールシステムは組織構成員間の対話などの相互作用を指すコントロールの類型である。この類型のコントロールシステムは組織構成員のストレスの低下やモチベーションの向上とともに創発戦略を誘発させるという意味において戦略実施を後押しする役割を果たす類型のシステムであると言及されている。

これらを同時に勘案する重要性に関する議論は，管理会計領域において 1990 年代以降急速に発展してきた。たとえば Abernethy and Chua(1996) は，病院を対象としたケース・スタディを通してこれらのバランスを取ることが組織戦略の実施において重要であることを指摘し，これらを総合して「コントロール・パッケージ」と呼称した。また Malmi and Brown(2008) も，

戦略実施においては多様なコントロール手段をパッケージとして捉え，適切に組み合わせて活用することが必要であると過去 40 年間の管理会計研究のレビュー結果から結論付けている。

すなわち管理会計研究においては，予算管理・業績評価システムなども一方で必要であるもののそれだけでは足りず，組織構成員に働きかけエンパワーメントを促進させるコントロール・システムの必要性が認識されてきたという経緯がある。

2.2 コントロール・パッケージと組織構成員の認知

Tessier and Otley(2012) は，上述の多様なコントロール手段を組み合わせることにより，MCS が有効に機能するためには，組織構成員の認知が重要であると概念的に示している。つまりコントロール手段だけではなくそれらを組み合わせたならば組織構成員がどのように認知するのかをマネジメント層が認識したうえで適切なコントロール手段を採用することが MCS を形骸化させず効果的に機能する 1 つの要因であると指摘している。また Tessier and Otley(2012) は従業員の認知を重要な変数の 1 つとして考慮することで，MCS の有効性がどのコントロール手段の相互作用によってもたらされているのかを明らかにできるとも言及している。この指摘は，MCS が組織構成員に対して影響を与えるプロセスであると捉えるならば，Simons(1995) の概念を拡張する重要な指摘である。

2.3 残された課題

しかし，Simons(1995) のフレームワークも Tessier and Otley(2012) のフレームワークも概念的な検討にとどまっており，定量的・定性的研究共に不足している。とくに従業員の認知が MCS の効果性にいかほどの影響を与えるのかについても検証されていないのが現状である。そこで，本論文では Simons(1995) および Tessier and Otley(2012) のフレームワークに基づき，従業員の認知に焦点を当て，多様なコントロール手段の組み合わせを考慮するにあたり従業員の認知が MCS の効果性にいかほどの影響を与えるのかをケース・スタディにより検討する。

3 ケース・スタディ

3.1 対象企業の概要

本ケース・スタディの対象は主に近畿地方において 2000 年代に育児雑誌を提供する事業を営み，従業員数 10 人程度を抱えていた A 社である。当該企業はトップ・マネジメントの下にデザインを統括する部門と営業を統括する部門の 2 つを有していた。

A 社は，トップ・マネジメントがとくに育児に関する情報媒体が地方においてほとんどないことを認識していたことを契機として設立されたものである。その雑誌は初版の 3000 部に関しては完売する状態になり，増版が決定するなど，対象顧客のニーズを十分に認識・分析したうえで事業展開を行っていた。その結果として，売上高も順調に推移し軌道に乗る途上であっ

た。

しかしながら,「(従業員と私との) パワーバランスが崩れた」(A 社元社長に対するインタビューより抜粋，括弧内は著者加筆。）ことが顕著に表れたことで事業展開が困難になり，廃業に追い込まれたという経緯がある。以下,各コントロールシステムのあり方についてトップ・マネジメントに対するインタビュー結果を交えて叙述することで，従業員の認知と MCS との関係について検討する基礎を提供する。なお，トップ・マネジメントに対するインタビューは２０１５年9月３０日から２０１５年１０月１６日にわたり，複数回行った。

3.2　理念によるコントロール

A 社は，育児に関する情報がほとんどない地方で子育てを行う女性に対し，その地方の育児にとって有益な情報を提供することで良い育児環境を整え社会貢献を行うという企業理念を取っていた。その理念に沿うように，トップ・マネジメントは戦略として（1）ターゲット層を育児に専念する女性に対すること，（2）有益な育児情報をできるだけ多く提供すること，を掲げて事業を展開していた。

そのため A 社では，有益な育児情報を提供するためには各従業員の自由な活動が必要であると考えていた。それゆえ情報収集に関する権限を従業員に委譲し，ある程度大きな自由裁量権を各従業員に与えていた。また，デザインに関してもデザインのアイデアが重要であると考えていた。そのため，デザインに関してもある程度の決定権を各デザイナーに委ね，最終的にトップ・マネジメントの承認を得る形を採用していた。

3.3　境界のコントロール

一方，A 社の企業理念や企業戦略の達成のためには，（1）女性向けのデザインとすること，（2）育児情報に特化すること，（3）できるだけ無駄を省いた効率的な業務とすること，を制約条件として提示していた。特に女性向け育児雑誌の事業であることもあり，デザイナーが提示してきた雑誌デザインが女性向けのデザインではなかった場合，当該デザインを承認せず，やり直すことを命じるようにしていた。

3.4　診断的コントロールシステム

A 社では業績責任はトップ・マネジメントにあるという認識の下で，予算―実績差異が生じた場合も，従業員にその業績責任は直接的には問わず，業績評価にも反映させない仕組みを採用していた。それは，各デザイナーが自由な発想のもとで創造的に活動を行ってほしいという想いからであった。雑誌事業において制約条件となるページ数のみを指示することで，予算を超過しないようにする形態を採用していた。

3.5 インターラクティブコントロールシステム

そのため，インターラクティブコントロールシステムの運用に当たっては各部門・各デザイ

ナーのコミュニケーション・相互調整を重視していた。育児情報の収集に当たっても，各自の調査に委ね，そのうちどれを採用すべきかについても大部分収集した従業員の裁量に任せられていた。またデザインに当たっても，最終の決定権限はトップ・マネジメントにあったものの最初は責任者と他のデザイナーとの相互調整に委ねられていたことがある。

3.6 従業員の認知・行動

上述のように権限の大部分がトップ・マネジメントではなく下部のデザイナーや営業担当者に委譲されており，また業績責任は負わせない構造となっていた。このことが，従業員の逆機能的な認知や行動を引き起こすこととなった。

第 1 に，営業担当は例えばアフターサービスに関して E メールで済むような事項も直接現場に赴き謝罪するという行動が「正しい」行動であると認知し，現在すべき業務を放棄し直接取材現場に赴くという非効率的な行動を起こしていた。

第 2 に，デザインを各デザイナーの自由裁量に任せていたことが，トップ・マネジメントと各デザイナーのデザインに関する志向の不一致を引き起こしていた。トップ・マネジメントとしては戦略の達成のためには女性のための「柔らかく，かわいい」デザインが必要であると認識していた。ただし各デザイナーが男性であるということもあり，各デザイナーは男性向け雑誌のような「かっこいい」デザインを志向していた。そのため，雑誌のデザインを管轄する各デザイナー及び責任者は各自の相互調整の結果として創作したデザインが認められないことに対して著しい不満を知覚するようになっていった。それが続くにつれ，デザイナーは不信感を強め，自らのデザインを押し通そうとする行動を取るようになっていった。

その結果として，各従業員はトップ・マネジメントの望む組織戦略の達成のために必要な行動を採らないようになっていった。そればかりではなく，各従業員が結束してトップ・マネジメントへ抵抗するようになっていった。このことが，トップ・マネジメントにとっては組織が「空中分解した」（トップ・マネジメントへのインタビュー結果より抜粋。）原因であると回答している。

4 考察

Simons(1995) および Tessier and Otley(2012) は，「陰と陽 (“Yin and Yang”)」というたとえを用いて各コントロールシステムのバランスを図る重要性について言及していた。また管理会計研究においては，戦略達成を図りつつ従業員に影響を及ぼすためには，自由裁量に任せる性格を有するコントロールシステムと，拘束的・統制的な性格を有するコントロールシステムとのバランスをいかにとるかが重要であることも概念的に言及されていた (e.g. Anthony and Govindarajan,2007; Merchant and Van der Stede,2012)。上述のケースの結果を踏まえると，従業員の認知と MCS との関係について以下のことが言える。

4.1　理念によるコントロールに関する従業員の認知

まず，理念を各従業員に浸透させるためには，Simons(1995) はミッション・ステートメントを明確に定めることが重要であると指摘していた。しかしながら，ケース結果からは，当該理念によるコントロールに偏ることは従業員の認知･行動を逆機能的にすることが読み取れる。

つまり，従業員の認知を逆機能的にしないように，また逆機能的な行動を採らせないようにするためにも，理念によるコントロールだけでは MCS の効果的な活用に関しては不十分であることが示唆されている。

4.2　境界のコントロールに関する従業員の認知の重要性

次に，境界のコントロールに関しては，Tessier and Otley(2012) が言及するように，してはいけない行動を認識させることにより従業員の認知が逆機能的にならないような組織構造を作り上げるシステムが必要であることが示唆されている。とりわけデザインに関して逆機能的な認知・行動を作り上げていたのは従業員の境界のコントロールに関するトップ・マネジメントの認識の甘さであることがケース・スタディの結果から読み取れる。

そのため，自らの願望のみを追求させないためにも，境界のコントロールが必要であり，従業員の認知いかんによっては MCS が崩壊してしまうことが示唆されているといえよう。

4.3　診断的コントロールシステムの必要性

さらに，上述の不十分さを補完するためのシステムとして診断的コントロールシステムの必要性が示唆されている。管理会計研究においては，従来からマネジメント層の考える効果的な組織戦略の遂行方法を数値的な目標に代表させることによって従業員の認知をそろえることが重要であることが指摘されてきたことと整合的である (e.g. Hopwood,1976)。

本ケース・スタディの結果から読み取れることの１つとして，理念によるコントロール，そして境界のコントロールがどの程度達成できているのかについて数値を用いて示されていなかったことがある。財務指標あるいは非財務指標を用いた管理会計システムは，戦略遂行の結果を示し改善に結び付けるツールであることに鑑みると，診断的コントロールシステムが認知に影響を及ぼすことを認識したうえで，知的労働者であるデザイナーの意見を汲みながら診断的コントロールシステムを機能させる必要があったことも示唆されている。

4.4　インターラクティブコントロールシステムのあり方

ここで議論となるのがインターラクティブコントロールシステムのあり方である。インターラクティブコントロールシステムは従業員のエンパワーメントを促進させるためにもイノベーションを促進するためにも必要であることが指摘されてきた重要なシステムの１つである（経験的研究としてはたとえば Adler and Chen(2011)，Hall(2008) などを参照されたい)。また，目標の設定にあたってもとくにデザイナーのような高度な専門的知識が必要である従

業員にとってはインターラクティブな目標設定が有益であると言及される (e.g. Eldenberg et al,2010)。

どこまでを自由裁量あるいは相互調整に委ね，どこまでを制約するのかは管理会計研究において難しい課題であり研究が続いている領域である。しかし，この類型のコントロールシステムが行き過ぎると，トップ・マネジメントが従業員の認知・行動に影響を及ぼすことができずやはり MCS は機能不全に陥ることが示唆されているといえる。

4.5 インプリケーション

以上をまとめると，本ケース・スタディの結果は Tessier and Otley(2012) の概念的な枠組みとおおむね首尾一貫している。4 つのコントロールの類型を用いて戦略を効果的に実現していくためにはそれぞれのシステムに関する従業員の認知が適切でなければいけないことが示唆されている。つまり，（1）拘束的な性格を有するコントロールシステムを放棄するのではなく良好な従業員の認知をもって正しく運用することが重要であること，（2）自由裁量を与える際にも適切な従業員の認知に導くことができるように設計・運用する必要性が示唆されている。

さらに，Tessier and Otley(2012) は全体としての MCS のあり方に関して従業員の認知が重要であると言及している一方で，本ケース・スタディの結果は，どのコントロールの類型に対しても従業員の認知が MCS の効果性に重要な影響を及ぼすことを示している点で既存の研究蓄積に対して新たな知見を付与しているといえる。

5 おわりに

本論文の目的は，Simons(1995) およびそれを拡張した Tessier and Otley(2012) の言説に依拠し，MCS と従業員の認知の関係性について経験的研究を通して検討することであった。本論文の結果は，MCS を構成する各要素それぞれの効果性について従業員の認知を考慮することが必要であること，そのようにしなければ MCS は効果的に機能しないことをケース・スタディの結果を通して示している。

コントロール・パッケージ論では，1 つのパッケージに対する従業員の認知が重要であると概念的には説明されてきたものの，必ずしも経験的に研究されてきたわけではなかった。本論文の結果はケース・スタディを通して新しい知見を提供するものであり，とくに Tessier and Otley(2012) のフレームワークに対して新たな観点を提供している。

なお，本論文は 1 企業を対象とした探索的ケース・スタディの結果であるため，より当該研究群に関する知見を深化させるためには複数ケース・スタディの結果，あるいは従業員の認知のアンケート調査の結果，および定量的研究の結果を待つ必要があると思われる。また，今回は組織規模などを考慮していないため，規模や部門数の違いがいかなる違いをもたらすのかについては検討の範囲外である。これらは，以後の課題としたい。

謝辞

本論文は，2015 年度尾道市立大学「教養講座」の内容を再編したものである。執筆に当たり，浅田雅也氏（A 社元代表取締役社長）には「教養講座」に直接ご登壇頂くとともに論文の執筆に当たっても格段のご高配を賜った。ここに記して感謝申し上げたい。

参考文献

窪田祐一・近藤隆史・伊藤正隆・西居豪・中川優 .2014.「グローバル企業におけるテンションとコントロール・パッケージ : 3 社の比較ケース」『原価計算研究』38(2): 39-51.

Abernethy, M. A. and W. F. Chua. 1996. A Field Study of Control System "Redesign": The Impact of Institutional Processes on Strategic Choice. Contemporary Accounting Research 13 (2): 569–606.

Adler, P.S. and C.X. Chen. 2011. Combining Creativity and Control: Understanding Individual Motivation in Large-Scale Collaborative Creativity. Accounting, Organizations and Society 36 (2): 63–85.

Anthony, R.N. and V. Govindarajan. 2007. Management Control Systems (12th Ed.). McGraw-Hill, Irwin.

Eldenburg, L., N. Soderstrom, V. Willis and A. Wu. 2010. Behavioral Changes Following the Collaborative Development of an Accounting Information System. Accounting, Organizations and Society 35 (2): 222–237.

Hall, M. 2008. The Effect of Comprehensive Performance Measurement Systems on Role Clarity, Psychological Empowerment and Managerial Performance. Accounting, Organizations and Society 33 (2/3): 141-163.

Hopwood, A.G. 1976. Accounting and Human Behaviour. Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall.

Malmi, T. and D.A. Brown. 2008. Management Control Systems as a Package—Opportunities, Challenges and Research Directions. Management Accounting Research 19 (4): 287–300.

Merchant, K.A. and W.A. Van der Stede. 2012. Management Control Systems: Performance Measurement, Evaluation and Incentives (3rd ed.). Prentice-Hall: Financial Times.

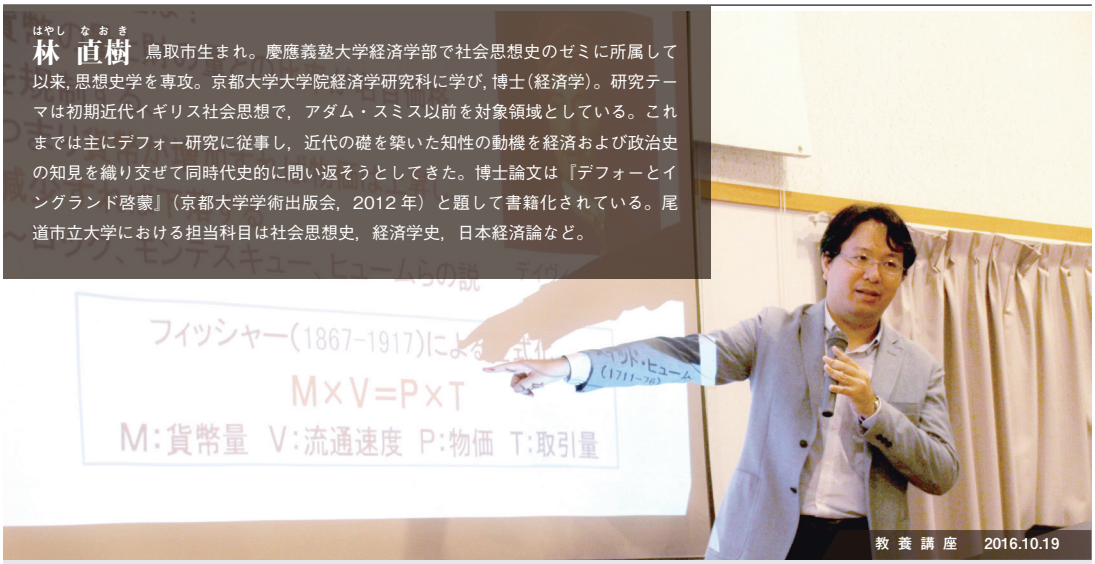
Mintzberg, H. and J.A. Waters. 1985. Of Strategies, Deliberate and Emergent. Strategic Management Journal 6 (3): 257-272.

Simons, R. 1995. Levers of Control: How Managers Use Innovative Control Systems to Drive Strategic Renewal. Boston, MA: Harvard Business School Press.（中村元一，浦島 史恵，黒田哲彦訳 .1998.『ハーバード流「21 世紀経営」—4 つのコントロール・レバー』産能大学出版部 .）

Tessier, S. and D. Otley. 2012. A Conceptual Development of Simons' Levers of Control Framework. Management Accounting Research 23 (3): 171-185.

Widener, S. K. 2007. An Empirical Analysis of the Levers of Control Framework. Accounting, Organizations and Society 32 (7/8): 757 – 788.

林 直樹（はやし なおき） 鳥取市生まれ。慶應義塾大学経済学部で社会思想史のゼミに所属して以来，思想史学を専攻。京都大学大学院経済学研究科に学び，博士（経済学）。研究テーマは初期近代イギリス社会思想で，アダム・スミス以前を対象領域としている。これまでは主にデフォー研究に従事し，近代の礎を築いた知性の動機を経済および政治史の知見を織り交ぜて同時代史的に問い返そうとしてきた。博士論文は『デフォーとイングランド啓蒙』（京都大学学術出版会，2012 年）と題して書籍化されている。尾道市立大学における担当科目は社会思想史，経済学史，日本経済論など。



教 養 講 座　2016.10.19

［研究論文］

Torajiro Takagaki and Adam Smith

高垣寅次郎とアダム・スミス
～増補版～

尾道市立大学経済情報学部経済情報学科准教授
林 直樹

概要

本稿は，尾道市立大学教養講座の一環として，2016 年 10 月 19 日（水），しまなみ交流館（尾道市東御所町）大会議室において行った講演内容をまとめ，これに若干の増補を施したものである。尾道市出身で，特に金融に関する研究業績が顕著な経済学者として知られる高垣寅次郎は，東京商科大学助教授時代に『アダム・スミス生誕二百年記念論集』（1923 年刊）を編纂していた。この論集に収録された高垣自身のスミス論を手掛かりとしながら，高垣にとってスミスとはどのような立場の経済学者であったのか，そしてスミスの経済学説の可能性はどの辺りにあったのかについて，考えてみたい。

キーワード

高垣寅次郎，アダム・スミス，ミューア家の肖像画，貨幣理論

1．「見えない手」の発見

アダム・スミスの略歴を確認するところから，話を始めよう。

しばしば「経済学の父」と称されるスミス（Adam Smith）は，1723 年，スコットランド東部の港町カーコーディ（Kirkcaldy）に生まれた。ブリテン連合王国（イギリス）の北方領域を占めるスコットランドは，かつては南のイングランドと幾度となく争った独立王国であり，首都エディンバラには長きにわたって独自の議会が置かれていた。スミスが誕生するわずか 15 年ほど前の 1707 年にスコットランド議会がロンドンのイングランド議会に吸収合併され，これによってようやく連合王国が形成されたのである。スミスは大西洋貿易を通じて急速に成長しつつあった西部の港町グラスゴーの大学に進み，1740 年に卒業したあと，イングランドのオクスフォード大学に留学した（1744 年に人文修士号を取得）。

その後 1751 年に母校（グラスゴー大学）の論理学教授に迎えられることとなるが，翌 1752 年に道徳哲学教授へ転任した。最初の著書『道徳感情論』*The Theory of Moral Sentiments* は 1759 年に出版され，好評を博している。1764 年，貴族の家庭教師として大陸旅行に随行するため教授職を辞し，約 3 年の月日をフランスなどで過ごした。帰国後は故郷やロンドンに滞在して新たな著書の執筆を進め，1776 年に経済学説史上の不朽の古典『国富論（諸国民の富）』*An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations* を公刊する。それは，アメリカ植民地の独立が宣言される数か月前のことであった。

図 1 「国富論の著者」
（ケイ画，1790 年）

『国富論』で特に植民地貿易をめぐる本国の保護主義的政策を「重商主義（mercantile system）」と呼び，鋭く批判したスミスは，その後もアメリカ情勢の展開に関心を示し続けた。1778 年からはエディンバラを本拠地とする関税委員の職に就き，経済政策の立案に自ら携わるようになった。晩年にはグラスゴー大学名誉総長に選出され，再びキャンパスの土を踏んでいる。1790 年に没した。

スミスは『道徳感情論』と『国富論』のそれぞれで「見えない手（an invisible hand）」というキーワードを用いている。まず『道徳感情論』の用例から見ておこう。第 4 部第 1 編には以下のような叙述が見られる。

生まれつきの利己性と貪欲にもかかわらず，富裕な人々は自分たちのすべての改良の成果を貧乏な人々とともに分割するのであって，たとえ彼らは，自分たちだけの便宜を目指そうとも［中略］そうなのである。彼らは，見えない手に導かれて，大地がそのすべての住民のあいだで平等な部分に分割されていた場合になされただろうとほぼ同一の生活必需品の分配を

行うのであり，こうして，それを意図することなく，それを知ることなしに，社会の利益をおしすすめ，種の増殖に対する手段を提供するのである。

（水田訳下 24 頁，一部を改めた）

続いて『国富論』を見てみよう。第 4 編第 2 章に次のような一節がある。

彼は，一般に公共の利益を推進しようと意図してもいないし，どれほど推進しているかを知っているわけでもない。国外の勤労よりは国内の勤労を支えることを選ぶことによって，彼はただ彼自身の安全だけを意図しているのであり，またその勤労を，その生産物が最大の価値をもつようなしかたで方向づけることによって，彼はただ彼自身の儲け［＝利潤］だけを意図しているのである。そして彼はこの場合にも，他の多くの場合と同様に，見えない手に導かれて，彼の意図のなかにまったくなかった目的を推進するようになるのである。［中略］自分自身の利益を追求することによって，彼はしばしば，実際に社会の利益を推進しようとする場合よりも効果的に，それを推進する。

（杉山訳二 303 頁，一部を改めた）

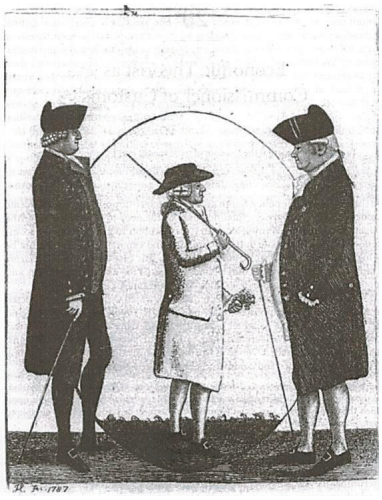


図 2 「税関に向かうスミス」（ケイ画，1787 年）

右手のステッキは下ろさずに肩に掛け
左手で（路傍の）花を握りしめている

ここでの「彼」とは資力のある一般的な個人を意味する。いずれの用例でも，個人または諸個人は自らの私的な利益の増進のみを目的として行動し，社会の富を豊かにすることなど決して意図していないにもかかわらず，結果的に公共的な富裕の増進にも貢献することになるという，いわゆる「意図せざる結果」の論理の貫徹がうかがえるだろう。

この論理の性格を，『国富論』の文脈に沿ってもう少し厳密に押さえておきたい。個人は自らの資本の投資先を，一定の投資に対して期待できる利潤の大きさ（利潤率）と投資の安全性，これら二つを掛け合わせて決めるため，利潤率がほぼ同等なら，安全性の高い国内でまず投資が進み，国外投資，特に国際事情の変化に振り回されがちな外国貿易への投資は後回しになるはずだと，スミスは考えた。こうした順序で投資が進めば，危険回避の確率が向上するために資本のロスは最も少なくなり，したがって最も効率的に富が増進する。言い換えれば，投資を政策的に規制したり誘導したりせず，自由に任せておきさえすれば，より具体的には，重商主義政策によって植民地貿易を統制して貿易部門の利潤率を不自然に引き上げるようなことさえなければ，個人は自らの取得できる利潤をより大きく，かつ，より確実にするために，自然的な投資順序に準拠するという最も合理的な選択を行うはずである。

そのことがひいては一国のみならず諸国の富の産出総量を最もすみやかに増大させ，平等分配可能な財，とりわけ生活必需品の量を増加させる。この一連の過程はしかし，誰一人としてあらかじめ意図したものではないのである。これこそが，スミスの発見した「見えない手」の働きであった。

2．ミューア家の肖像画

アダム・スミスの肖像画は，挿絵画家ケイ（John Kay, 1742-1826）の手になるものを含めていくつか残されているが，中でも最もよく知られているものが「ミューア家の肖像画（Muir Portrait）」である。実寸は縦 77.9，横 64.5 センチメートル，画家は不詳，現在はスコットランド国立肖像館に所蔵されている。もともとカーコーディのミューア家が私蔵していたためにこの呼び名があるが，19 世紀末にロマネスないしローマニース（Romanes）家が買い取り，その後 1945 年になって上記肖像館に寄贈したと記録にある。つまり 20 世紀半ばまで，この肖像画は私人の所有物だった。

では，この肖像画が日本に初めて紹介されたのはいつであり，紹介者は誰だったのか。経済学者の大河内一男が次のような興味深い推測を行っている。

このミューア家のポートレイトを最初に日本に伝えたのは，おそらく当時の東京商科大学教授高垣寅次郎博士が大正十二［1923］年の「アダム・スミス生誕二百年論集」（「商学論集記念号」）の扉に掲げたものがそれだろうと思います。

（大河内「アダム・スミスのポートレイトについて」『続アダム・スミスの味』7-8 頁）

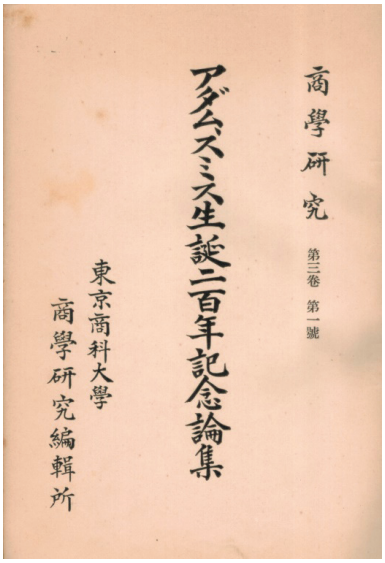


図 3 『スミス記念論集』表紙

スミスの「生誕二百年」に当たる 1923 年には，日本の複数の大学で記念行事が催された。東京商科大学でも，当時（正確には）助教授だった若き高垣が編纂人を務めるかたちで，同大学紀要『商学研究』の一冊として『アダム・スミス生誕二百年記念論集』が刊行された。この『論集』の巻頭に，下記のような高垣の解説とともに「ミューア家の肖像画」が掲げられたのである。

ここに掲げたる半身画像［中略］原油絵の作者は詳ならず。永くカーコーディのミュアと称する家に伝わり，今は現にエヂンバラーなるゼー・エチ・ローマニースの私蔵にかかるものにして，これはすなわちその複作である。これは明らかにタッシーのメダリオンに基き，スミスの死後描かれたるものなりと推定されておるけれども，容貌の上にも，特にまたそれよ

り受くる人としての印象の上にも，両者には若干の相違なきを得ない。

（一部旧字体を新字体に改めた）

次章で見るように，高垣は 20 代後半に欧米留学を経験しているから，おそらくは彼自身がイギリス滞在時にロマネス家を訪ねて写真に収めたものを『論集』に掲載したのだろう。大河内が付言するところによれば，私蔵物だった「このポートレイトが写真として公表されたのは，外国より日本の方がはるかに早かったと言わなければなりますまい」(前掲書 8 頁)。なお,「タッシーのメダリオン」とは，塑像作家タッシー（James Tassie, 1735-99）が製作した晩年のスミスの横顔の円形浮彫のことで，かつらを被ったものと付けたものの二種類が，いずれもスコットランド国立肖像館に残されている。

高垣が看取した，肖像画とメダリオンとの「若干の相違」については，後年の大河内も同様の感を抱いたようである。「『国富論』の著者として想像されがちな，落ちついた，福々しいスミスとはかなりかけはなれた人物が画面には強いタッチでかかれています」（前掲書 5 頁）。

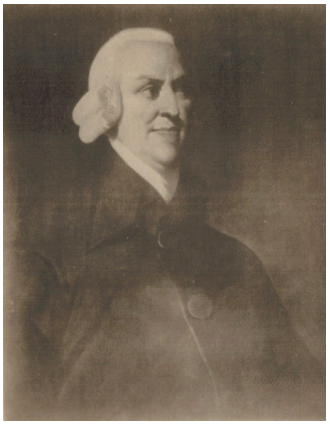


図 4　ミューア家の肖像画

図 5　タッシーのメダリオン（1787 年作）

3．高垣寅次郎と尾道短期大学

図 6　高垣寅次郎肖像と直筆署名

ここで，高垣寅次郎の略歴を確認しておこう。

高垣は 1890 年に尾道で生まれ，尾道商業学校を経て，1911 年に神戸高等商業学校（現・神戸大学）を，その後東京に拠点を移し，1913 年に東京高等商業学校を，それぞれ卒業した。銀行勤務ののち，1915 年に東京高等商業学校助教授に任じられ，貨幣論・銀行論を講じた。翌年から 1919 年まで欧米留学に従事し，アメリカ合衆国ハーヴァード大学で経済心理学に邂逅。1924 年には東京高等商業学校改め東京商科大学（現・一橋大学）の教授に就任し，1936 年にやむを得ず辞職するまでその任にあった。戦後は紅陵（拓殖）大学や成城大

学の学長を務めるかたわら，1950 年から 82 年まで 30 年以上にわたり金融学会会長職にあるなど，学界の重鎮として活躍を続けた。1985 年に永眠する。

尾道市立大学の前身に当たる尾道短期大学は，高垣と深い関わりを有している。

『尾道短期大学二十年史』が詳らかにするように，戦後間もない 1946 年に開学した尾道市立女子専門学校を母体に，1950 年，国文科のみの短大が発足したものの，当初から経営難は見えていた。そこで新たに経済科の増設を検討するも，これには「教授陣の編成にかなりの困難が伴った」ため（『二十年史』23 頁），専任教員の不足を非常勤講師で補う形式をとり，翌 1951 年，ようやく経済科の開設に漕ぎ着けたのであった。かくして，神戸大学教授の花戸竜蔵が財政学，同じく坂本弥三郎が経済原論，中央大学教授の片山金章が商法，そして紅陵大学学長職にあった高垣が金融論担当の非常勤講師として，尾道短期大学経済科の教壇に自ら立つことになった。この四人はいずれも尾道商業学校の卒業生で（『尾商九十周年史要』372-73 頁），当時の学生新聞『尾道大学新聞』第 28 号（1956 年 7 月 1 日）が語るように，彼らが「郷土愛の立場から全面的に支援を与えられたので，地方大学としては稀にみる内容の充実と特徴をもちえた」のであった。なかでも高垣の存在は大きく，経済科増設に際して尾道市から協力を求められた折に「自らスタッフの一員に加わることを申し出た」のはもちろんのこと，その後も「尾道短大のため陰に陽に援助」を惜しまなかったという（『尾道短期大学 50 年史』42-43 頁）。

科目		単位	1週の授業時間			
			1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
専門教育科目	経済原論(1)	2		集		
	〃 (2)	2			集	
	一般経済史	2				2
	日本経済史	2			2	
	経済政策	2				2
	金融論	2			集	
	財政学	2			集	
	国際経済論	2			集	
	経済学特殊講義	(2)				
	商業通論	2	2			
	工業概論	2			2	
	経営学(1)	2		2		
	〃 (2)	2				2
	簿記(1)	2	2			
	〃 (2)	2		2		
	会計学	2			2	
専門教育科目	会計監査論	a(2)				2
	原価計算論	2			2	
	経営学特殊講義	(2)			2	
	商品学	2	1	1		
	統計学	2		2		
	民法	2		2		
	商法	2			集	
	社会法	b(2)				2
	産業心理	b(2)				2
	商業数学(1)	(2)	1	1		
	〃 (2)	(1)				1
	商業英語	(1)			1	
	職業指導（教職希望者だけ）	a ((4))				2

図 7　1962 年度経済科専門教育科目

試みに，1962 年度の『学生便覧』に掲載されている「学科目単位配当表」（経済科）を見てみよう。専門教育科目のうち，「経済原論」（現在のミクロ･マクロ経済学および経済学史に相当）や「金融論」「財政学」「商法」などの欄に「集」の印が付されているが，これは集中講義の略記である。高垣・花戸・坂本・片山の各講師は，みな集中講義を開講していたことが分かる。

尾道短大における高垣とは，どのような教師だったのだろうか。片鱗をうかがい知ることができるのが，1957 年 5 月 25 日発行の『尾道大学新聞』第 32 号に見える「理論成立の過程も

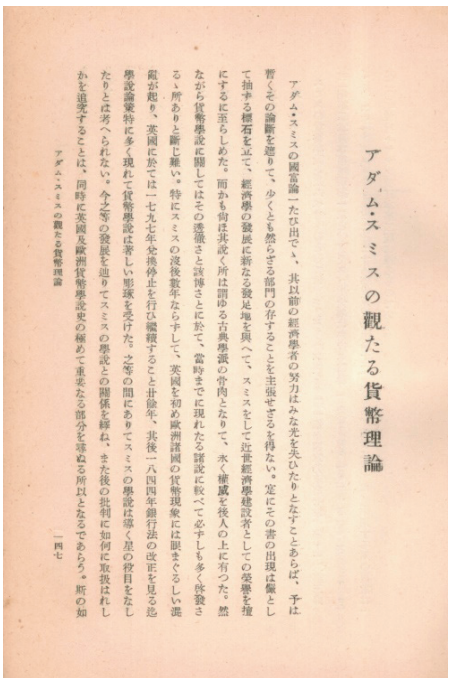
みよ　高垣博士と懇談会」と題された記事である。興味深いものなので全文を引用する。

経済研究部では去る五月十七日から四日間，経二［＝経済科二年］の金融論の集中講義の為に来学された本学講師，一橋大学名誉教授，経済学博士高垣寅次郎先生を囲んだ懇談会を五月二十一日午後二時から約一時間旧図書室で開いた。席上，高垣博士は「とにかく勉強してほしい。その為に本を多く読むことである。又ケインズ経済学や，マルクス理論などが多く研究されているが，それらについても何故その様な理論が成立するのかという点についてもっと研究すべきである。」と語られた。

経済理論を学ぶうえでは，理論を成り立たせる背景事情ないし前提条件を確実に把握することが不可欠だということだろう。高垣は，短大の久山田キャンパス移転が完了した 1962 年頃を境にして，実質的に教壇から退く。これに伴い，金融論の集中講義は早稲田大学教授の堀家文吉郎の手に委ねられた。姓こそ違うが，堀家は高垣の「長男」である（『50 年史』42 頁）。そして堀家が 10 年間講義を受け持ったのち，1973 年度に金融論の専任教員が着任したことで，高垣父子二代にわたる非常勤講師職はその役目を全うした。

4．高垣の観たスミス貨幣理論

ここからは，高垣寅次郎が先の『アダム・スミス生誕二百年記念論集』に寄稿した論考「アダム・スミスの観たる貨幣理論」（1923 年）にもとづき，高垣がスミスの経済学説，特に貨幣学説をどう理解し，またどう批判したかを，なるべく平易に解説したい。


アダム・スミスの觀たる貨幣理論

アダム・スミスの國富論一たび出でゝ、其以前の經濟學者の努力はみな光を失ひたりとなすことあらば、予は暫くその論斷を遮りて、少くとも然らざる部門の存することを主張せざるを得ない。定にその書の出現は儼として抽ずる標石を立て、經濟學の發展に新なる發足地を與へて、スミスをして近世經濟學建設者としての榮譽を擔にするに至らしめた。而かも尙ほ其說く所は謂ゆる古典學派の骨肉となりて、永く權威を後人の上に有つた。然ながら貨幣學說に關してはその透徹さと該博さとに於て、當時までに現れたる諸說に較べて必ずしも多く啓發さるゝ所ありと斷じ難い。特にスミスの沒後數年ならずして、英國を初め歐洲諸國の貨幣現象には眼まぐるしい混亂が起り、英國に於ては一七九七年兌換停止を行ひ繼續すること廿餘年、其後一八四四年銀行法の改正を見る迄學說論叢特に多く現れて貨幣學說は著しい彫琢を受けた。之等の間にありてスミスの學說は導く星の役目をなしたりとは考へられない。今之等の發展を辿りてスミスの學說との關係を繹ね、また後の批判に如何に取扱はれしかを追究することは、同時に英國及歐洲貨幣學說史の極めて重要なる部分を尋ぬる所以となるであらう。斯の如

図 8　論考の冒頭

ちなみに，高垣が『国富論』の他に原典として用いているのは，1895 年に発見されたスミス『法学講義』ノート *Lectures on Jurisprudence* のみである（『道徳感情論』には明示的言及がなされない）。このノートは，グラスゴー大学でスミスの講義を聴講した学生が筆記したもので，今日では「B ノート」（LJB）として知られている。より分量の多い「A ノート」（LJA）の発見は 1958 年（公刊は 1978 年）のことだから，この時点の高垣には利用不可能だった。A・B ともに今では邦訳で読むことができる。B の相対的な短さは，スミスが教授職を辞任する直前に行われた変則的講義であったためと推定される（水田訳『法学講義』岩波文庫「解説」512-13 頁）。

高垣は，貨幣の起源をめぐるスミス説を吟味するところから始める。スミスによれば，人間の自然的交換性向から分業が発生し，交換経済が成立する。その後，みなが不便を感じないようにするためとして，誰もが交換を拒まない金銀貨幣が導入された。金銀が貨幣にふさわしいのは，それが性質の保存にすぐれ，損傷に強く加工も容易で，刻印を付しかつ形状の規格化を施しさえすれば，信用と秤量しやすさを担保できるからである。このスミス説に対し，交換経済成立後に貨幣が導入されたとする順序は時代錯誤に他ならないと，高垣は言う。交換より前に金銀の一方的移転（略奪や貢納や贈与）が繰り返され，そうした中で徐々に金銀が貨幣として一般化したと捉えるほうが史実に近いと，高垣は主張する。

続いて，財（高垣は「貨物」と記す）の交換価値と価格に関するスミス説が検討される。スミスは，すべての財の究極的な価値尺度は労働であると唱えた。ただし価格には二種類が存在する。一方は真実価格と呼ばれるもので，労働量で計測される。これは賃金・利潤・地代それぞれの自然歩合（率）の合算で表現される自然価格に近似する。他方は名目価格と呼ばれ，貨幣量で計測される。これは需給メカニズムにしたがって上下変動する市場価格に近似するものである。以上のスミス説に対し，高垣は次の疑問を投げかける。第一に，質的に異なる二つの労働の区別が曖昧になってはいないか。高垣によれば，労働には費用労働すなわち価値の形成に関わるものと，支配労働すなわち価値の作用に関わるものとがあり，労働と価値の関係性をめぐるこれら二面は峻別されねばならない。費用労働と支配労働は等価とは限らないのである。第二に，財の価値は費用以前に効用から形成されるのではないか。これは 19 世紀以降のヨーロッパ大陸において発展した，特にオーストリア学派の主観主義的立場をふまえた問いである。

高垣は，スミス説と貨幣数量説との関係をも批判的検討の俎上に載せる。ごく簡潔に表現すれば，貨幣数量説とは市場における貨幣量と財（やサービス）の量との比率が名目価格を規制する，つまり貨幣が増加すれば物価は上昇し，減少すれば下落すると唱える説である。20 世紀前半に活躍したアメリカ合衆国の経済学者フィッシャー（Irving Fisher, 1867-1947）の定式化にしたがえば，M（money）を貨幣量，V（velocity）を貨幣流通速度，P を物価（price），T（trade）を財取引量としたとき，

$$M \times V = P \times T$$

という簡明な等式(交換方程式)が成り立つ。この式が意味するのは，仮にVとTが一定ならば，Mの増減がPを増減させるということである。この説の初期における提唱者として，ロック(John Locke, 1632-1704)，モンテスキュー（Charles-Louis de Secondat, Baron de La Brède et de Montesquieu, 1689-1755)，ヒューム（David Hume, 1711-76）らの名を高垣は挙げている。ヒュームは，親友スミスに多大な刺激を与え続けたことで知られる哲学者・歴史家である。同郷エディンバラ出身の画家ラムジー(Allan Ramsay, 1713-84)が描いた肖像画が，スコットランド国立美術館に収蔵されている。

図 9　ヒューム肖像
（ラムジー画，1754 年）

貨幣数量説は，実体経済，すなわち財（やサービス）同士の交換がなされる経済において，貨幣の果たす役割はヴェール（覆い）にとどまると見る。例えばヒュームは『政治論集』（1752年）中の論考「利子について」で，次のように述べた。

> *貨幣量のすべての増大は，労働と財貨の価格を高める以外の結果を生み出さない。しかも，この変化さえほとんど名目的な変化にすぎない。こうした変化に向かう過程において，貨幣の増加は，勤労を刺激することにより，いくらかの影響を与えるかもしれない。しかし，金銀の新しい豊富さに適合して物価が落ち着いた後には，それはいかなる影響も与えないのである。［中略］貨幣は主として擬制的な価値をもつものであって，その多少は，一国民を国内で考察すれば，重要な影響をまったく及ぼさない。*
>
> （田中訳 56 頁，一部を改めた）

先のフィッシャーの交換方程式に即して言えば，財の取引量を表すTは当該経済における総生産の水準をあわせて表すものである。Mの増減は，このTの増減に（長い目で見れば）いっさい関わりを持たず，したがって実体経済に影響を及ぼすことはないと仮定されている。

ところがスミスの唱えたところによれば，貨幣もまた財の一種に他ならない。スミスによれば，金銀貨幣の価格はそこに反映される労働量によるのであって，しかもその価格は，鉱山事情といった供給サイドの条件に左右される。高垣はこれを「貨物貨幣説」と呼び，スミスは貨幣の名目性，すなわち流通手段としての本質を不徹底なかたちでしか説いていないと論評した。流通手段としての貨幣に素材は無関係であるから，供給サイドの制約を被りがちな金銀に固執しなくても，紙であれ何であれ，本来はかまわないはずである。スミスは『国富論』で確かに重商主義を排撃した。イギリスの重商主義が植民地貿易の保護に傾いたのは，この政策思想が金銀を貨幣の真の素材と見なす重金・金属主義の変種であったと同時に，貨幣を富自体とすら同一視したためであった。結果として，鉱山を有さないイギリスのような国では，輸入を抑制し輸出を促進することによってしか，より多くの富すなわち金銀を蓄積することはできないと主張された。これに対してスミスにおける富とは財の同義語に他ならず，それはおしなべて，フローのみならず過去からのストックの生みの親でもあるところの労働を，価値の究極的尺度であり源泉であると見なしていた。この点で，スミスは当時の主流思想としての重商主義を確実に越え出ており，だからこそ『国富論』は，アメリカ独立戦争の只中における強靭な時勢批判の書となりえた。にもかかわらず，貨幣をあくまで財の範疇に収め，純粋なヴェールとして定義しようとはしなかった。それこそがスミスの特徴であると，高垣は批評する。

現代の標準的なマクロ経済理論では，ケインズ（John Maynard Keynes, 1883-1946）著『雇用・利子および貨幣の一般理論』（1936 年）の流動性選好説をふまえて，貨幣（＝流動性）にも他の財と同様に需要と供給を想定する。そして貨幣需給を均衡させる価格（または「流動性を手放すことに対する報酬」塩野谷訳 165 頁）に相当するものが金利であると見る。貨幣供給が増大すれば金利は低下し，金利の減少関数としての民間投資が促進され，総生産は増加す

る。貨幣供給一定の制約のもとで貨幣需要が増加すれば金利は上昇し，逆に投資が抑制されて総生産は減少する。貨幣数量説が貨幣量と物価の関係のみを問題にしたのに対し，ケインズ説を引き継いだ現代の標準学説は，貨幣需給の変化が金利の上下変動を介して実体経済に影響を及ぼすと見なす。これは一面で，貨幣を財の一種として捉え続けたアダム・スミスへの還流である。高垣が「貨物貨幣説」と呼ぶスミスの貨幣学説が，貨幣を純然たる流通手段と断定しなかったからこそ，現代理論との連続性を保持しえたと言ってよい。このスミス説の思わぬ新しさまたは可能性に，1923 年当時の高垣はどこまで気づいていただろうか。

5．まとめ

「アダム・スミスの観たる貨幣理論」の結論部分で，高垣はスミスの経済学説を次のように総括する。

> *社会現象に関する学説はその時代を背景として観るにおいて，その意義と興味とを加うべきとともに，貨幣理論も当時の経済事情等特に貨幣現象より大なる影響を受けて生まれる。［中略］思うに国富論の一書こそは，当時一般に信ぜられたるマーカンティリズムの思想を駁撃し，世の妄想を打破するを以て第一義としたるべきは，その書に題して諸国民の富の性質及び成因に関する研究となせるに徴しても，その真意を察することを得る。貨幣をもって貨物の一種と観つつも，なおそれ自らが富にあらず，富を流通する手段に外ならずと観ることの理由はここに尋ね得る。金属主義の極致を脱すること一歩にして，またその埒内に踏止まることがすなわちスミスの立場であり，彼の貨幣理論の特徴はここに萌すと観らるべきである。*
>
> （177-78 頁，一部旧字体を新字体に改めた）

ケインズやマルクスの経済学説をその成立事情に即して考察せよ，とは，すでに見たように，後年の高垣が尾道短期大学で述べたことである。あらゆる経済学説，あるいはより広く社会学説は，それらを生んだ時代の諸状況をつぶさに検討することを通じてこそ，その「意義」と「興味」をより深く看取することができる。若き高垣も，スミス『国富論』をそれが置かれた時代の文脈の中で読もうとした。そのうえで，不徹底な貨幣ヴェール観をあえて糾弾はしなかった。国民のあいだで「マーカンティリズム」すなわち重商主義が支配的であった時代状況の誤謬を明察しながら，それを超然と切り捨てることによってではなく，むしろそれを背負って歩もうとしたスミスの姿勢，すなわち「金属主義の極致を脱すること一歩にして，またその埒内に踏止まる」立場に，高垣は共感さえ覚えていたように思われる。

尾道における高垣の母校，尾道商業学校の後身に当たる広島県立尾道商業高等学校が創立 90 周年を記念してまとめた史要『玉の浦辺による船の』（1978 年）に，高垣寅次郎の揮毫が掲載されている。「汝の荷車を星に繋げよ」とは，過去から連綿と受け継がれてきたものを放棄することなく牽引し続けながら，しかもそれを回顧にではなく将来展望に繋げようとする，

若き日以来の高垣の哲学ないし思想を端的に指し示すものなのではないだろうか。誰もが，それぞれの時代において，それぞれの荷車を引いている。その制約のもとで目標は卑近ではなく遠大に定め，それを見据えて着実に一歩ずつすすんでいくしかない，ということであろう。

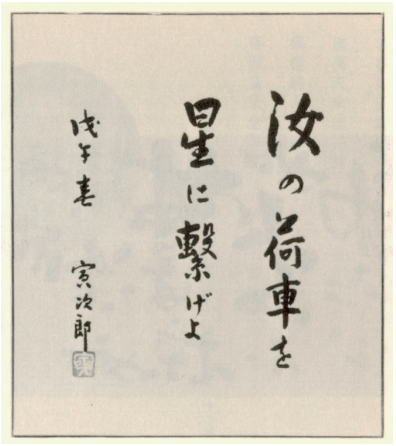


図 10　揮毫

図版出典

図 1：Ross, *The Life of Adam Smith*, p. 336.

図 2：*Ibid*., p. 337.

図 3：『アダム・スミス生誕二百年記念論集』

図 4：同上書

図 5：Ross, *op. cit*., pp. ii, 452.

図 6：『高垣寅次郎先生還暦記念論文集』

図 7：尾道短期大学『学生便覧（1962 年度）』6-7 頁

図 8：『アダム・スミス生誕二百年記念論集』147 頁

図 9：Ross, *op. cit*., Plate c.

図 10：『玉の浦辺による船の』400 頁

参考文献

Ross, I. S. 2010. *The Life of Adam Smith*, 2nd ed. Oxford University Press.

Hume, D. 1752. *Political Discourses*. Edinburgh. 田中秀夫訳『政治論集』京都大学学術出版会 , 2010.

Keynes, J. M. [1936] 1973. *The General Theory of Employment, Interest and Money*. Macmillan. 塩野谷祐一訳『雇用・利子および貨幣の一般理論』東洋経済新報社 , 1995.

Smith, A. [1759] 1976. *The Theory of Moral Sentiments*, ed. D. D. Raphael and A. L. Macfie. Clarendon Press. 水田洋訳『道徳感情論（上下）』岩波文庫 , 2003.

── . [1762-3]1978. *Lectures on Jurisprudence*, ed. R. L. Meek, D. D. Raphael and P. G. Stein. Clarendon Press.［A ノート］アダム・スミスの会監修，水田洋・篠原久・只腰親和・前田俊文訳『法学講義 1762 ～ 1763』名古屋大学出版会 , 2012.［B ノート］水田洋訳『法学講義』岩波文庫 , 2005.

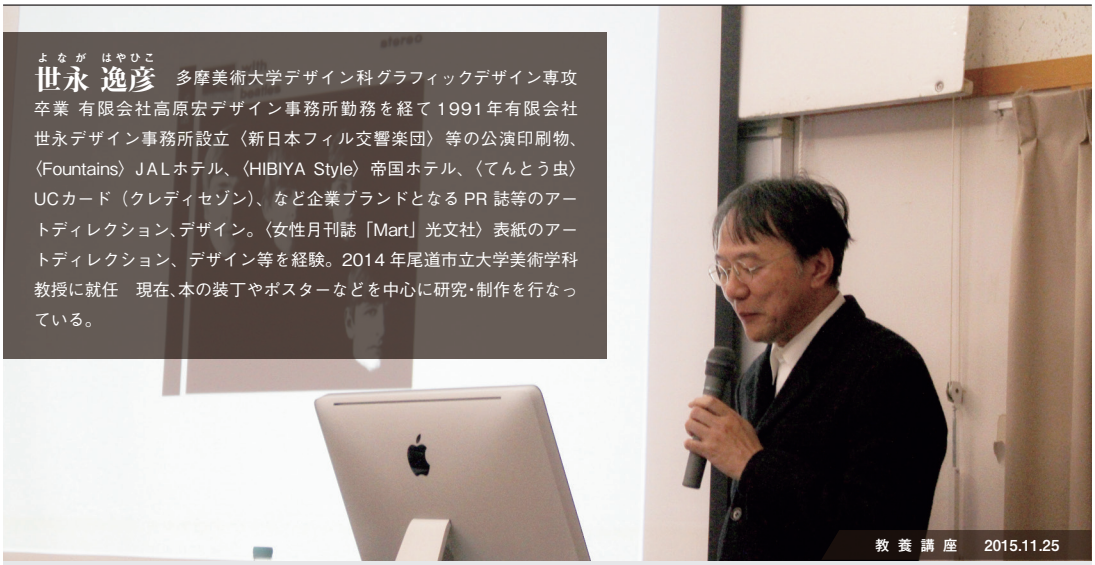
── . [1776] 1976. *An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations*, ed. R. H. Campbell, A. S. Skinner and W. B. Todd. 2 vols. Clarendon Press. 水田洋監訳・杉山忠平訳『国富論（一二三四）』岩波文庫 , 2000-01.

アダム・スミスの会／大河内一男編 1984.『続アダム・スミスの味』東京大学出版会 .

尾商同窓会 1978.『玉の浦辺による船の　尾商創立九十周年史要』尾商同窓会 .

尾道短期大学編 1963.『学生便覧』尾道短期大学 .

―― 1968.『尾道短期大学二十年史』尾道短期大学 .
―― 1996.『尾道短期大学 50 年史』尾道短期大学 .
笹井明編 1956-57.『尾道大学新聞』尾道大学新聞部 .
新庄博・高橋泰蔵・塩野谷九十九編 1952.『高垣寅次郎先生還暦記念論文集（第 28 号）』同文館 .
東京商科大学商学研究編輯所編 1923.『アダム・スミス生誕二百年記念論集』同文館 .



世永 逸彦（よながはやひこ）　多摩美術大学デザイン科グラフィックデザイン専攻卒業 有限会社高原宏デザイン事務所勤務を経て1991年有限会社世永デザイン事務所設立〈新日本フィル交響楽団〉等の公演印刷物、〈Fountains〉JALホテル、〈HIBIYA Style〉帝国ホテル、〈てんとう虫〉UCカード（クレディセゾン）、など企業ブランドとなるPR誌等のアートディレクション、デザイン。〈女性月刊誌「Mart」光文社〉表紙のアートディレクション、デザイン等を経験。2014年尾道市立大学美術学科教授に就任　現在、本の装丁やポスターなどを中心に研究・制作を行なっている。

教養講座　2015.11.25

［研究要旨］

ビートルズに学ぶデザイン、広告、PR。

～『ビートルズのデザイン』序章　要旨論文～

尾道市立大学芸術文化学部美術学科デザインコース教授
世永 逸彦

1962年のレコードデビューから約半世紀の間、この様な創造的で多様なバンドはもう登場して来ないだろうと言われて久しい。多くのファンはその奇蹟は2度と起こらないだろう思っている。私も同感である。彼らが活躍した60年代を知る人。また、私の様に各メンバーがソロ活動期に入ってから聴き始めた人。彼らの影響で音楽を始めて、またその次世代からの影響で、掘り起こす様に聴き始めた人もいることだろう。ビートルズのファンは世代別に分類される現状がある。彼らの音楽の素晴らしさは私が今更代弁するまでも無いが、今回私の伝えたい部分とは、彼らのもう一つの側面である。レコードジャケットを筆頭に素晴らしく斬新なデザインを生み出した現実があり、それらの販売や、プロモーションには、様々な創意工夫がなされていた。それらのビジュアルのひとつひとつが音楽と相まって、現在でも魅力的な存在として輝いている。今となってしまえば当たり前なことも多々含まれるのだが、あの時代に登場した印象的なモノや出来事にスポットを当て、コンセプトやその背景も含めて、彼らの造り上げたデザイン（*1）をいくつかの項目を上げて確認してみよう。

（*1）ここで述べるデザインとは、アウトプットされたカタチだけを指すのではなく、それ以前の戦略やコンセプトなどの考え方全般の意味でも使用している。

1章　ネーミングのセンス

ジョンレノンの子供の頃の愛読書はルイス・キャロルの「不思議の国のアリス」。他にもエドワード・リア、ディラン・トーマス、アーサー・コナン・ドイルなどの影響も見られると言われている。

韻を踏むとか、造語、ダブルミーニングの手法を好んで使用した。

彼らの好きなロックンロールのアイドルのひとつ、Buddy Holly & Crickets。活躍した期間は 1950 年代末期から実質 2 年間。しかし 60 年代のロックバンドに多大な影響を与え、70 年代以降のミュージシャンにも影響を見出すことができる。ビートルズのバンド名の発想はこの Buddy Holly & Crickets（Crickets = コオロギ）から、昆虫の名前にしようと考えたと伝えられている。

The Beetles = ×　Beat = ○　The Beatles = ○（造語）
（Beat の文字に大切な意味が、鼓動、リズムの「ビート」のビートルズ。）

ネーミング例として、もうひとつ上げると、アルバムタイトル「ラバー・ソウル」1965 年（ゴム靴底とゴムの魂の 2 重の意味）。同じく英国出身の R. ストーンズが、米国黒人のブルースシンガーに「プラステック・ソウル」と揶揄されると、メンバーのひとりポールは「ぼくらはラバー・ソウル」だよと答えたという逸話がある。パロディ感覚で造語を使用した。

Rubber Sole = ×　Soul = ○　Rubber Soul = ○（造語）

1968 年アップル・コープス・リミテッドを設立。著作権の管理、ブティック経営、音楽、アート、映像分野のアーティストの発掘、新しくビジネス展開するビートルスの会社を設立。レーベルデザインは、ルネ・マグリットのリンゴ（グラニー・スミス・アップル）の絵から発想。アルファベットの A から、子供が最初に学ぶ単語が Apple。新しいビジネスの最初にふさわしい会社名であると考えた。

図 1　アップル・コープス・リミテッドのレーベルデザイン。

2章　ヘアー・スタイル

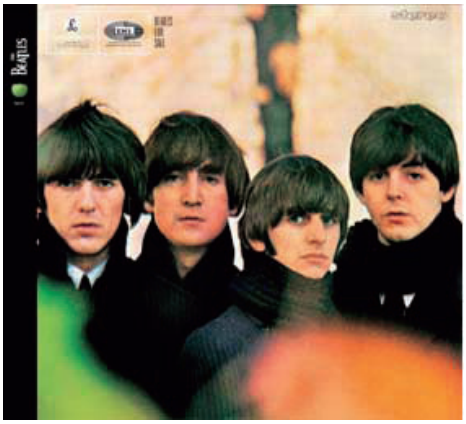


図２　４枚目のアルバム　BEATLES FOR SALE
英国 1964.12.4 発売

ジョージハリスンの髪型が、タマネギの頭の様に尖ってる。米国人からの一番の衝撃は、おでこに前髪を垂らした彼らのヘアースタイルだった。現在のものさしで見れば、とりたててどうってこともないが､当時の標準からすれば､なんとも奇抜だった様子である。交遊を深めたハンブルグの美大生に紹介された｢モップ･トップ･カット」を取り入れる。リーゼント･ヘアーだった彼らはマネージャーにこざっぱりした髪型にしなさいと言われてこの様に上手にすり合わせを行った。後にビートルズのそれは「マッシュルーム･カット」と言われている。彼らは髪型やファッションにおいてもトレンドリーダーであった。

3章　ビートルズ　ギア

ジョン・レノン＝ヴォーカル / ギター

リッケンバッカーは、60 年代の前半のリバプールサウンドを象徴する楽器。キラキラとしたサウンドが特徴の米国製。また J160E はこう見えてもエレキギターなので、アンプを通さない限りアコースティクギターの様にはあまり鳴らない。ラダーブレーシングという生鳴りの少ない内部構造、JAZZ ギター同様で、レコーディングでは生音とアンプで拡張した音をミックスしている。デビュー時期にあわせて、ジョンとジョージが同じ J160E をそれぞれ１本づつ購入。ジョンはかなり気に入ったのか、この J160E を後にもう１本購入している。その内盗難にあった方１本が最近発見されて、オークションで落札された、その額約２億 8800 万円と言われている。この２種にエピフォン・カジノ（写真省略）が加わって、この３本がジョンレノンのギターの代名詞と言える。

図３　左＝リッケンバッカー　　右＝ギブソン J-160E

ポール・マッカートニー＝ヴォーカル / ベース / ギター

独特なバイオリンベースはドイツのメーカーで、音は米国製のフエンダー・ベースに比べると出力が弱い。クラシックでヨーロピアン調のデザインがとても印象的。これぞポールマッカートニーのスタイル。左利きのポールはいつも右利き用の楽器を逆さに使用していたので、シンメトリーなデザインが気に入った様子。アコースティックギター・テキサンの方は、ローン購入をしない主義のポールは、キャッシュで購入、高価なギブソンではなく廉価判のエピフォンを購入。ポールの堅実さが伺えるエピソードとして語り次がれている。このギターで名曲「イエスタディ」「ミッシェル」「ブラックバード」などを作曲している。

図 4　左＝ホフナー　バイオリンベース　右＝リッケンバッカー　エピフォン　テキサン

ジョージ・ハリソン＝ヴォーカル / リードギター

50 ～ 60 年代のアメリカのカントリーやロックンロールの奏でるギタリストにはこのグレッチ・ギターが人気を集めていた。その名はカントリージェントルマン、米国５０年代の風格があって雰囲気がある。もう１本のリッケンバッカーは映画「ハードデイズナイト」の出だしのイントロ頭の「ガーン」のギター音はこの 12 弦ギターを使用している。初期のジョージの代名詞だ。

図 5　左＝グレッチ　カントリージェントルマン　右＝リッケンバッカー　12 弦ギター

リンゴ・スター＝ドラムス / ボーカル

リンゴの愛用したラディック・ドラム・カンパニー製ドラムは 1909 年シカゴに設立され 100 年を超える歴史を持ち、高品質なオーケストラ・パーカッションの製造を行っている。リンゴ・スターやレッド・ツェッペリンのジョン・ボーナムなど世界的なドラマーに支持され続けている打楽器のトップブランド。

以上が楽器紹介である。やはりジョンとポール２人の主役はビートル・ギア選びが心憎い。あまり脚光を浴びていない楽器をあえて使用することで、自身の個性を印象つけた感がある。

4章　ステージ・デザイン　羽を広げた様な放射線構造

どれほど本人たちが意識していたか解らないが、全米公演の時期は壇上に左からポール、ジョージ、リンゴ、ジョンと配置をとり、左利きベーシスト、ポールのバイオリンベースは時計でいうところの９～10時の角度を位置し、またジョンとジョージのギターが２～３時の角度で、バンド中央から放射線状にＶ字が描かれている。この画面構成が広がりを生み、４人がひとつの大きな生き物であるかの様に、視覚効果を生み出されている。大きな翼を広げているかの様にも観ることができ、エネルギーが放射する様な視覚効果を生み出している。（講座では、ステージ写真を紹介）

5章　ファンクラブ、ファンサービス　（ファンクラブ特典でマーケティング）

ビートルズ以前にもファンクラブはあった、しかしそれらはファンレターの宛先程度の内容のものでしかなかった。しかし、彼らのプロジェクトはファンクラブの概念を大きく変えた。ファンクラブ向けに大きなプレゼントを用意。それは「クリスマスプレゼントとしてレコードを贈ること」。このレコードはソノシート盤で薄っぺらいビニール材で出来ていたレコードで片面しか収録できない。　後の爆発的な人気は、このような地道なファン獲得作業の上になりたっている。（1963-1969年）

「ファンにクリスマスプレゼントとしてレコードを贈ることを提案」した人物は広報担当のトニー・バーロウ。彼の発案した特典サービスは、現在どこのアーティストのファンクラブにおいても行われている。（講座では、写真を紹介）

6章　ライナーノーツ　啓発も含めて音楽マニアが喜ぶ仕掛け

レコードジャケットの裏面に彼らの広報担当トニー・バーロウのライナーノーツが入っていた。彼のライナーノーツは、楽器がだれが担当したとか、作詞、作曲が誰だとか、この曲ではオルガンが使用されたとか、レコーディングの細かなエピソードを綴ることにより、ファンの気持ちに触れる様な文章になっている。また、この手法は後世のミュージシャンたちにも受け継がれることになる。配信音楽の今の時代にこそこのライナー

図６　レコードジャケットの裏面にライナーノーツが入っていた

ノーツという手法を、復活させるべき時期が迫っている様に思う。やはり音楽にも公式な解説テキストが必要なのである。

7章 二枚看板方式 バンドの主役は一人より二人、二人より四人。

「ジョンがポールに会わなかったら、そしてその逆の場合もそうなのだが、どちらもあの様な偉大なソングライターにならなかったろうと私は確信している。よいソングライターにはなったかもしれないが、何百万人、何千万人の人たちが二人に対して思っている様なずば抜けて素晴らしいソングライターにはならなかったろう。」ジョージ・マーチン（レコードプロデューサー）は言う。制作のパートナーとしてはお互い必要不可欠な存在であった。こちらのヒットチャートを見てみよう。

ビートルズの全英ヒットチャート

発売年	曲名	メインボーカル	最高順位
1962	ラブ・ミー・ドゥ	ポール	17 位
1963	プリーズ・プリーズ・ミー	ジョン	1 位
1963	フロム・ミー・トゥー・ユー	ジョン	1 位
1963	シー・ラヴズ・ユー	ジョン	1 位
1963	アイ・ウォント・ホールド・ユア・ハンズ	ジョン	1 位
1964	キャント・バイ・ミー・ラブ	ポール	1 位
1964	ア・ハード・デイズ・ナイト	ジョン	1 位
1964	アイ・フィール・ファイン	ジョン	1 位
1965	チケット・トゥー・ライド	ジョン	1 位
1965	ヘルプ	ジョン	1 位

（ヒットチャート図「ビートルズのビジネス戦略」 武田知弘著　祥伝社新書　より）

デビューから 3 年の間､1962 年から 1965 年までの全英ヒットチャートへ駈け上った 10 曲、その内の 8 曲が、ジョン・レノンが主にメインボーカルをとっていると言える。もちろん 3 人がコーラスを担っているので完全なソロ・ボーカルではないが、主旋律を歌う部分の役割として確認してほしい。ポール・マッカートニーは､「キャント・バイ・ミー・ラブ」とデビュー曲の「ラブ・ミー・ドゥー」では 17 位までにしか上がらなかった。その事実を考慮すると、バンド内の立ち位置はジョン・レノンが主役に近いと見て取れる思う。ところが、ジョンレノンの言葉として､､､「ポールとの出会いがあり、私はひとつの決断をしたのです。ポールを自分のグループに加えるかどうか、という決断ですね。ほかのメンバーよりも明らかにすぐれている男をグループに加えた方がいいのか、それとも、よくないのか、ということでした。その男を加えて、グループ全体の力を強めるのか、あるは、加えずにいて、依然として自分がリー

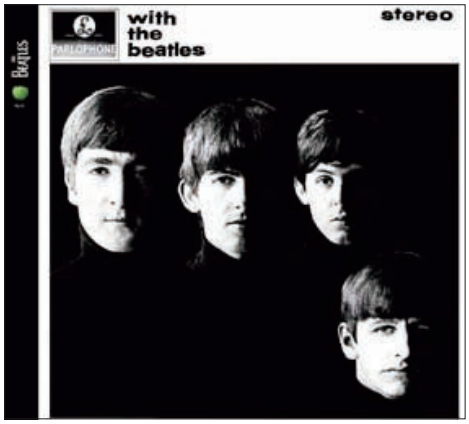
ダーのままでいるのか。私はポールを加えてグループ全体の力を強めよう、という決心をしたのです。」

この様にジョン・レノンのバンド設計が、ジョンとポールの二枚看板方式や、4人を均一に据えるジャケット写真＝「メンバー4人平等、均一」へと導き、インタビューなども4人がほぼ同じボリュームで発言を続けていた事実は、他のバンドにあまり例をみない画期的なあり方を実現した様に思う。「4人のメンバーの内1人でも反対したらそれは採用しない」という、バンドのポリシーにもそれは現れている。近年日本には48枚看板のグループなども登場している。

8章 アルバム・ジャケット・デザイン

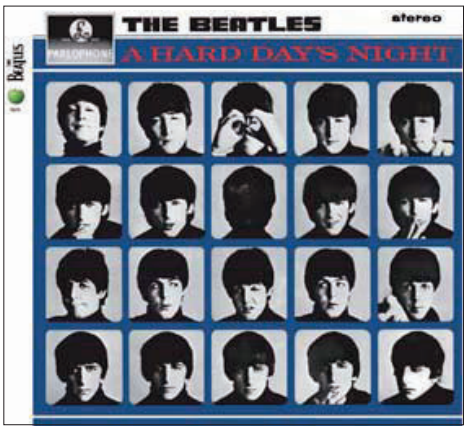
PLEASE PLEASE ME 1963.3.22 英国発売

1963年のデビュー・アルバム。デビュー盤から最後のアビイロード、レットイットビーまで、写真の中の彼らは皆均等の大きさである。4人は活動期間中ずっとそれを貫いた。彼らの活動をあえて春・夏・秋・冬に例えてみよう。デビューから解散までの7～8年の間、ビートルズの制作した13枚のオリジナルLPレコードがある。PLEASE PLEASE MEからHELP!までの5枚を「前期　ビートルズ春の時代」と呼ばせてもらう。弾けるばかりの新春のデビュー作。



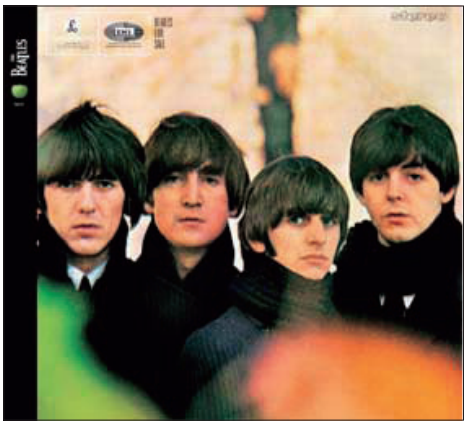
WITH THE BEATLES 1963.11.22 英国発売

写真は、ロバート・フリーマンによる印象的なモノクロ写真。デビュー前に、初期ビートルズの姿をモノクロ写真に収めたドイツ人写真家アストリッド・キルヒャーの影響によるものと思われる。マッシュルーム・ヘアはアストリッドがドイツ遠征でライブ活動を行っていた時代の旧メンバー、 スチュアート・サトクリフにアドバイスした背景がある。（絵画の道へ進んだサトクリフはアストリッドと恋仲だった）このあたりにアートカレッジ系出身ミュージシャンのビジュアルへのこだわりが見え隠れする。



A HARD DAY'S NIGHT　1964.7.10 英国発売

映画 A HARD DAY'S NIGHT のサントラ盤。カバー曲を収録せずに全曲彼らのオリジナル曲のみで構成したはじめてのアルバム。作曲とレコーディングには 2 週間しかなかったにもかかわらず、クオリティの高いアルバムに仕上がっている。写真のコマ割風なデザインは映画のフィルムを感じさせるが、まだここまでの 3 枚は JAZZ「ブルーノート」レーベルのジャケットデザインの影響を感じさせる。

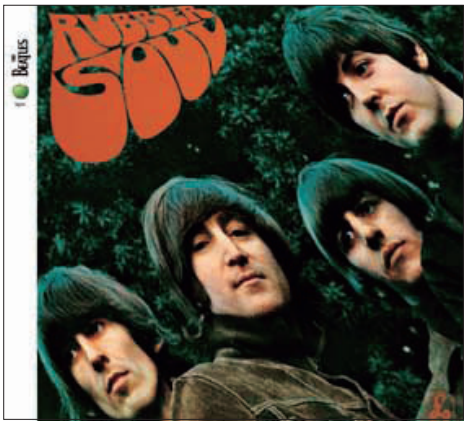


BEATLES FOR SALE　1964.12.4 英国発売

当時彼らは年間 4 枚のシングル、2 枚のアルバム発売が契約として義務づけられていた。またこの時期、新作をクリスマス商戦に間に合う様に完成せねばならなかった。ワールドツアーもあり、メディアにも露出してビートルズは忙しさのピーク、ジョンとポールにはオリジナル曲をつくる充分な時間もなかった。前作で全曲オリジナル曲の快挙を成し遂げた後。このアルバムではオリジナル 8 曲、カバー 6 曲、計 14 曲構成。ジャケット写真はクリスマス近い晩秋の色合い。アルバムタイトルの BEATLES FOR SALE の文字がそれ以前のもよりも小さいといった変化がある。

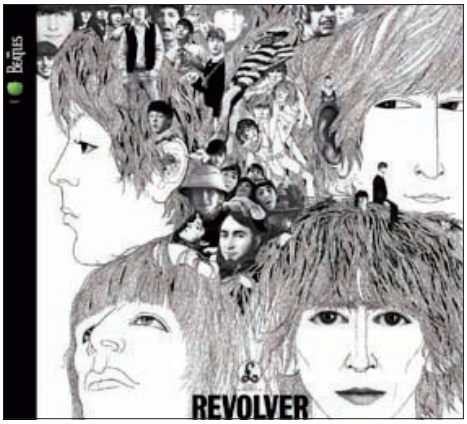
HELP!　1965.8.6 英国発売

最初は手旗信号で 4 人を HELP と配置したが、4 人のフォルムがいまひとつだった様で、最終的にこのカタチに落ち着いた。写真はロバート・フリーマン　ここでも彼ら 4 人の姿は均等大で揃えられている。ビートルズ「前期春の時代」の 5 枚目最後のアルバム。



RUBBER SOUL　1965.12.3 英国発売

カバーで使用する写真を、試写室で 30cm 正方の白い用紙にプロジェクターで投影しながらメンバーたちに見せている最中、その用紙が偶然にもひらりと動き画像が変形した。そのゆがみが面白くてポールが「今の変形したカタチにプリントできないかい？」とリクエスト。他のメンバーもそれに反応してこの様なデザインが出来上がる。ロゴタイプもサイケデリック調のゆがみの発想でレタリングされ、通称「バルーン文字」が誕生する。このアルバムから、THE BEATLES の文字情報が表面から省略されている。同じ家に育った兄弟の様に仲良く過ごした彼らも、次第に人生の苦みや毒を持ち始め、「中期　夏の時代」が始まってゆく。



REVOLVER　1966.8.5 英国発売

フォトコラージュは、クラウス・ブアーマン。ドイツ人でハンブルグ時代に知り合ったハンブルグの元美大生でベーシストでもある。ビートルズに前髪をおろさせた女の子アストリッド・キルヒャー（写真家）の元ボーイフレンド。このようのビジュアル・アーティストとの交流から音楽以外の創造性が彼らを刺激していた。中期の姿を暗示する実験性に富んだサウンドのアルバム。ここでは「中期　夏の時代」2 枚目。

SGT.PEPPER'S LONELY HEARTS CLUB BAND

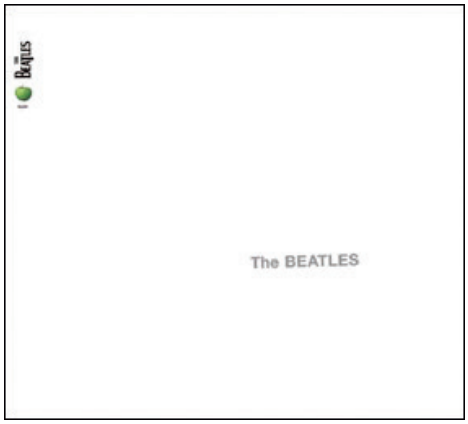
1967.6.1 英国発売

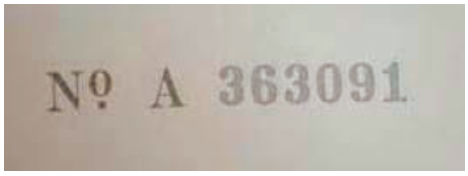
ロック、ポップ史上初の「コンセプト・アルバム」と言われている。アルバム全体にストーリーの様な物があり、それまでのシングル盤が基本だったポップス市場を、アルバム中心のものへ変化させた。SGT.PEPPER'S LONELY HEARTS CLUB BAND という架空のバンドが演奏を繰り広げて行く設定となっており、

ジャケットにある 4 人の扮装がアルバムとしてのトータリティを高めていたとも言える。ビジュアルと音楽の相乗効果を感じさせる作品となっている。それまでのシングル盤市場からアルバム単位で音楽を購入する時代へ変化した。ライブ活動中心の生活から一転してレコーディングに専念、その中から生まれた。それに費やした時間　約７００時間、アルバム画面左下の福助人形が興味深い。「中期　夏の時代」の頂点とも言える作品。

MAGICAL MYSTERY TOUR　1967.11.27 英国発売

前作「サージェントペパーズ」で大成功を納め、次に映像作品でコンセプチュアルなものをつくろうとしたのが、この「MAGICAL MYSTERY TOUR」。この年の 8 月マネージャーのブライアン・エプスタインが 33 歳の若さで急死。彼なき後、メンバーはマネージメントの問題で行き詰まる。まさに「中期　夏の時代」の終焉。

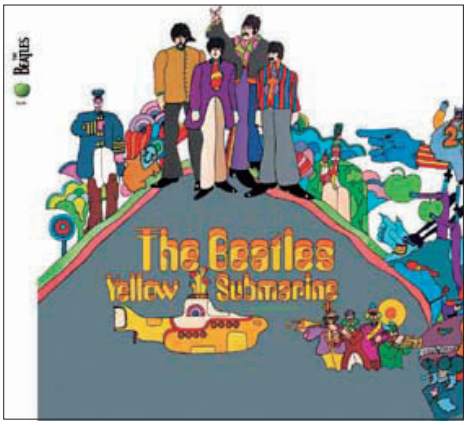




THE BEATLES　1968.11.22 英国発売

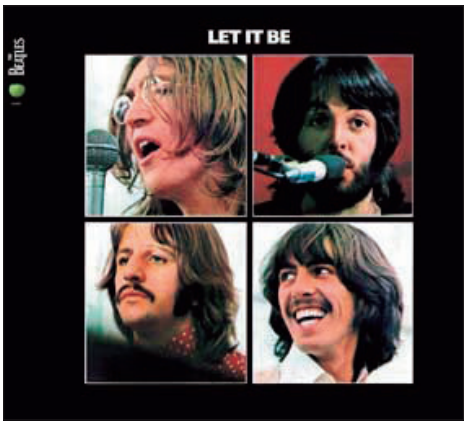
このアルバムデザインは、白地に文字「The BEATLES」をエンボス加工、それにシリアルナンバーが印字されているだけのシンプルなもので、通称「ホワイトアルバム」2 枚組。4 人がそれぞれ創作した作品を持ち寄ってレコーディングされた。名曲もあるが当時のありのままのビートルズ。今までのビートルズのイメージを一度リセットした様な印象がある。英国版で 500 番以内など若い番号のモノになると状態がよければ日本円にして現在 20 ～ 30 万円のプレミアム価格がついている。美術の世界の版画作品「初版摺り」の様に各刷りに番号がつけられ、その仕組みがユニーク。（オノ・ヨーコの影響か？）後年（CD）になってからは、ナンバーリングが消えて、The BEATLES の文字がグレイで入れられている。真っ白なジャケットの発想は、２０世紀初頭のダダイズムの流れを連想する、、、マルセル・デュシャンの便器などジョンレノンの歌詞に、

よく登場する「Nobady」「Nowhere」「Nothing」という言葉、この白いアルバムのデザインではそれらを強く感じる。また、中面には写真がコラージュされた折りたたみ式のポスターも収録されている、シンプルで魅力的な2枚組ジャケットである。ビートルズ「後期　秋冬の時代」の最初の収穫。



YELLOW SUBMARINE　1969.1.17 英国発売

アニメ映画「YELLOW SUBMARINE」に合わせて作られたサントラ盤。アニメ作品は想像以上に良い上りで、メンバーも気を良くして出演することになった。新曲は4曲で「イエローサブマリン」は１９６６年のリボルバーに収録されている、「愛こそすべて」は衛生中継用に書いた曲。これら6曲に、B面はプロデューサーのジョージ・マーチンによるアニメ用のストリングスで構成されている。作画はHeinz Edelmannを中心とした数名のドイツ人チーム。話題になったこのアニメーション映画は「秋冬の時代」の副産物とも言える作品。



LET IT BE　1970.8.8　英国発売

メンバー間のトラブルで１年以上お蔵入りしていた映画「LET IT BE」のサントラ盤。通称「ゲット・バック・セッショッン」。発表はこの後のアルバム「アビイ・ロード」が先になる。アニメーションを加えるとビートルズ4本目の映画。この時期対立していたポール以外のメンバー3人が依頼したプロデューサー＝フィル・スペクターによるストリングス・アレンジなどは、ファンの間でも賛否両論であった。ビートルズ「後期　秋冬の冬」の到来を感じさせる作品。

ABBEY ROAD 1969.9.26 英国発売

表面にはアルバムタイトルが無いことにも注目。ジャケット裏面にはアビイロードの風景写真の中に文字情報としてBEATLES・ABBEY ROAD の文字が埋め込まれている。白いジャケットに引き続き、斬新なデザインへのアプローチが伺える。この時期にはもはや彼らが何者かであるかを記す必要が無くなっている状況も想像してみてほしい。冬の最後、長年彼らの使用したアビイロードスタジオ側を背にして一直線に 4 人が前に進む姿は、ビートルズを卒業して各々のソロ活動へ移る、次の早春へ向う姿の表れの様に見える。

9章 メデイアミックス

プロモーションビデオを最初に制作したのがビートルズと言われている。もうひとつ付け加えるとその時代時代でのメディアの使い方がいつも優れていた点である。ただし、彼らはコマーシャルには出演しなかった。解散してソロ活動になってリンゴ・スターだけはいくつか日本のコマーシャルに出演している。

2004 年公開のシルク・ドゥ・ソレイユの舞台公演「Love」というビートルズをテーマにした演目。これはコンサート空間を時代を超えて体感するという趣。2 時間のプロモーションビデオをリアルタイムで体感している感覚。この作品の出現などは、アニメーション映画「イエロー・サブ・マリン」の時の様で、大変エキサイティングであった。音楽がもう一度、その活動当時の感覚で蘇る印象を抱いた。

ビートルズがもし今の SNS 時代、ネットの時代に活動していたらどんな画期的な展開や話題を提供しただろうか？

無意味な想像に思われるかもしれないが、実際彼らの活動には、常に最先端なスタイルに新しい価値観が加わり、若い人々の注目を集め続けた。それらは一人の才能で生み出されたものはなく、グループや、プロジェクトチームの成せる技であったのだろう。それこそがビートルズの成し遂げたデザインであったという事実をここに確認して、この講座を終わりにしたい。

参考文献

1972「回想するジョン・レノン」ジョン・レノン　片岡義男訳　草思社
1973「ビートルズ詩集」(1)(2) ジョン・レノン　ポール・マッカートニー　片岡義男訳　角川文庫
1975「絵本ジョン・レノンセンス」ジョン・レノン　晶文社
1977「BEATLES の事典　四人のすべてがわかる本」石坂敬一　ごま書房
1980「曖昧な水　レオナルド・アリス・ビートルズ」東野芳明　現代企画室
1981「ジョン・レノン愛の遺言」ジョン・レノン　オノ・ヨーコ　川勝久訳　講談社
1985「アビイ・ロード　ザ・ビートルズ最後の伝説」ブライアン・サゥソール著　富永虔一郎　山内久美子訳　JICC 出版局
1989「イマジン」ジョン・レノン　北中正和訳　河出書房新社
1990「ビートルズ/レコーディング・セッション」マーク・ルウィリーン著　内田久美子訳　シンコーミュージック
1990「誰がジョン・レノンを殺したか？」フェントン・ブレスラー　島田三蔵訳
1995「ビートルズの歩き方　ロンドン編」マーク・ルイソン他　高見展訳　プロデュース・センター出版局
1997　地球音楽ライブラリー　ビートルズ　TOKYOFM 出版
1998「ラプソディイン　ジョン・W・レノン」 立川直樹　翼の王国　December 1998 No.354
2000「The Beatles アンソロジー」リットーミューコック
2000「ザ・ビートルス・ソングブック」ソニー・ミュージックパブリッシィング
2001「ポール・マッカートニー世紀を超えた音楽家」文芸別冊　河出書房新社　KAWADE 夢ブック
2002「ビートルズ・サウンドを創った男　ー耳こそすべてー　ジョージ・マーチン著　吉成信幸・一色由美訳　河出書房新社
2002「Beatles gear」日本語訳版　アンディ・バビアック著　坂本信訳　リットーミュージック
2002「RUBBER SOUL THE BEATLES」末次安里　双葉社 C BOOK
2003「ジョン・レノン　レジェンド」ジェームズ・ヘンケ　野中邦子訳　河出書房新社
2004「ビートルス　アメリカ盤のすべて」中山康樹+小川隆夫著　集英社インターナショナル
2006「ビートルズ大学」宮永正隆著　アスペクト
2006「ザ・ビートルズサウンド最後の真実」ジェフ・エメリック+ハワード・マッセイ著　奥田裕士訳
2006 ビートルズ「LOVE」徹底ガイド・ブック　ザ・ビートルズ・クラブ　プロデュース・センター出版局
2007「ビートルズ売り出し中！」PR マンが見た 4 人の素顔　トニー・バーロウ著　高見展・中村明子・越膳こずえ・及川和恵訳　河出書房新社
2008「ビートルズへの旅」リリー・フランキー　福岡耕造
2009　レコードコレクターズ増刊「ザ・ビートルズ・CD ガイド」(株) ニューミュージック・マガジン
2010「ジョン・レノンその生涯と死と音楽と」文芸別冊　河出書房新社　KAWADE 夢ブック
2011「ビートルズのビジネス戦略」 武田知弘著　祥伝社新書
2014「ビートルズの真実」里中哲彦・遠山修司　中央公論新社
2015「ビートルズを聴こう」公式録音全 213 曲完全ガイド　里中哲彦・遠山修司　中央公論新社
2016「すべてはスリーコードから始まった」石坂敬一　立川直樹　ローソン HMV エンタテイメント
2006~2013「レコード・コレクターズ」 Vol.25-No.12 / Vol.27- No.7 No.8 No.9. / Vol.28-No.10. / Vol.32-No.12.

岡本（おかもと） 隼輔（しゅんすけ）　福岡県三潴郡出身。2007 年に福岡県立伝習館高等学校を卒業、2011 年に九州大学経済学部を卒業後、同大学大学院経済学府経済システム専攻へ進学。2015 年 3 月に博士号（経済学）取得。2015 年 4 月より尾道市立大学で専任講師として現職に勤める。研究テーマは産業連関分析、環境産業クラスター分析。学内での担当科目は、計量経済学、国際経済学。研究室では 3 年生 12 名、4 年生 9 名と共に環境と産業を広義テーマとして定量的な分析に取り組む。

［研究要旨］

尾道の産業に焦点を当てた経済波及効果

尾道市立大学経済情報学部経済情報学科講師
岡本 隼輔

地域創生に向けた動きが求められているが、開通に歓声が沸く中国やまなみ街道や、世界各地からサイクリストが集結する西瀬戸自動車道（瀬戸内しまなみ海道）など、一種の観光産業集積地とも言える尾道に期待される経済効果は大きいと考えられる。今回は、経済統計の一つである産業連関表を用いて経済波及効果を計算する方法を学びつつ、尾道の経済活性化がどのように影響を与えていくかについて考えていく場とした。

交通アクセスが改善され環境客が増えるということは、観光客が観光地で財を消費することに繋がる。言い換えれば、需要を満たすための生産が行われる。このような最終需要の発生によって誘発される生産額の直接間接的な生産額の増加を、経済波及効果と呼ぶ。

例えば、尾道ラーメンを例に考える。尾道ラーメン１杯の生産があるということは、それに投入される麺や具材の生産が必要であり、さらには麺の生産に必要な小麦粉の生産が必要であり、という具合に生産活動が連鎖的に続いていく。

産業連関表は上記の経済波及効果を捕捉でき、一定の経済圏における需要と供給のバランス

が取れるように整備された行列形式の統計表である。日本全体を一つの経済圏とした産業連関表では５年に１回のペースで公表されている。加えて広島県、岡山県など県単位を一つの経済圏とした産業連関表も公表されている。しかしながら、それより小さな行政単位での産業連関表は、整備する際の詳細なデータ[1]が必要であり、予算制約・時間制約上の理由で整備されていない自治体が多い。なお、尾道市の産業連関表も本原稿執筆時には未だ整備されていない。

産業連関表が整備されれば、尾道市内の加工食品産業での間接的な生産額を引き起こすため観光産業の基盤を強化する、といった具体的な産業振興政策に結びつくことが期待される。整備のために必要な準備データなど障壁は大きいが、今後の地域創生を重点とした経済発展を考える際に、産業連関表の整備は今後の大きな課題である。

また今回は教養講座の中で質疑時間も設け「尾道産品がアンテナショップ等で尾道以外の地域に浸透していくことで生産拡大を図ることも重要ではないか」という質問が上がった。このことは非常に重要で、域内だけでなく域外の需要に対応して生産を増やしていくことで経済はより潤うと想定される。域内や域外を考慮した多地域産業連関表というものが存在するが、将来的にその統計表まで整備できれば、より密な分析を行うことも可能であろう。

[1] 中分類の産業連関表であれば、例えば１年間の生産額、１単位生産する際の付加価値投入額、産業に対する最終需要額等に関して、100 部門程度の産業分類で必要になる。

塚本 真紀（つかもと まき） 博士（学術）
尾道市立大学芸術文化学部日本文学科所属。研究分野は心理学。ことばの認知や経験からの学びの深化過程について心理学的な観点から研究している。尾道短期大学に着任後数年間尾道で暮らしたことがあり、自分自身の尾道の認知地図はその頃に形成されたと認識している。

教養講座　2015.10.21

［研究要旨］

尾道の認知地図

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科准教授
塚本 真紀

「尾道に住み慣れること」を認知地図の特徴からとらえてみました。自分の生活空間については、場所の位置関係や特徴などで構成された「心の中の地図」が出来上がっています。これが認知地図です。認知地図は「ルートマップ型知識」と「サーヴェイマップ型知識」という 2 種類の知識から構成されています。「ルートマップ型知識」は、空間内の移動経験をもとに構成された知識です。「サーヴェイマップ型知識」」は空間内の事物の位置を高いところから全体を見下ろしたように俯瞰的に保持した知識です。生活経験を通して習得したルートマップ型知識を、サーヴェイマップ型知識へと連動させていくことで、認知地図が出来上がっていきます。

講座では、尾道在住 1 年目の尾道市立大学 1 年生と在住 4 年以上の尾道市立大学生（主に 4 年生）に「尾道の地図」を描いてもらい、比較検討した結果を示しました。「心の中にある尾道の地図を描いて」と突然言われても、尾道にはいろいろあって何から描いていいのかわからない・・・という学生の声が多かったため、今回は、描画の基本条件を設定して認知地図を描い

てもらいました。基本条件は以下の①〜③です。

① どの向きで描いてもいいので、尾道の地図を描く。
② その際必ず「尾道駅」「尾道市立大学」「しまなみ交流館」「ロープウェイ乗り場」「千光寺」の場所を地図内に示す。
③ ②で示したもの以外に自分がよく行く場所５つ（施設、観光場所、個人宅、店、勤務先など）を地図内に示す。

描画された「尾道の認知地図」には、在住年数による違いがいくつかあらわれていました。基本条件①の地図の向きについて、在住１年目の学生は個人によって向きが異なっていましたが、在住４年以上の学生は全員が尾道水道を平面下側に配置して描いていました。基本条件②で指定した場所の位置関係について、在住１年目の学生では位置関係（方向、距離）が個人間で大きくばらついていました。しかし在住４年以上では位置関係のばらつきの個人差は在住１年目の学生より小さく、実際の地図上の位置により近い位置にそれぞれの場所を示していました。③で示した「よく行く場所」としては、在住１年目の学生は共通してチェーン店や大型スーパーをあげていましたが、在住４年以上の学生は個人経営の商店･飲食店、寺、神社、資料館、美術館など個人によって異なるさまざまな場所をあげていました。

これらの比較検討を通して、大学生が「尾道に住み慣れる」というのは、①まちのとらえ方を確立し（認知地図の向きが一方向に定まり）、②移動経験によって事物間距離をより正確に把握しルートマップ型知識をサーヴェイマップ型知識へと連動させ（場所の位置関係をより正確に地図上にあらわし）、③自分にあったお気に入りの場所をみつける（よく行く場所が個別化する）、ということだととらえることができます。

講座に参加した皆さんにも同様の基本条件で尾道の認知地図を描いていただきました。よく行く場所や居住地付近には詳細な書き込みがなされ、東西南方向に学生よりも広い範囲の地図を描いた方が多かったです。加えて、どの地図においても、「尾道市立大学」は、学生が描いた地図に比べると尾道駅からかなり遠い位置に示され、山の中のくねくねした線の先に描かれていました。「大学がある場所は私にとってチベットです」という説明書きが付された地図もあり…印象に残りました。

平山 直樹（ひらやま なおき） 広島市出身。2011 年 4 月より尾道市立大学に勤務。所属は芸術文化学部日本文学科。研究分野は英語学。特に、15 世紀英国の 1 つの家族が残した手紙を集めた『パストン家書簡集』の言語を歴史的観点から研究している。2009 年 4 月から 2011 年 3 月までの 2 年間、島根県の松江市に住み、島根大学に勤務した。その間、出雲蕎麦が気に入り、蕎麦屋巡りしている内に松江の観光地を巡るようになった。そして、明治時代にそれらの観光地を訪れて英語で紹介した小泉八雲に興味を持った。松江市滞在の間は、八雲の足跡をたどり、八雲の英語に触れながら松江の文化に親しんだ。

［研究要旨］

小泉八雲の英語が語る松江

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科准教授
平山 直樹

本教養講座においては、1890 年から約 1 年 3 か月の間松江に滞在した小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）による『知られぬ日本の面影』（*Glimpses of Unfamiliar Japan*）という作品に着目した。そこには外国人である八雲の豊かな感覚を通して見た明治日本の松江が英語で書き記されている。本講座では、松江に 2 年間（2009 年 4 月から 2011 年 3 月まで）滞在した講師の体験も交えながら八雲の英語を読み進めた。

本編に入る前に、松江市と小泉八雲の生涯について概観した。まず、松江市については、松江城の城主が松平氏に移って以後城下町として発展してきたことや、冬に曇りが多い特徴的な山陰の気候であることについて述べた後、平成 24 年度の尾道市との姉妹都市提携や、平成 27 年 3 月の高速道路の開通といった両市の関わりについて紹介した。次に、八雲については、彼がギリシア、アイルランド、イギリス、アメリカと国々を渡って日本にやってきたこと、また、来日の際初めは記者であったが、松江で英語教師となり、さらに熊本、神戸、東京と移り住んだことを紹介した。

その後、本編においては、松江市内の八雲ゆかりの地を取り上げながら、その場所に関して八雲が書いた英文を読み進めた。まず、最初に彼が泊まった宿のすぐ前を流れる大橋川にかかる松江大橋周辺に着目し、松江での初めての朝を迎えながら聴いた印象的な米をつく音、松江大橋を渡る人々の踊るような下駄の音、流れの速い川の神を鎮めて松江大橋を架けるために人身御供となった男の話、そして、橋の上から見える大山（だいせん）が「出雲富士」と称されることについて述べる英文を読んだ。次に、封建時代の名残であるいかめしい形の松江城や、宍道湖の嫁ヶ島に伝わる伝説と美しい夕日についての英文を読んだ。そして最後は、現代でも縁結びで人気の高い、須佐之男命とその妻の稲田姫が祀られている八重垣神社についての英文を読み、さらに、神社の近くにある 2 本の木の幹が途中で一つに合わさった不思議な玉椿や、恋占いのできる鏡の池についての英文を読んだ。

八雲は外国人としてだけでなく、人間的洞察力や感性豊かな感覚を持ちながら、明治日本の松江の様子を英語で綴っている。八雲がどのように松江やそこに暮らす人々を見ていたかに思いを馳せながらゆかりの地を巡れば、松江観光はさらに楽しいものになるだろう。

木村 文則（きむら ふみのり） 奈良先端科学技術大学院大学情報学研究科博士後期課程を研究指導認定退学（のち 2007 年に学位取得）ののち、同志社大学文化情報学部 実習助手、立命館大学情報理工学部 助手および専門研究員を経て、2015 年より尾道市立大学経済情報学部 講師。専門分野は情報検索、情報推薦、テキストマイニングなど。

教養講座　2015.11.18

［研究要旨］

尾道を検索しよう

尾道市立大学経済情報学部経済情報学科講師
木村 文則

インターネットの成功の立役者となった「検索エンジン」。インターネットが普及し始めてからちょうど 20 年経った現在では、検索する機能が向上しただけでなく、検索結果を活用することも着目されるようになってきた。大量に集められたデータから、有用な情報を見つけ出そうという、いわゆる「ビッグデータ」分析の時代へと進んでいる。本講座では、インターネットの黎明期（検索エンジン）から発展期（地図検索などの高機能化）、そしてさらにその先（ビッグデータ分析）の各時期における検索システムついて触れることで、インターネットの進化に応じた検索システムの変遷を追った。

検索エンジンを活用できるようになることは、「デジタルデバイド」を脱却する第一歩であり、「尾道」について検索することを題材に、キーワードの選び方のコツについて述べた。特に、「マイナス検索」や「フレーズ検索」といった検索ページを絞り込む際に有用な方法について触れた。また、地図検索である Google Maps により、目的の場所を地図上で検索する方法につい

ても述べた。

「ビッグデータ」分析については、「Google サジェスト」や「Google トレンド」などにより、注目されている検索キーワードの調べ方について紹介した。また、実際の分析として、Twitter で「尾道」と記述されているツイートを収集し、テキストマイニングによる分析結果を紹介した。

光原 百合（みつはら ゆり）　尾道に生まれ育つ。大阪大学文学部卒業、同大学院文学研究科修了。
現在、尾道市立大学芸術文化学部教授をつとめるとともに、作家として推理小説、ファンタジーなどを執筆する。
近年は物語（特に怪談）による地域の活性化に興味を持ち、尾道を舞台とした小説を執筆するとともに、関連企画をプロデュースしている。

教養講座　2016.10.5

［研究要旨］

尾道てのひら怪談について

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授
光原 百合

1．怪談の新たな役割

２０１６年９月２４日付の河北新報連載コラム「とうほく本の散歩道」に、次のような一節がある。「東日本大震災を境に、文芸としての怪談が担う役割は大きく変わったと思う。単なる怖い話、不気味な話と言う既存イメージから、あの世とこの世をつなぐ、故人と生者との対話との性格が色濃くなった」

確かに、怪談は従来、「単なる怖い話」、さらには「怖さを娯楽として扱う不謹慎なもの」と思われがちであった。しかし東日本大震災の後、東北地方では、あの震災によって命を失った人にまつわる多くの実話怪談が生まれ、それが単なる怖い話ではなく、まして不謹慎な娯楽としてではなく、亡き人との再会をはたしたどこか心温まるものとしてとらえられるという現象が起こった。これは、柳田國男の『遠野物語』を生んだことからもわかるように東北という土地が、あの世とこの世を地続きの存在としてとらえる文化背景を持っていたことも関係してい

るのかもしれない。

2．「ふるさと怪談」について

そして怪談は、亡き「人」との再会を描くだけではなく、失われてしまった、あるいは失われつつある懐かしい風景を物語の中に残すという役割をも果たす。たとえば怪談作家の黒木あるじ氏は、「怪談の『力』」という論考において次のように述べる。

「もう帰っては来ない「あの日以前」を皆の記憶に留めるために、私は怪談を蒐集し続ける。語り、聞き、綴られることで、「ふるさと」はかつての姿を人々の記憶に残し、生き続けていくはずだ。怪談には、その「力」があるはずだ。」

（『渚にて　あの日からの〈みちのく怪談〉』（２０１６年、荒蝦夷刊）に収録）

実は東北では、東日本大震災の前年である２０１０年に（『遠野物語』刊行１００周年にあたる）、出版社の荒蝦夷と文芸評論家の東雅夫氏らが中心となり、「みちのく怪談プロジェクト」という怪談文芸復興の企画が始まっていた。大震災によって中断の危機にさらされた同プロジェクトは、上に書いたような怪談の力、亡き人や懐かしい風景を記憶に残すという怪談の力を信じる関係者一同の努力によって継続した。

それに共鳴した全国の怪談ファンたちが、東北だけでなく、それぞれの地域でも怪談を通してふるさとの姿を残していきたいという動きが起こり、「ふるさと怪談」という言葉が生まれた。そこから現在に至るまで「ふるさと怪談トークライブ」というイベントが各地で行われている。これは、それぞれの地域の怪談を語り合うことを中心にしたイベントで、東日本大震災復興支援のチャリティも兼ねている。２０１６年には尾道においてもふるさと怪談トークライブが開催された。

3．「てのひら怪談」について

「てのひら怪談」とは、８００字以内で綴られた掌編怪談の呼称である。もとは、２００３年から開催されていたビーケーワン怪談大賞コンテスト（ネット書店ビーケーワン主催）の応募字数制限が８００字であったことに始まる。この字数は、コンテストの中心人物であった東雅夫氏が、８００字という字数はネットの画面で見たときにちょうど見やすい分量であること、また８００字あれば魅力的な怪談は書けると判断したことから決まったとご本人からうかがっている。実際、この賞には非常にレベルの高い怪談作品が寄せられた。それらの作品がのちにポプラ社から刊行された際、書名として使うために「てのひら怪談」という言葉が考案され、

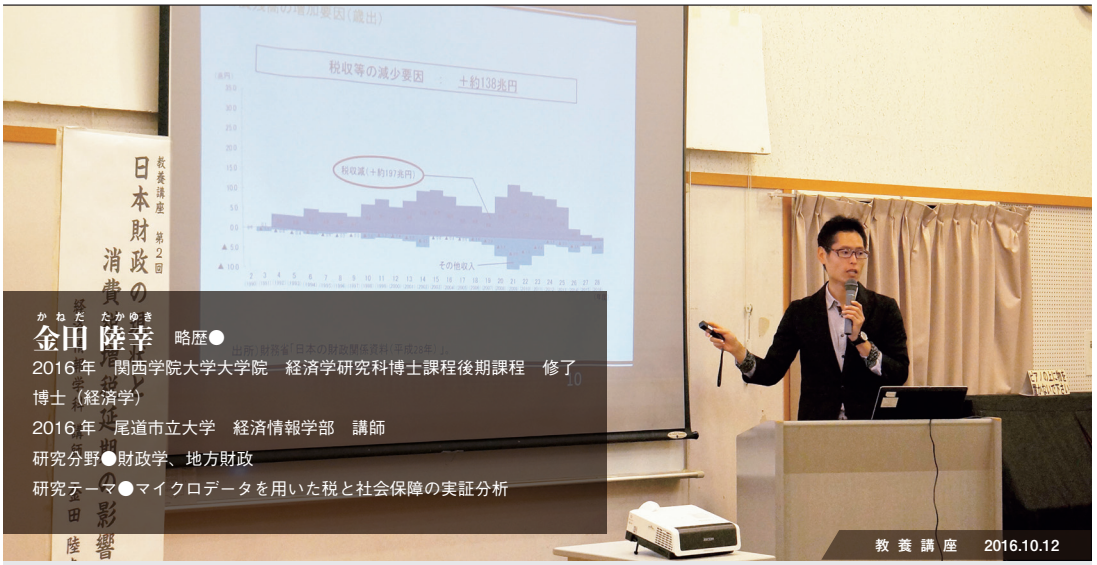
８００字以内の掌編怪談を表す言葉として知られるようになった。

ポプラ社からのてのひら怪談シリーズの刊行は２０１３年をもって一応終了しているが、その後、てのひら怪談を愛する有志が、ふるさと怪談とてのひら怪談の魅力を合わせ、関係者の間では「ご当地てのひら怪談」と呼ばれている企画をあちこちで立ち上げた。特定の地域と結びついた掌編怪談の公募コンテストである。これまでに西荻、深川、京田辺などの地域で開催されており、大阪では２０１５年、２０１６年と連続で開催されて、主宰者である怪談作家の田辺青蛙氏は今後も継続の意向であると語っている。

それらの流れを受け、尾道という土地にも怪談が似合うと筆者は考えた。尾道は風光明媚で歴史も古く、人々の町への愛着も強い。また旧市街には寺社が多く、この世とあの世が仲良く隣接しているような雰囲気を残している。尾道を舞台とした魅力的な怪談が新たに生まれれば、尾道の新たな魅力にもつながることだろう。

このようないきさつで、２０１６年１１月から２０１７年２月までを応募期間に設定して「尾道てのひら怪談コンテスト」を開催した。教養講座開催の時点では募集前であったが、締切までに２３８編の応募を受け付け、本稿を執筆の段階で審査中である。どのような作品が寄せられたか、大いに期待されるところである。連動企画として、尾道市立大学美術学科学生有志がすべての応募作品にイメージイラストを描いて、尾道市立中央図書館にて展示を行った。

すべては今回の結果次第であるが、可能であれば「尾道てのひら怪談」も大阪のように、今後とも継続させていきたい。



金田 陸幸（かねだ たかゆき）　略歴●
2016年　関西学院大学大学院　経済学研究科博士課程後期課程　修了
博士（経済学）
2016年　尾道市立大学　経済情報学部　講師
研究分野●財政学、地方財政
研究テーマ●マイクロデータを用いた税と社会保障の実証分析

［研究要旨］

日本財政の現状と消費税増税延期の影響

尾道市立大学経済情報学部経済情報学科講師
金田 陸幸

日本財政に関するさまざまな統計を用いて、日本財政の現状と2016年に決定された消費税増税延期の影響を明らかにした。日本の平成28年度予算における国税と地方税を合わせた税収は100兆7,552億円にも上り、平成27年度予算の96兆4,681億円と比較すると4.4％増であり、順調に税収が伸びていることが伺える。しかしながら、長期にわたり財政難にある日本においては、税収を含む歳入額のみならず歳出額にも注目する必要がある。

平成28年度の国の一般会計予算の歳入および歳出額は96兆7,218億円である。しかしながら、歳入のうち租税および印紙収入は57兆6,040億円であるが、これは歳入総額の59.6％にとどまっており、34兆4,320億円を公債金、いわば国の借金に依存している状態である。また、歳出では借金の返済に当たる国債費、社会保障に関する歳出、地方交付税交付金等の合計額のみで歳出総額の7割以上を占めている。特に国債費は政府がコントロールできないことに加え、社会保障に関する歳出についても現在の日本の少子高齢化の状況を考慮に入れると大幅な削減は難しいため、歳出総額の抑制が困難な状態にある。

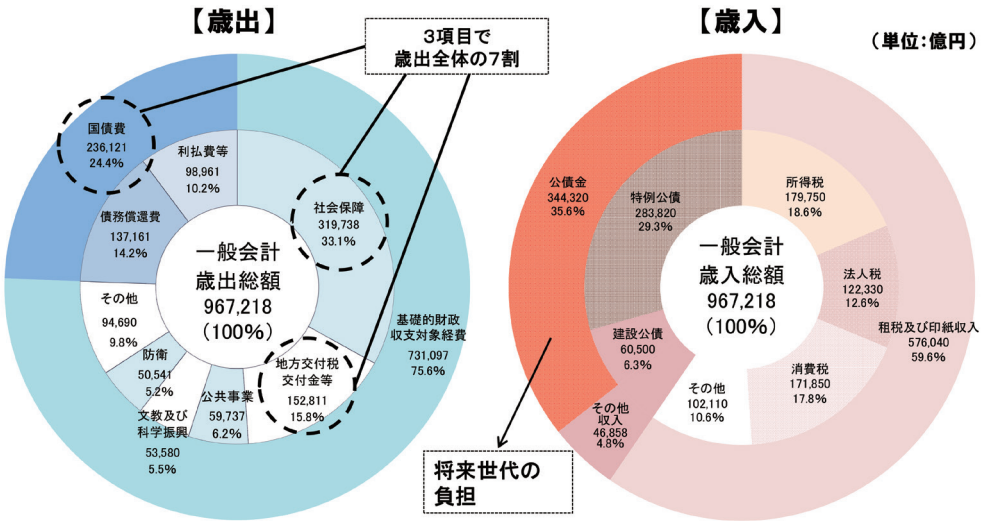


図 1　平成 28 年度の国の一般会計予算

出所）財務省 HP より抜粋（http://www.mof.go.jp/tax_policy/summary/condition/002.htm）。

平成 27 年には国の公債残高が 800 兆円を超えただけでなく、債務残高の対 GDP 比も先進国のなかで唯一 200％を超えており、債務残高の増加は今後も続くと考えられる。財政赤字が持続すると、さまざまな点で問題が生じる。具体的には、恒常的な財政赤字は①公的サービスの水準の低下、②世代間の不公平、③財政への信認低下にともなう金利の上昇、④民間部門の経済活力の低下に繋がりうる。

政府も座してこの状態を静観しているわけではなく、2020 年度までに基礎的財政収支（プライマリーバランス）を黒字化し、2020 年度以降は債務残高対 GDP 比を安定的に引き下げるという財政健全化目標を定めている。そのなかで、税収増加の手段として 2014 年に消費税が 8％に増税された。本来であれば、2015 年 10 月に 10％に引き上げられる予定であったが、紆余曲折を経て最終的に 2019 年の 10 月まで増税時期が延期された。しかしながら、平成 29 年度に予定されていた社会保障の充実策の一部は 2017 年度の消費税増税分を当てにしたものもあり、2016 年の増税延期はこれらの政策の変更やさらなる財政赤字の拡大を引き起こす。さらに、2020 年度までのプライマリーバランスの黒字化は国際公約であり、黒字化の実現を遠ざける政策は日本に対する各国からの信認の低下を招くおそれがある。また、言うまでもなく、財政赤字は我々の子供や孫などの将来世代に対する負担の転嫁であり、本来であれば、現在を生きている世代が享受する受益はその世代の負担で賄うのが筋である。

2019 年に消費税が 10％に増税されたとしても、日本の財政赤字はそれだけで賄えるほど小さいものではなく、今後さらなる増税が不可欠である。政府はより長期的な展望を持って、支出の効率化や増税といった財政健全化に取り組む必要があるだろう。

信木 伸一（のぶき しんいち） 博士（教育学）
尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授
国語教育学を担当。テキストが何を問いかけ現実をどのように意味づけたのかをめぐって、読み手自身のことばを紡いでいく対話的な読みの学習を研究している。他にも、近代国語教育によって、言語文化がどのように創られてきたのかを明らかにする研究も行っている。

教養講座　2016.10.26

［研究要旨］

学びを考える

― 新しく自分を創っていくために ―

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授
信木 伸一

「学び」は、価値軌範の設定の仕方で様々に意味づけられるものであるが、ここでは次のように捉えることとする。

・それまでに知らなかったことを知って、自分の見えている〈世界〉を深化・拡充すること。

・できることの範囲（動作の可能域）を拡げること

こうした新しい自分を創る営みについては、自己創出システム＝オートポイエーシス（Autopoiesis）で説明することが、現実の学びに有効な整理となると考える。

オートポイエーシスは、1970 年代初めにウンベルト・マトゥラーナとフランシスコ・ヴァレラによって提唱された原理で、あるプロセスが何かモノやコトを産出し、その産出物の何れかを元にさらに別のモノやコトを産出する別のプロセスが独自に自律的に作動するようになるという、自律的に自己を作り変えていく連鎖的形成運動のありようをとらえる概念である。生命活動から社会活動まで様々な分野で、形成運動をとらえる枠組みとして検討されているものである。

オートポイエーシスは、これまでの自分を基にしながら、次の自分を創り出していく連続運動であるが、動きに変化がないように見える場合も前と同じ作動を繰り返していると考える。つまり何も起こっていないのではなく、同じことが起こり続けているのである。これは、「学び」においては、いくら練習しても上達しないという状態である。進歩とは、何らかの外乱（刺激）を受けて、システムの作動が変容することである。さて、外乱（刺激）があった場合も、どのようにシステムの作動が変化するかは予測不可能で、次の 3 通りのいずれもが起こりうる。

a. 変わらない
b. 別様に作動が変わる
c. 作動を止める

「学び」において、一番問題となるのは c の場合で、指導したことによってかえって成長の芽を摘んでしまうというのがこれである。

原理的に人の認識システムは、個々の内に完結して作動しているものであり、教える人の「こう教えました」と学ぶ人の「こう学びました」はパラレルな作動である。人にものを教える難しさは、学びが他者の出来事であることにある。よって、教える人は、他者の内に望ましいシステムの作動が起こる可能性の高い刺激を与えることしかできない。

人（の認識）が変わる可能性が高いのは、〈他者〉（＝異質なもの）と出会って、これまでのシステムの作動（今までのやり方）では上手く対処できないときである。

こうした原理から、新しく自分を創るチャンスを活かすなら、次のような行為が有効である。

●組み替える・つなぐ　…経験と知識、既知と未知を有機的に（意味を持って）結びつける。
●出会う　…今までの自分を相対化させる〈他者〉と出会う。

今まで分かっているつもりだった人が、ある出来事を通して別様に見えてくること。心を動かされる自然や出来事に出会って、世界や人生の意味が変わってくること。刺激を与えてくれる人や学問・芸術に出会って、より深く広く、ものごとが見えるようになること。こうしたことを、人は、「おもしろい」と感じ、根源的に欲求している。このような知的欲求を満たすことが、学びのシステムが作動を続ける原動力である。

以上の説明は、我々が日常経験していることと合致していると思われるが、いかがであろうか。

参考文献

H.R. マトゥラーナ／F.J. ヴァレラ、河本英夫訳『オートポイエーシス 生命システムとは何か』、国文社、1991.10.30。H.R.MATURANA & F.J.VARRELA, “AUTOPOIESIS AND COGNITION : THE REALIZATION OF THE LIVING”, D.Reidel Publishing Company, 1980.

河本英夫『システム現象学　オートポイエーシスの第四領域』新曜社、2006.6.23

山下和也『オートポイエーシス論入門』ミネルヴァ書房、2010.1.10

山下和也『オートポイエーシスの教育』近代文芸社、2007.4.20

ニコラス・ルーマン、土方透訳『システム理論入門　ニコラス・ルーマン講義録【1】』新泉社、2007.4.30

他

森本 幾子（もりもと いくこ） 専門は、近世近代商品流通史研究。主な研究対象地域は、阿波国撫養（現徳島県鳴門市）、大坂（現大阪市）、尾道など。当該地域の廻船問屋をはじめとする商人資本の経営分析や商品流通を介した地域社会との関係を主軸に研究を進めている。現在の研究テーマは①近世近代期瀬戸内海地域の商家研究② 19 世紀の大坂商人研究③ 19 世紀の広島藩政史研究。

［研究要旨］

徳川将軍家と広島藩浅野家

― 大奥から大名家へのお輿入れ ―

尾道市立大学経済情報学部経済情報学科講師
森本 幾子

本講座では、近世後期における徳川将軍家と広島藩の関係を、天保 4 年（1833）の広島藩九代藩主浅野斉粛と徳川十一代将軍二十四女（末姫）の婚姻を通して紹介し、近世後期の広島藩政における大奥からの正妻降嫁の意味について考察を行った。

1．徳川将軍家と広島藩浅野家

徳川将軍家と広島藩浅野家の関係をみると、広島藩初代藩主浅野長晟の正室が徳川家康の娘（振姫）であったことや、二代藩主浅野光晟が三代将軍徳川家光と従兄弟であったことなどから、藩政初期より深い血縁関係によって結ばれていた。さらに、二代藩主浅野光晟治世時以降、広島藩主は「松平安芸守」を唱えるようになり、本家は公的に「松平」姓を名乗るようになった。慶安元年（1648）には、広島城下に外祖父徳川家康を祀る東照宮を遷座し、幕府に対する忠誠を表明することによって、広島藩は領内における幕藩体制確立の内面化を図った。

2．大奥からの正室降嫁

近世後期の広島藩では、浅野斉粛が九代藩主に就任し、関蔵人・今中大学など執政年寄の実質的権力掌握のもと、大坂商人に大きく依存した財政政策が採用され、領外市場における正金銀獲得のため国産専売政策を推進していた。この頃、広島藩の蔵元であった鴻池善右衛門からの借財は、過去最高額に達し、天保８年（1837）には、これまでの「用談慣行」も破棄されるに至った。徳川将軍家との縁組は、このような財政難のさ中で行われたのである。

天保４年（1833）11月、正式に徳川十一代将軍家斉の二十四女末姫と広島藩九代藩主浅野斉粛の婚儀がととのい、広島藩は将軍家から正妻を迎えることとなった。本来、徳川将軍家から正妻を迎える場合の婚礼は、正式には「御入輿御婚礼」と呼ばれていたが、十一代将軍家斉治世時の文化文政期～天保期にかけては、幕府・諸藩ともに経済的に逼迫した状況であったため、「御引移御婚礼」と呼ばれ、略式化されるようになっていた。幕府老中からも、広島藩に対して婚礼の略式化についての通達がなされたが（〔松平安芸守末姫君御引移一件〕（広島県立文書館「千葉家文書」））、略式とは言え、将軍家からの降嫁には多額の費用を要したため、ますます大坂商人からの借銀に依存せざるを得ない状況となった。

広島藩執政年寄の関蔵人と今中大学は、藩主浅野斉粛とともに江戸城へ登城し（江戸城に登城する際には「年寄」ではなく「家老」という名称に変わる）、婚礼全般を取り仕切ることによって（「姫君様御入輿御前後要用控」（広島大学中央図書館所蔵「今中文庫」））、幕府役人との関係（人脈）構築を目論み、幕府と広島藩の結びつきをより強固なものにしようとしていたことが伺える。

3．婚礼費用

この婚礼において、広島藩が支出しなければならない主な費用は、①広島藩上屋敷の増築費用を含む諸経費、②徳川将軍家（将軍・御台・江戸城本丸および西丸の老中・惣女中など）へのお礼の品々、③新たに末姫に付けられる浅野家家中への広島藩勘定所からの出費、④大奥から広島藩上屋敷に入る約50名の「幕府女中」への宛行などであった（「御住居諸品控　天保四年」（広島大学中央図書館所蔵「今中文庫」））。

これらの諸経費が藩財政に占める割合について検討してみたい。【表１】の嘉永７年（1853）頃の広島藩の財政収支をみると、収入源としての年貢米250,000石（広島藩の石高は420,000石余なので五ツ物成で換算）を金に換算すると、416,666両となっている（ただし、これは当時の広島藩執政年寄が、家老の諮問に応じて提出したもので、藩財政の実態からはきわめてかけ離れているとされているが、支出内容とその比率が判明する。）。つづけて【表２】をみると、

表１　天保４年（1833）末姫御婚礼に要する費用

合計：11 万 813 両 8 匁 3 分 7 厘	
内	費用名目
580 両余 67 貫余	御献上物御進物代
1,593 両余 11 匁 1 分 8 厘	姫君様より御献上物御進物御備え
1 万 2831 両余 45 貫余	御道具その他御勘定所出来
5,012 両余 34 貫余	御蔵所女中衆料理向支度料代
3 万 3,184 両余 185 貫余	御住居御作事所普請
156 貫余	御納戸入用
4,401 両余 20 貫余	中奥女中共諸用方
9 貫余	御合力
1,094 両余 22 貫余	御内用払
1,544 両余 9 貫余	諸支払
14 両余 6 貫余	万支払
14 両余 3 貫余	旅行払
1,047 両余 15 貫余	御家来払
1,728 両余 21 貫余	御扶持米代
32 貫余	侍中引渡し
11 貫余	御書翰方渡し
2 万 9,994 両余	御入用
1,002 両余 6 貫余	御内々の御進物代
1,501 両余	万屋払い残り

注）今中文庫Ａ４１－４「御住居諸品控　天保四年」（広島大学中央図書館所蔵）より作成。

末姫との婚礼に要する費用の合計が110,813両余となっているので、単純に見積もっても、少なくとも現米収入の約四分一にあたる費用が、末姫の降嫁には必要であったことが分かる。

とりわけ多額の費用を計上したのは、「御住居御作事所普請」（33,184両と銀185貫余）で、広島藩江戸上屋敷における末姫と大奥から入る約50名にのぼる「幕府女中」たちの生活空間の増築費用であった。

表２　嘉永６年（1863）頃の広島藩財政収支

費目		米（石）	⇒金に換算（両）	同百分比（%）
収入	現米	250,000	416,666	100
支出	大坂借財払・江戸暮向	70,000	116,666	28
	銀札代	30,000	50,000	12
	国元暮向	30,000	50,000	12
	家中其外扶持方	120,000	200,000	48
	住居用賄	12,000	20,000	4.8
	姫君様御化粧料	1,800	3,000	0.7
	支出計	263,800	439,666	105.5
差引		-13,800	-23,000	-5.5

注）『広島県史　近世２』より作成。

これは、広島藩年寄が、家老の諮問に応じて見積もったもので、藩財政の実態からはきわめてかけ離れているとされているが、支出の内容とその比率が分かる。

4．他大名家からの祝儀の品々

広島藩主浅野斉粛と末姫の婚礼に際しては、計57の大名家から祝儀の品々が贈られ、これが末姫の嫁入道具として広島藩江戸上屋敷に入れられた。これらは実際には、江戸城の作事場で製作されたものである。浅野斉粛の朝廷官位は「従四位下」、江戸城での詰間は「大広間」で、おもにこれとほぼ同格または上格の大名家から祝儀の品が贈られている（「〔松平安芸守末姫君御引移一件〕」（広島県立文書館所蔵「千葉家文書」））。

例えば、同格の大名家では、松平伊予守（備前国岡山藩主池田斉敏（31万5,200石））から「御膳十人前」、松平大膳大夫（長門国萩藩主毛利斉元（36万9,000石余））から「御膳部一通・御行器具一荷」、松平備前守（筑前国福岡藩主黒田斉清（52万石余））から「御台子一通・御屏風一双」、松平大隈守（薩摩国鹿児島藩主島津斉興（77万800石））から「縮緬幕三」がそ

れぞれ贈られている。

さらに、格式が上の御三家からは、紀伊大納言（紀伊国和歌山藩主徳川斉温（55万5,000石））から「御膳部一通・御貝桶一対」、尾張中納言（尾張国名古屋藩主徳川斉朝（61万9,500石））から「御厨子棚一銚子・御屏風一双」、水戸宰相（常陸国水戸藩主徳川斉昭（35万石））から「御書棚一・御台子一通」などがそれぞれ贈られている。このように、徳川将軍家と大名家との婚姻を通して、とくに同格の大名家同士の交際が継続され、関係の強化が図られたものと考えられる。

5．「御住居」（末姫）の権力

将軍家から降嫁した末姫は「御住居様」と呼ばれていた。広島藩上屋敷における浅野斉粛と末姫の生活は、ほぼ末姫上位のもとに営まれ、「御住居」の権力、つまり実家である徳川将軍家側の大きさを示すものであった。例えば、末姫の食事は、幕府・広島藩両方から御膳が出され、このうち末姫は、実家である徳川将軍家から用意されたものを食し、広島藩が準備したものについては、手は付けないが、一応食したという態にしていたようである。また、表向きには困難なため、庭を通り抜けるという形をとって父親である将軍家斉が広島藩上屋敷の末姫に会いに訪れることもあった（『むかしばなし』十二代藩主浅野長勲公回想）。末姫は基本的に広島藩江戸上屋敷で生活し、広島入りすることはなかったものと思われる。天保6年（1835）の浅野斉粛の広島初入国（江戸で家督を継いで以降、初めて藩主として領国に入ること）以降も、浅野斉粛と末姫は、「早道」と呼ばれる江戸－広島間の公式書状（月2回程度往復）によって互いの息災を確認し合っている（「日記」（広島大学中央図書館所蔵「今中文庫」））。

6．将軍家からの正室降嫁と広島藩政における意味

ところで、大奥からの正妻の降嫁は、大名家にとってどのような意味を持っていたのであろうか。天保10年（1839）正月9日の年寄今中大学の日記には、「此度武州穏田村熊野権現社地其外同所地続畑地共姫君様御願之通り殿様御拝領被遊候ニ付、殿様江為御歓惣出仕御帖附今日五半時麻上下着登城いたし候事」と記され、「武州穏田村」（現在の東京都渋谷区神宮前で、浅野家内証分家があった場所）の権現社地とその他それに続く畑地が、「姫君様御願之通り」に藩主浅野斉粛に拝領されたことが分かる。つまり、幕府からの所領の安堵には、大奥から降嫁した末姫の助言があったことがこの記載から伺える。

さらに、天保6年（1835）、広島藩は藩主浅野斉粛の初入国に合わせ、広島城の艮の方角に（北

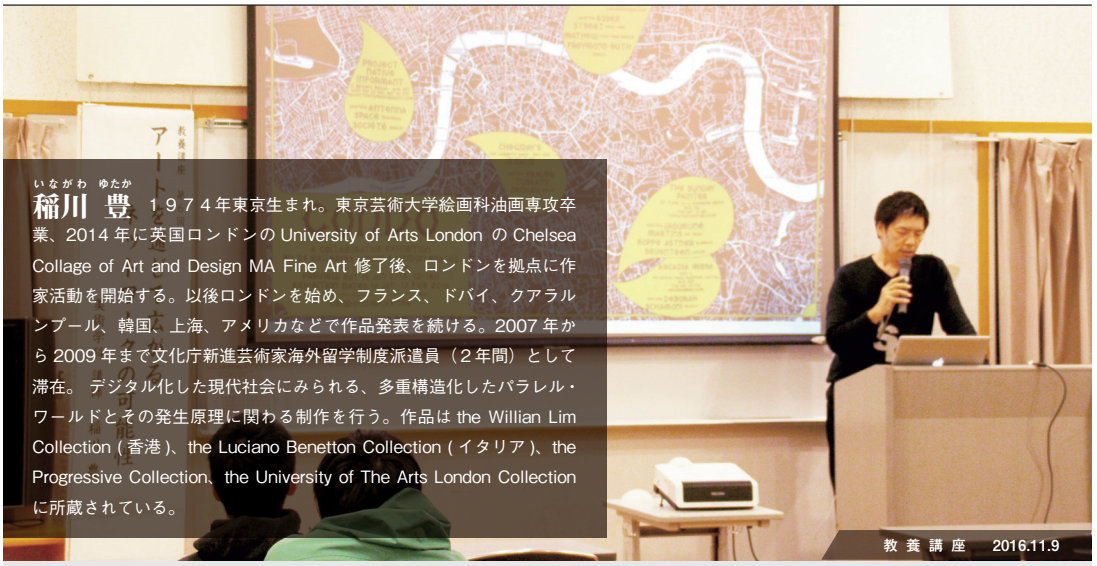
東で鬼門を指す)、太祖浅野長政を祀る神廟「二葉山御社（現在の広島市東区饒津神社)」を造営した。太祖浅野長政の神廟造営は、歴代藩主の悲願であったが、これまでそれが叶うことはなく、斉粛の代に至って初めて造営が成し遂げられたのであった。

そもそも、大名家の太祖を祀るためには、幕府の許可と京都の吉田家からの「大明神号」の神号授与が不可欠であったが、広島藩年寄関蔵人と今中大学は、天保 4 年における藩主浅野斉粛と末姫との婚礼準備に際して、幕府役人のうち寺社の管理に係わる寺社奉行との人脈を築いていたことから（「姫君様御入輿御前後要用控」（広島大学中央図書館所蔵「今中文庫」))、広島藩における新たな神廟の造営許可を得ることができたのではないかとも考えられる。さらに、徳川将軍家との婚姻は、京都の吉田家の広島藩に対する「大明神号」授与の大きな根拠となったものと思われる。

以上のように、徳川将軍家からの正室の降嫁は、近世後期の広島藩にとって莫大な費用を要するものであったが、一方で、幕府からの所領安堵、幕府との関係の再構築、諸大名家との交際と関係強化、領内における神廟造営許可等において重要な役割を果たしたのではないかと考えられる。今後、大奥からの正室降嫁の広島藩政における意義については、官位上昇などの点も含め、さらに考察を深めていく必要がある。

おもな参考文献

『廣島市史』第 3 巻（広島市、1923 年）
『廣島市史　社寺誌』（広島市、1924 年）
「藝藩三十三年録」（小鷹狩元凱『元凱十著』弘洲雨屋、1930 年）
『広島県史　近世 2　通史Ⅳ』（広島県、1984 年）
土井作治『幕藩制国家の展開』（渓水社、1985 年）
勝矢倫生『広島藩地方書の研究』（英伝社、1999 年）
岸本覚『明治維新期の政治文化』（思文閣出版、2005 年）
『今中文庫目録－近世今中家と広島藩』（広島大学出版会、2006 年）
畑　尚子『徳川政権下の大奥と奥女中』（岩波書店、2009 年）
福田千鶴「奥女中の世界」（『＜江戸＞の人と身分 4　身分の中の女性』吉川弘文館、2010 年）
三宅智志「大名の婚姻に関する一考察－幕末外様国持の海防動員に関連して－」（『佛教大学大学院紀要』第 39 号、2011 年）



稲川 豊（いながわ ゆたか） １９７４年東京生まれ。東京芸術大学絵画科油画専攻卒業、2014 年に英国ロンドンの University of Arts London の Chelsea Collage of Art and Design MA Fine Art 修了後、ロンドンを拠点に作家活動を開始する。以後ロンドンを始め、フランス、ドバイ、クアラルンプール、韓国、上海、アメリカなどで作品発表を続ける。2007 年から 2009 年まで文化庁新進芸術家海外留学制度派遣員（２年間）として滞在。 デジタル化した現代社会にみられる、多重構造化したパラレル・ワールドとその発生原理に関わる制作を行う。作品は the Willian Lim Collection (香港)、the Luciano Benetton Collection (イタリア)、the Progressive Collection、the University of The Arts London Collection に所蔵されている。

教養講座　2016.11.9

［研究要旨］

アートを通じて広がるネットワークの可能性

尾道市立大学芸術文化学部美術学科油画コース講師
稲川 豊

インターネットの普及に平行したグローバル化／デジタル化が謳われて久しいが、このインターネット／デジタル化の導入部に当たるであろう、私たちの日々の生活にもたらされた変化は一般的な生活のインフラに留まらず、当然アートの世界やその世界的市場形成にも大きく影響を及ぼしている。既存の“中央 — 地方”といった場所の関係性は様々なコミュニケーション・ツールの発展やロジスティクにより大きな変化を迎えようとしている。そこで固定された中央—地方という足場（アイデア）に立脚するのではなく、そういった固定概念から浮遊したフレキシブルかつ実用的なネットワーク形成を行うことが重要になってくると考える。個人の手のひらに様々なツールが持たされている現代において、個人レベルでの進歩・発展はいかに境界線や枠組みの踏み均された拠り所のない地盤に立脚し、領域のアップデートや再解釈を試みる実験の場へ、常に自身を投げ込めるか、またいかに実験結果を検証し、今後に反映させるか、が大きな鍵となっているように感じる。

現代におけるアートの役割のひとつが「すでに定義づけされた領域の拡張」であるならば、実験的アートの実践を通じ、この多様に複雑化し全体の把握が容易ではない現代の文化的ランドスケープの総体の理解やアプローチを試みることが可能なのではないか。SNS などで漠然と膨張した“繋がっている安心感”という形のネットワークではなく、たとえ小規模なものであれ、多国籍かつ他者性を内在し故に有機的なコミュニケーション力を要する関わりを生み出す場の創世が有効であると考える。

こういった私自身の思いを受けて、アーティスト・ユニットもうひとり（小野環＆三上清仁）、東京のデザインスタジオ Studio Niji の兼本ひとみを共同ディレクターに迎え、インターナショナル・アートプロジェクト「オンリーコネクト」は２０１５年に発足した。もうひとりが尾道の斜面地に作り出した実験の場、光明時會舘を会場に、2015 年／ 2016 年にイギリス／イタリア／フランス／シンガポール／ギリシャ／アメリカの作家を含む多国籍な展覧会を開催した。場の記憶や建築的要素に介入しながら、参加作家の作品がイレギュラーに関わりあう重層的な共生スペースを作り出した。また 2017 年夏にはシンガポールに場を移し、3 回目の展示が行われる予定である。シンガポール／マレーシアの作家たちとのシンポジウムも企画されており、さらなる対話や実験の検証を多角的に行う。結果、企画に参加した各国の関係者たちのネットワークが有機的に進化し、相互作用的に活動の熱量を上げていくことが予想される。“個”を拠点とした国際的なネットワーク構築の実践的事例となるだろう。

平成27年度　教養講座アンケート集計

尾道市立大学では、地域に開かれた大学をめざし、教育研究活動の一端を地域に還元することを目的として、全６回、オムニバス形式の講座「教養講座」を開講しております。

第１回　尾道の産業に焦点を当てた経済波及効果

講師	岡本隼輔	開催日時	2015/10/7　18：30 ～ 20：00			会場	しまなみ交流館　大会議室	
参加者数	19 名		アンケート回答者			17 名（回収率 89%）		

年齢	～10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	0	0	2	2	6	3	3	0

性別 ※27年度は集計なし	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	-	-	-		14	1	1	1	0

公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他
	6	2	0	6	0	0	1	2

講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	5	7	3	1	0		5	9	2

ご意見 ご感想 (抜粋)	• 尾道の波及効果を具体的に聞きたかった。 • 少々むずかしかったが参考になりました。 • 数字が大事とわかりました。 • 是非尾道市の産業連関表を完成して欲しいと思います。また、完成データを公開していただきたいです。期待しています！！

第 2 回　人材採用・育成と経営上の課題：社長の本音から学ぶべきこと

講師	藤原靖也	開催日時	2015/10/14　18：30 ～ 20：00	会場	しまなみ交流館　大会議室
参加者数	16 名		アンケート回答者		12 名（回収率 75%）

年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	0	2	1	0	3	6	0	0

性別 ※ 27年度は集計なし	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	-	-	-		9	1	1	1	0

公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他
	2	3	0	8	0	1	3	0

講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	2	5	3	0	0		5	4	1

ご意見ご感想（抜粋）

- 人材採用がミスマッチで終わってしまった感じがした。
- 興味深く聴かせていただきました。有難うございました。
- 具体的な話で分かりやすかった。対談形式…良いですね。

第 3 回　尾道の認知地図

講師	塚本真紀	開催日時	2015/10/21　18：30 ～ 20：00	会場	しまなみ交流館　大会議室
参加者数	23 名		アンケート回答者		18 名（回収率 78%）

年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	0	2	1	1	3	7	4	0

性別 ※ 27年度は集計なし	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	-	-	-		16	0	1	1	0

公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他
	7	2	0	14	0	0	1	1

講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	6	7	3	1	0		13	4	0

ご意見ご感想（抜粋）

- もっと自分は尾道市の地図を理解しているものと思っていたが、実際紙に書くと難しかったです。尾道駅～新尾道は間のルートがわからないです。新幹線と電車しか使わないからでしょうか。
- ”発達と心理”を学んだが、今回の講義は新鮮だった
- 日齢を重ねればどんな地図でも描けます。たまたま描いた地図がデータになるのでしょうか。認知地図はよくわかりませんでした。
- 人間の認識は人間の歴史を考える学問かもしれない。
- スライドが見やすく良かった。実際に学生が描いた地図から調査していたので、わかりやすかった。聴講者も認知地図の作成をし、比較できたので面白かった。

第4回　小泉八雲の英語が語る松江

講師	平山直樹	開催日時	2015/11/11　18：30 ～ 20：00	会場	しまなみ交流館　大会議室
参加者数	17名	アンケート回答者	13名（回収率76%）		

年齢	～10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
	0	0	3	0	3	3	3	0

性別 ※27年度は集計なし	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	-	-	-		12	0	1	0	0

公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他
	4	2	0	6	1	0	2	0

講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	6	5	0	0	0		10	1	0

ご意見ご感想（抜粋）

- 家族の協力のもと夜に出て、久々に楽しく勉強しました。
- 11月3日に出雲大社と八重垣神社に行ったばかりなので、とても良かったです。
- 大変楽しく学ぶことができました。

第5回　尾道を検索しよう

講師	木村文則	開催日時	2015/11/18　18：30 ～ 20：00	会場	しまなみ交流館　大会議室
参加者数	19名	アンケート回答者	16名（回収率84%）		

年齢	～10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
	0	0	1	2	2	5	6	0

性別 ※27年度は集計なし	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	-	-	-		13	1	1	0	1

公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他
	8	2	0	6	0	1	2	0

講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	5	7	2	0	0		12	3	0

ご意見ご感想（抜粋）

- ビッグデータについて詳しく聞けて良かったです。
- "情報コースの面接授業を時々受講しているが、程度が高すぎてチンプンカンプンの時がある！今回の内容は私にちょうど良い内容で良かった
- 自営業をしていますが、データを学ぶこと、検索のこと、検索に引っかかりやすいためにどうすれば良いかがとても勉強になりました。
- 大変わかりやすい説明でした。フレーズ検索、マイナス検索もトレンドも使えそうです。

第 6 回　ザ・ビートルズに学ぶデザイン、広告、PR

講師	世永逸彦	開催日時	2015/11/25　18：30 ～ 20：00	会場	しまなみ交流館　大会議室
参加者数	20 名	アンケート回答者	19 名（回収率 95%）		

年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	2	6	2	2	4	3	1	0

性別 ※ 27年度は集計なし	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	-	-	-		16	1	2	0	0

公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他
	3	2	2	5	0	0	5	3

講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	7	10	1	0	0		16	2	0

ご意見ご感想（抜粋）

- 世界でこれだけ成功している理由が少しわかった気がします
- ビートルズの音楽は普段からよく聴いていましたが、デザインや広告として掘り下げた講座は大変興味深かったです。
- ビートルズが好きで興味を持ち参加しました。デザインと音楽の関わりを掘り下げたものをもっと聞きたいと思いました。ありがとうございました。
- ビートルズについて断片的にしか知らなかったので、デザインの視点から体系的に知れてよかったです。英語の勉強も兼ねてこれからビートルズを聴いていきたいです。

平成28年度　教養講座アンケート集計

尾道市立大学では、地域に開かれた大学をめざし、教育研究活動の一端を地域に還元することを目的として、全６回、オムニバス形式の講座「教養講座」を開講しております。

第１回　尾道てのひら怪談について

講師	光原百合	開催日時	2016/10/5　18：30 ～ 20：00			会場	しまなみ交流館　大会議室	
参加者数	25 名		アンケート回答者			21 名（回収率 84%）		

年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	1	1	0	2	6	4	5	2

性別	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	12	9	0		19	0	2	0	0

公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他
	11	2	1	7	1	3	3	1

講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	15	3	1	0	0		20	1	0

ご意見ご感想（抜粋）

- 芝原弘氏のこのフレーズ「怪談は再会のための物語、明日生きる力を振り絞るための物語」この視点が新しい発見でした。
- とても楽しく聴かせていただきました。尾道てのひら怪談楽しみにしています。
- もっと怪談を聞きたかったです。おもしろかったです。
- 具体的なアクション、まちづくりにつながる話でよかった。
- 楽しいけれど短い 90 分でした。光原さんありがとう。

第 2 回　日本財政の現状と消費税増税延期の影響

講師	金田陸幸	開催日時	2016/10/12　18：30 ～ 20：00	会場	しまなみ交流館　大会議室
参加者数	21 名	アンケート回答者	21 名（回収率 100%）		

年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	3	0	1	3	2	5	6	1

性別	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	10	10	1		18	2	0	1	0

公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他
	10	3	,	5	1	3	1	1

講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	9	7	1	1	0		14	5	0

ご意見ご感想（抜粋）

- 現在の状況がよくわかり、頭の中で整理できました。
- 増税の延期の影響がメリットの方が少ないように感じて、増税に賛成したいと思いました。
- 日本の現状が少しわかりました。歳入と歳出の関係、難しいところだと思いました。
- 現在の日本の経済的な危機がよくわかった。これから経済をよくするために何をすべきか色々経済のことについて学び考えていこうと思った。
- 我々高齢者はできるだけ健康で、少しでも何か役に立つ仕事をしなければと思いました。他人になるのではなく、もっと主体性を持たなければ…

第 3 回　高垣寅次郎とアダム・スミス

講師	林直樹	開催日時	2016/10/19　18：30 ～ 20：00	会場	しまなみ交流館　大会議室
参加者数	23 名	アンケート回答者	21 名（回収率 91%）		

年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	5	2	2	0	1	7	4	0

性別	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	12	8	0		16	2	2	0	1

公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他
	6	2	0	6	0	2	0	6

講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	11	9	1	0	0		14	5	0

ご意見ご感想（抜粋）

- 国富論をじっくり読んでみようと思いました。ありがとうございました。
- スミスをここまで鋭く批判していた人がいることを初めて知りました。しかもそれが尾道とゆかりのある人であったということを知れて、勉強になりました。経済に関心ある人が結構おられることに驚きました。
- 卒論を書く上でとても大きなヒントをもらえた。90 分がとても短く感じられた。最後の質問コーナーの時、質問ひとつひとつの内容の密度に驚いた。
- 高垣寅次郎とアダムスミスの意外な接点を知ることができてよかったです。授業でもちらほら出てきていたアダムスミス。今日はそのことについて深く知ることができてよかった。

第4回　「学び」を考えるー新しく自分を創っていくためにー

講師	信木伸一	開催日時	2016/10/26　18：30 ～ 20：00	会場	しまなみ交流館　大会議室
参加者数	25名	アンケート回答者	25名（回収率100%）		

年齢	～10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
	1	4	1	2	3	4	7	3

性別	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	11	14	0		19	1	2	2	1

公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他
	15	4	1	7	0	2	2	1

講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	16	5	1	0	0		20	2	0

ご意見ご感想（抜粋）

- とても参考になりました。自分の勉強が止まっていますが、少し前に進むように思えました。
- まだまだ学び足りない、新たに学びたいと思えました。
- 信木先生の話、題目を変えてもう一回聞きたい
- ぐいぐい引き込まれ、あっという間の時間でした。ありがとうございました。
- 事例に変えて説明され、よく理解できた
- 後期高齢者で通信制大学の学生でもあります。これからの社会末端機器も触れないようでは生きてゆけないのでは…と案じている。この分野のやさしい授業を希望します。

第5回　徳川将軍家と広島藩浅野家ー大奥から大名家へのお輿入れー

講師	森本幾子	開催日時	2016/11/2　18：30 ～ 20：00	会場	しまなみ交流館　大会議室
参加者数	34名	アンケート回答者	34名（回収率100%）		

年齢	～10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
	5	3	2	1	2	8	11	2

性別	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	17	16	1		30	2	1	1	0

公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他
	14	3	0	14	0	4	7	0

講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	23	6	1	0	0		27	3	1

ご意見ご感想（抜粋）

- 最近江戸期を舞台にした時代小説にはまっていたので、とても興味深く拝聴しました。ありがとうございました。
- 大奥から姫を迎えることにここまで資金を要するとは知りませんでした。藩財政の関わりなど勉強になりました。
- 広島についても知らないことばかりで面白かったです。女性の権力については大河ドラマ「花燃ゆ」を思い出しました。もう少し自分でも家斉や、当時の大奥について調べてみたいと思います。
- 徳川家と浅野家の関係や、広島藩の文化事業の関わりについてとても理解しやすかった。
- 三原・妙正寺にある浅野藩の墓碑は立派なものです。末姫さまのお輿入れが大変だった事を改めて知りました。

第 6 回　アートを通じて広がるネットワークの可能性

講師	稲川豊	開催日時	2016/11/9　18：30 ～ 20：00	会場	しまなみ交流館　大会議室
参加者数	19 名	アンケート回答者	18 名（回収率 95%）		

年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	0	3	5	5	2	2	1	0

性別	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	12	6	0		12	1	1	4	0

公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他
	2	2	2	6	0	1	6	0

講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	6	9	2	1	0		10	7	1

ご意見
ご感想
(抜粋)

- 今日のような現代美術や美学に関する講座を楽しみにしています！
- いつの間にか１年が過ぎていて驚きました。
- 面白かったです。今年度の教養講座も無事終わってよかったですね。お疲れさまでした！
- 海外での経験はいろんな面で貴重だと改めて感じました。
- 毎年受講する事を楽しみにしております。芸術・文学・経済と学べる楽しさを実感しています。ありがとうございました。

平成28年度　尾道学入門公開授業アンケート集計

地域に開かれた大学づくりの一環として、教養科目の講義「尾道学入門」を一部一般公開いたしました。

囲碁の魅力 - 本因坊秀策の生地にて -

講師	**石倉昇**（日本棋院東京本院所属九段、東京大学客員教授）							
開催日時	2016/4/21　9：00 ～ 10：30					会場	尾道市立大学 401 講義室	
参加者数	50 名			アンケート回答者		39 名（回収率 78%）		
年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	0	0	1	0	3	19	11	4
性別	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	20	18	1		26	10	2	1	0
公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他	
	16	1	0	3	0	9	10	11	
講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	33	4	0	0	0		38	0	0

ご意見
ご感想
（抜粋）

- 一般市民向けの石倉先生の囲碁教室を作ってください。
- たくさんの人が受講されびっくりしました。
- 来年の授業を見学できれば幸いと存じますが（無理でしょうね）
- 年を取っても頑張れると勇気をいただきました。
- これからも高齢になっても続けて頑張ろうと思いました。
- 95 歳の方の話に励まされました。ボツボツ頑張ります。
- 私の歳でもまだ右脳の為に希望が持てるそうなので、昨年から始めたばかりですが、頑張りま～す！
- 今日はとても素晴らしい企画を作って頂きありがとうございました。貴校で囲碁の講座が今後計画なさることがあれば、松永に住んでいますので、受講させていただければ幸いです。
- 大学内での活動でなく、地域（市・内外）へ貢献する活動を望みます。当大学は地理的に高齢者には不自由であり、市の公民館などで取り組んでほしい。大変わかりやすい講義で、大変ありがとうございました。
- 来年から大学講座に入れられること、大変良いことだと今から期待しています。

尾道の思い出

講師	高橋玄洋（脚本家、作家）							
開催日時	2016/5/19　9：00 ～ 10：30				会場	尾道市立大学 401 講義室		
参加者数	18 名		アンケート回答者		18 名（回収率 100%）			
年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	0	0	1	0	1	5	6	5
性別	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	12	6	0		12	4	2	0	0
公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他	
	3	1	0	5	0	10	3	0	
講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	9	4	1	0	0		13	1	0
ご意見ご感想（抜粋）	• 玄洋先生ありがとうございました。忙しい中の充実した時間でした。今を大切に生きていきます。 • 玄洋さんほどの方がコンプレックスに悩まれていたのが意外でもあり、そうでなければ創作はできないのかもと思った。素直なことばで話して下さって感動しました。ありがとうございました。 • 広島市立大で実施している、社会人を含めた長期アート講座の実施を尾道でも是非！ • 小説を読む、赤鉛筆を持って。アンダーラインを引きながら。小生、20 歳頃、学生時代、生き方に悩む頃、大阪の古本屋にて『出家とその弟子』倉田百三著、『運命愛』くい入るように読んだ。この意味その後の小生の人生訓となっています。								

私の書いた尾道

講師	森岡久元（小説家）							
開催日時	22016/5/26　9：00 ～ 10：30				会場	尾道市立大学 401 講義室		
参加者数	10 名		アンケート回答者		10 名（回収率 100%）			
年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	0	0	0	1	0	2	4	3
性別	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	7	2	1		9	1	0	0	0
公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他	
	2	3	0	3	0	6	0	0	
講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	4	5	1	0	0		8	1	0
ご意見ご感想（抜粋）	• 私は大阪で戦災に会い、吉和へ。30 歳から長江へ。尾商にも在学した。お話で自分の人生を確認でき、これからも尾道を愛し誇りを持って生きていきます。どうもありがとうございました。 • 戦前・戦後の尾道の様子はよくわかった。吉和漁港の話がもっと知りたかった。 • 尾道のことをもっと知りたいとの思いにかられました。 • 尾道史として大変貴重な話でした。尾道というと寺、商業の町として捉えていました。商人の生活などの話も聞きたかった。								

志賀直哉の尾道時代

講師	**寺杣雅人**（尾道市立大学名誉教授）							
開催日時	**2016/6/2　9：00 ～ 10：30**				会場	**尾道市立大学 401 講義室**		
参加者数	**15 名**			アンケート回答者		**15 名（回収率 100%）**		
年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	0	0	0	0	1	4	6	4
性別	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	11	2	1		10	4	0	1	0
公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他	
	4	1	0	5	0	8	2	2	
講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	8	4	1	1	0		11	2	0

ご意見ご感想（抜粋）

- 「暗夜行路」の前身は「尾道」だと強く感じることができた。
- 直哉の原稿・遺言など貴重な資料を紹介していただき、誠に有難うございました。尾道に住んでいることの幸せを感じました。
- 一般対象講座としては大変良かったと思います。またの機会にこの話題の発展を聞きたい！
- はじめての参加です。ありがとうございました。知り得なかったお話で、学生と一緒に受講でき、新鮮な気持ちになりました。また次回を楽しみにしています。年を重ねてもまだまだ知りたいことがたくさんでいい機会でした。

まちづくりの物語　ーまち・ひと、絆をつなぐデザインの考察ー

講師	**加藤慈然**（尾道観光協会理事・内閣府地域活性化伝道師）							
開催日時	**2016/6/16　9：00 ～ 10：30**				会場	**尾道市立大学 401 講義室**		
参加者数	**7 名**			アンケート回答者		**7 名（回収率 100%）**		
年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	0	0	1	0	0	2	3	1
性別	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	4	3	0		7	0	0	0	0
公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他	
	3	1	0	2	0	1	1	0	
講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	4	3	0	0	0		7	0	0

ご意見ご感想（抜粋）

- 一般人ですが、参考になり、楽しく拝聴いたしました。ありがとうございました。
- 尾道のことが歴史的によくわかりました。尾道に住んでいてもほとんど知らないということが分かりました。ありがとうございました。
- 私は尾道大好きで、町並み、建築塾など参加していますが、今回新しい発見もありました。尾道には日本一がたくさんあるということで、古い歴史、また今回大学生さんの支援もかなりたくさんあることを知りました。

尾道学の考え方

講師	荒木正見（九州大学哲学会会長・尾道学研究会顧問）							
開催日時	2016/6/30　9：00 ～ 10：30					会場	尾道市立大学 401 講義室	
参加者数	8 名			アンケート回答者		8 名（回収率 100%）		
年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	0	0	1	0	0	2	3	2
性別	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	6	2	0		7	1	0	0	0
公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他	
	3	0	0	2	0	2	2	1	
講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	7	1	0	0	0		6	2	0

ご意見ご感想（抜粋）

- 新しい切り口で、とても面白く拝聴いたしました。場所論ということ、はじめてでした。いろいろな考え方、感じ方を知って、思いを大きく拡げてゆきたいと思いました。ありがとうございました。
- 尾道学をはじめ、ものの見方についてヒントを頂いたように思う。わかり易いお話、ありがとうございました。
- 長い人生を過ごす中で、こんなに物事を深く考えられるということを知りました。ありがとうございました。

地域を知る・学ぶ・考える－尾道学研究会の取り組み－

講師	林良司（尾道学研究会・尾道市史編さん事務局）							
開催日時	22016/5/26　9：00 ～ 10：30					会場	尾道市立大学 401 講義室	
参加者数	7 名			アンケート回答者		7 名（回収率 100%）		
年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	0	0	0	0	1	3	2	1
性別	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	5	2	0		5	0	1	0	0
公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他	
	3	1	0	3	0	1	1	0	
講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	3	3	0	0	0		5	1	0

ご意見ご感想（抜粋）

- 尾道水道に 1945 年（昭和 20 年）の敗戦で無くなった大日本帝国海軍の「海防艦」が現存しています。戦後今年で 71 年になりますが、艦上の構造物は撤去した状態で現在も向島ドックの係船桟橋として使用されております。尾道駅の正面、小歌島の灯台の右下方グレイの艦体がそれです。向かって右側が艦尾。
- 地元の栗原小学校の教員です。ぜひ今後尾道学で学んだことを小学校の教材として生かしていきたいと考えております。またよろしくお願いします。
- 尾道学（調査研究を主としたもの）を生きた学問とするため（実際の観光・商業・工学的発展）のアプローチ（経済学などの学問との融合）の方法なども知りたい。

平成27年度・平成28年度　尾道文学談話会　テーマ一覧

尾道文学談話会は、日本文学科教員を中心として文字や言葉にかかわる様々な話題を提供し、市民の皆様と語り合う談話形式の公開講座です。

平成27年度

全12回	開催日	談話テーマ	講師
第1回	2015/4/6	志賀直哉「暗夜行路」序詞の謎	寺杣雅人・近代文学研究会
第2回	2015/4/27	志賀直哉の尾道時代	寺杣雅人
第3回	2015/6/1	詩の楽しさ	木村大刀子
第4回	2015/7/6	ナニコレ『百人一首』	藤川功和
第5回	2015/8/10	菊池寛「入れ札」を読む	寺杣雅人
第6回	2015/9/7	言語遊戯としての謎々	藤井佐美
第7回	2015/10/5	子どもの文学	林原玉枝
第8回	2015/11/10	ラフカディオ・ハーンから小泉八雲へ	光原百合
第9回	2015/12/7	バイリンガル小説を読む	高垣俊之
第10回	2016/1/8	くずし字で読む浦島太郎	藤井佐美
第11回	2016/2/8	浦島太郎の生い立ち	藤井佐美
第12回	2016/3/4	教室の中の文学	信木伸一

平成28年度

全12回	開催日	談話テーマ	講師
第1回	2016/4/4	中村憲吉「遺歌稿」を読む	寺杣雅人
第2回	2016/5/27	森岡久元の尾道小説を語る夕べ	森岡久元
第3回	2016/6/6	広島の詩人　御庄博実（みしょうひろみ）	木村大刀子
第4回	2016/7/4	子どもの文学・絵本	林原玉枝
第5回	2016/8/8	和田竜『村上海賊の娘』の魅力について	原卓史
第6回	2016/9/19	橋本竹下の漢詩について	鷹橋明久
第7回	2016/10/3	『雨月物語』を読む（1）―『雨月物語』の成立と序文について	藤沢毅
第8回	2016/11/7	永井荷風「罹災日録」を読む	寺杣雅人
第9回	2016/12/5	英文学を語学的に読む	平山直樹
第10回	2017/1/10	森敦の「月山」を読む	刈山和俊
第11回	2017/2/13	人にものを頼む表現　―『放浪記』から―	藤本真理子
第12回	2017/3/6	瀬戸内海の伝承を歩く（1）	藤井佐美

尾道の古文書解読講座（初心者対象） アンケート集計

経済情報学部森本研究室主催の公開講座「尾道の古文書解読講座（初心者対象）」は江戸時代の古文書解読のための初心者向け講座。尾道の古文書を通した歴史に関心のある方を対象に、江戸時代のくずし字解読の基礎的事項や解読ポイントについて学びました。

尾道の古文書解読講座（初心者対象）

講師	**森本幾子**（経済情報学部講師）							
開催日時	2016/7/16　15：00 ～ 16：30				会場	しまなみ交流館　大会議室		
参加者数	61 名		アンケート回答者		54 名（回収率 89%）			
年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	0	11	3	3	7	22	5	3
性別	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	38	16	0		43	1	3	6	0
公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他	
	10	1	1	18	0	11	7	14	
講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	41	9	0	0	0		49	0	0

ご意見ご感想（抜粋）

- 非常に面白かったです。定期的に開催していただきたいです。
- たいへん良い講座でした。ありがとうございました。
- 連続した中・上級の講座を！！
- また初級クラスがあればお教えください。
- 古文書に興味が湧いてきました。
- 地域の方の知識量に感嘆した。
- 次回を期待しています。
- 今まで読めたらいいなと思っていました。これをきっかけに続けて学んでいきたいと思います。
- たいへん勉強になりました。今後もこのような講座があれば是非参加したいと思いました。
- 学生の時、古文書学の授業もありましたが、すっかり忘れてしまっていました。たくさん資料を用意してくださりありがとうございます。家に帰ったら隅々まで読みますね！あっという間に時間が経ってしまいました。またよろしくお願いします。
- 初めは全く読めませんでしたが、解説をしていただくと読むことができました。背景もところどころで入れていただき、ただ読むよりも印象深かったと思います。
- 一字一字分かりやすく丁寧に教えてくださり、しかも尾道のことも分かり勉強になりました。
- 古文書解読、暗号解読の一種とみれば、とても面白い。
- 資料を沢山頂けたので家に帰ってから読むのが楽しみです。紙色のお話 etc. も勉強になりました。お疲れさまでした。ありがとうございました。
- とてもおもしろかったです。また講座があれば来たいです。
- とても分かりやすかった。第 2 弾を考えてください。
- 興味深かったです。わかりやすくてよかったです。

2014 年に刊行された著書『未来の図書館、はじめませんか？』をベースにして、地域と人と情報をつなぐ図書館、そして博物館や大学の「これから」についてお話ししていただきました。また、関連して昨今急速に普及している大学講義のオンライン配信サービスである MOOC についてもお話いただきました。

第 22 回　情報科学研究会　未来の図書館はじめませんか

講師	**岡本真**（アカデミックリソースガイド代表）							
開催日時	**2015/11/19　13：10 ～ 14：40**					会場	**尾道市立大学 401 講義室**	
参加者数	**59 名**		アンケート回答者			**52 名（回収率 88%）**		
年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	11	**16**	**5**	**6**	**11**	**4**	**0**	**0**
性別 ※ 27年度は集計なし	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	-	-	-		**35**	**9**	**1**	**5**	**3**
公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他	
	1	**16**	**1**	**30**	**0**	**0**	**20**	**4**	
講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	38	**12**	**1**	**0**	**0**		**44**	**7**	**0**

ご意見ご感想（抜粋）

- 地域における図書館の位置付けや「今」の図書館のことがよくわかりました。より良い図書館を作るのに携わる仕事に就きたいと感じました。
- 図書館のあり方に対する問題意識が持てました。図書館について日常的に利用していても知らないことばかりだと気づけました。
- 商業的な姿勢だけなのか、と思いましたが、非常に広い範囲の視野からのお話を伺えてよかったです。
- 今日の話は他の分野の仕事や学び方、生き方のヒントになるものでした。なんとなくだったものがはっきりと文字に表現できました。ありがとうございました。
- 現代の図書館の事情だけでなく、日本の人口や経済問題と関係させて図書館の増加や利用者数の問題を説明されていて、とても分かりやすかったです。貴重なお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。
- 良い図書館から出た経済効果を具体的に知りたい。ライブラリーカフェはどんな人が来たか知りたい。コワーキングスペースに興味あります。どんな新しいビジネスが生まれたか知りたい。2 割はネットでは解決しないことは勉強になった。
- 地域によって図書館の特徴に大きな違いがあるのが面白いなと思った。自分がよく利用していた時とは図書館は変化してきているんだなと思った。
- 図書館と地域のつながりを実感できました。
- 図書館はほとんど利用したことがなく、行き辛い場所でしたが、とても行きたくなりました。昨年「しまのわ」のイベントで図書館の茶室でお茶会をさせていただいたのですが、珍しいと知り嬉しくなりました。
- 講師の話すテンポ、話し方が、リズミカルで大変聞きやすかった。内容も面白かった。色々な図書館に行ってみたい。海外の図書館も紹介してほしい。
- 利用者の意識を変える講演だと思いました。もっと聞いていたいと思いました。

平成27年度　情報科学研究会アンケート集計

ETC, VICS を中心に、道路交通系で使われている IT 技術について、学生さんや一般の方々にもわかるように、優しくお話しいただきました。

第 23 回　情報科学研究会　道路交通系 IT の話

講師	野崎敬策（交通ジャーナリスト、元大手総合電気通信メーカー ETC プロジェクト室長、東京理科大学大学院特別講師）							
開催日時	2015/11/27　14：50 ～ 16：20					会場	尾道市立大学 401 講義室	
参加者数	69 名		アンケート回答者			61 名（回収率 88%）		
年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	23	29	1	5	1	2	0	0
性別 ※ 27年度は集計なし	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	-	-	-		41	10	3	4	3
公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他	
	1	17	0	20	0	0	18	18	
講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	14	34	9	1	0		28	23	5

ご意見ご感想（抜粋）

- ETC について学ぶことができました。私は普段車で通学しているので、カーナビや道路交通管理など大変興味深く、講義を聞くことができてよかったです。
- ETC の応用システムとして、有料駐車場での利用は、機器にお金を入れにくいことが多々あるので、駐車場での利用が広まれば良いなと思いました。
- あまり触れる機会のない ITS の話を聞けてよかったです。海外との比較や、時代背景の話も交えていて面白かったです。
- 声が少し聞き取りにくいことがあった。マイクの音が小さい？
- 非常に興味深い話だった。
- ITS についてわかりやすく知ることができたのでよかったです。
- ETC の世界初が日本ではなく、ノルウェーでとても驚いた。
- 普段何気なく使っている ETC の仕組みなど知れて良かった。
- 非常に興味深かったです。文系が多いので、組織の元リーダーとしての視点を少しお聞きしたかったです。
- とても為になりました。
- 日曜日でないのが望ましいので助かりました。
- 授業があってあまり聞けなかったですが、交通関係のことについて興味があったので知りたいと思いました。
- 資料が詳しいものだったので、後々内容を思い出すのに良いと思いました。
- なかなか普段聴くことがない内容で勉強になった。スライドの写真も面白かった。

光を利用した空間演出について、プロジェクションマッピングの現状などを交えての講演とプロジェクションマッピングを利用したワークショップを開催しました。

第 24 回　情報科学研究会　空間と映像・プロジェクションマッピング

講師	**石多未知行**（財団法人プロジェクションマッピング協会代表理事・逗子メディアアートフェスティバル主催）							
開催日時	**2016/2/12　13：30 ～ 15：00（講演）** **15：00 ～ 17：00（ワークショップ）**				会場	**商業会議所記念館** **大学サテライトスタジオ**		
参加者数	**28 名**		アンケート回答者		**24 名（回収率 86%）**			
年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	5	12	0	3	3	1	0	0
性別	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	11	13	0		21	0	0	1	2
公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他	
	1	1	2	13	0	0	12	1	
講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	17	7	0	0	0		21	1	0
ご意見 ご感想 （抜粋）	• 可能性をびしびし感じました • めちゃくちゃおもしろくてわくわくしました。非常勤の先生としてきていただけるのがうれしいです。 • 尾道にある廃墟や、昔ながらの建物も面白い形がたくさんあるので、例えば廃墟の綺麗なままの頃の姿を映しても面白いと思いました。それぞれの地域ごとの廃墟で行うと地域活性化にもつながると思いました。 • 素晴らしいです。尾道大学がんばっているんですね。							

平成28年度　情報科学研究会アンケート集計

自然物・自然現象の可視化、光の表現を中心に、現実感のあるCG（コンピュータ・グラフィックス）への挑戦について、学生や一般の方々にもわかるように、リアリティのある画像で印象的で豊富な実例とともに、やさしく楽しくお話しいただきました。

第 25 回　情報科学研究会　現実感のある CG への挑戦

講師	西田友是（東京大学名誉教授、広島修道大学経済科学部経済情報学科教授、UEI リサーチ所長）							
開催日時	2016/11/30　14：50 ～ 16：20					会場	尾道市立大学 401 講義室	
参加者数	179 名（授業出席学生含む）			アンケート回答者		150 名（回収率 84%）		
年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	80	57	1	2	5	4	0	1
性別	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	87	63	0		108	20	2	6	14
公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他	
	11	37	0	28	0	2	80	14	
講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	79	44	15	2	0		99	38	2

ご意見ご感想（抜粋）

- 最新の CG について、またそこに至る経過など学ぶことができてとても楽しかったです。久々に学ぶことの楽しさを感じました。ありがとうございました。
- CG の基礎・要素・技術は現実を見るための実験・分析・計算・プログラミング・デザイン・評価…全部一人でやるの？パラレル計算用 CPU（画像処理用）の発展の可能性は。
- 日本の CG の研究の発祥の地が広島ということがびっくりしました。普段何気なく目にする CG ですが凄い計算や研究が裏にあることを知りました。なかなか聞くことのできない貴重なお話をありがとうございました。
- リアルな CG の実現のためにここまでたくさんの技術や研究が関わっていることに驚いた。アニメや映画だけでなく医療にも CG が活用されていることに驚き、今後もさらに発展していけば様々な分野で活かせると感じた。
- ありがとうございました。とても楽しかったです。ゲームが好きで将来ゲーム関係の職に就きたいと思っているので、見ていてわくわくしました。
- タイトル通り本当に現実感があり、日本に誇れる技術をお持ちの方だと思いました。これからも CG を通じて日本を盛り上げていってほしいです。
- 今まで CG には興味もなく知識もありませんでしたが、CG の素晴らしさを知り、とても興味を持ちました。
- 今ではいろいろなところに CG が使われているが、その成り立ちやどのようにして綺麗な映像が CG によってできているかをしらなかったので面白かった。空気や煙の粒子に光をあてると何色に見えるかという細かなところからリアルな CG ができているのだなと思った。
- 映画やゲームの CG が有名だが、医療など私たちの生活に密接に関わっているということを知りました。逆に私たちの生活から CG の新しい技術のヒントとなって開発されていてよりリアルなものになるとわかるとワクワクしてきました。

第１部のウィキペディアとウィキペディア・タウンについての講演の後、第２部のワークショップでは、ウィキペディア記事の書き方や、執筆のための参考文献の調べ方などのガイダンスを受けて、実際に尾道に関するウィキペディアの記事を執筆・編集していただきました。

第 26 回　情報科学研究会　みんなで作る“まちの事典”～ウィキペディアタウン in 尾道

講師	**海猿**（元ウィキペディア管理者）							
開催日時	2017/3/6　13：00 ～ 16：15				会場	（第 1 部）尾道市立大学 C4 （第 2 部）ファカルティラウンジ		
参加者数	16 名		アンケート回答者		10 名（回収率 63%）			
年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	1	0	0	2	3	4	0	0
性別	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	9	1	0		5	0	1	2	2
公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他	
	2	0	1	3	0	0	2	2	
講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	6	3	1	0	0		7	3	0
ご意見 ご感想 （抜粋）									

平成28年度　コンピュータ講座アンケート集計

Rの基本的な操作方法を学習した後、アンスコムデータと呼ばれる古典的な データを使って、データの可視化の重要性を学び、その後、家賃のデータを使って簡単な回帰分析の実施方法について学習しました。

第 25 回　コンピュータ公開講座　Rによる統計解析入門

講師	佐野夏樹（経済情報学部准教授）							
開催日時	2016/3/6　14：50 ～ 16：20					会場	尾道市立大学 C4	
参加者数	24 名			アンケート回答者		22 名（回収率 92%）		
年齢	～ 10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
	0	6	3	4	5	1	3	0
性別	男性	女性	未記入	お住まい	尾道市	福山市	三原市	広島県内	広島県外
	20	2	0		16	1	0	3	2
公開講座情報の入手先	広報おのみち	大学サイト	FB/twitter	チラシ・ポスター	ラジオ	新聞	知人から	その他
	9	4	1	7	0	0	1	1

講座について	とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった	内容について	わかりやすかった	ふつう	わかりにくかった
	9	10	0	0	1		10	4	7

ご意見ご感想（抜粋）

- Rによる解析を使って工場での工程管理に用いる具体的な手法も学んでみたいと思いました。また、先生の専門ではないかもしれませんが、栄養学にも応用したいと考えています。
- Rは一般的なリフトではないので、データの視覚化はエクセルなどの方が使いやすくわかりやすいと思います。
- 多変量解析を実例を使って初めて体験できたことがとてもありがたかったです。
- 興味深く、時間がとても短く感じました。ありがとうございました。
- 内容は非常に面白かったが、所々説明が分かりづらかった。他のテーマにおけるRの活用に興味がわいた。
- 今後の学習の参考になった。統計の基礎知識がないと中々難しい内容だと思った。
- Rと統計について大まかな部分について理解できた。今後は自分でやってみようと思った。
- むずかしかったです

尾道市立大学教員FMおのみち出演　トークテーマ一覧

FM おのみちの番組『You Gotta Radio 』内にて、尾道市立大学教員が研究内容のご紹介や大学主催共催の講座・イベント・展示の告知を行うコーナーで行われたトークテーマです。

※トークテーマ記録のある 2013 年度以降のテーマを記載。

開催年月	出演者	学科	トークテーマ
2013 年 4 月	吉原慎介	美術学科	日本画表現について
2013 年 5 月	小野環	美術学科	AIR Onomichi 2013 について
2013 年 6 月	藤川功和	日本文学科	中世文藝研究会の活動について
2013 年 7 月	高山毅	経済情報学科	気がきく IT をめざして
2013 年 8 月	井本伸	経済情報学科	経済全体で考えるとはどういうことか
2013 年 9 月	林直樹	経済情報学科	ロビンソンクルーソーを再読する
2013 年 10 月	桜田知文	美術学科	鋳造作品の制作について
2013 年 11 月	寺柚雅人	日本文学科	林芙美子未公開書簡 1 通について
2013 年 12 月	藤川功和	日本文学科	文学三昧について
2014 年 1 月	足立英之	経済情報学科	尾道市立大学の法人化について
2014 年 2 月	小谷範人	経済情報学科	尾大での思い出
2014 年 3 月	本田治	経済情報学科	コンピュータの仕組みを簡単に
2014 年 4 月	西嶋亜美	美術学科	西洋美術と旅
2014 年 5 月	安達功	経済情報学科	ワインの選び方
2014 年 6 月	溝渕裕	経済情報学科	街道を歩く
2014 年 7 月	有吉勇介	経済情報学科	論文のチェック（査読）について
2014 年 8 月	世永逸彦	美術学科	グラフィックデザインについて
2014 年 9 月	藤本真理子	日本文学科	方言などからイメージされる役割語の世界
2014 年 10 月	森本幾子	経済情報学科	出雲屋敷の献立
2014 年 11 月	神崎稔章	経済情報学科	地域経済ー北海道を例にー
2014 年 12 月	藤川功和	日本文学科	文学三昧について
2015 年 1 月	藤岩秀樹	経済情報学科	冬のヒートショックにご用心
2015 年 2 月	寺柚雅人	日本文学科	志賀直哉が表現した千光寺の鐘の音
2015 年 3 月	藤井佐美	日本文学科	道成寺縁起絵巻の研究
2015 年 4 月	稲田全示	美術学科	尾道の神話
2015 年 5 月	世永逸彦	美術学科	編集デザイン（エディトリアルデザイン）について
2015 年 6 月	藤川功和	日本文学科	ナニコレ 百人一首 ―7月の尾道文学談話会の紹介をかねて―
2015 年 7 月	藤原靖也	経済情報学科	大学生にふれて感じること（最近の大学生にふれて見えてきた2つの傾向）

開催年月	出演者	学科	トークテーマ
2015 年 8 月	**木村文則**	経済情報学科	**理系 (情報学) と文系 (人文学) の融合**
2015 年 9 月	**岡本隼輔**	経済情報学科	**目先の結果に囚われないことの重要性**
2015 年 10 月	**小野環**	美術学科	**AIR Onomichi 2015 について**
2015 年 11 月	**原卓史**	日本文学科	**和田竜『村上海賊の娘』の魅力**
2015 年 12 月	**藤川功和**	日本文学科	**第 7 回　おのみち文学三昧について**
2016 年 1 月	**森本幾子**	経済情報学科	**尾道のお正月**
2016 年 2 月	**大西秀典**	経済情報学科	**年金と税金**
2016 年 3 月	**菅準一**	経済情報学科	**尾道市立大学における私の健康法**
2016 年 4 月	**松野友芳**	経済情報学科	**契約について―悪徳商法被害に遭わないために**
2016 年 5 月	**邵忠**	経済情報学科	**尾道市立大学の国際交流の取り組み**
2016 年 6 月	**荒井貴史**	経済情報学科	**「尾道のまちの変化と可能性、私の視点から～ 20 年前から現在まで、そして未来～」**
2016 年 7 月	**岸本理恵**	日本文学科	**平安朝の七夕の和歌**
2016 年 8 月	**野崎眞澄**	美術学科	**デザインコース：第 14 回尾道地域課題＋地域活性化企画について**
2016 年 9 月	**藤井佐美**	日本文学科	**浦島伝説の魅力　― 尾道編 ―**
2016 年 10 月	**小川長**	経済情報学科	**小川研究室主催・街中ゼミ第 8 弾『尾道定住化計画』について**
2016 年 11 月	**西村剛**	経済情報学科	**宝塚歌劇団を創った企業家　ー小林一三についてー**
2016 年 12 月	**藤川功和**	日本文学科	**第 8 回　おのみち文学三昧について**
2017 年 1 月	**ご出演なし**		
2017 年 2 月	**中村譲**	美術学科	**美術学科卒業制作・大学院美術研究科修了制作展について**
2017 年 3 月	**西嶋亜美**	美術学科	**尾道市立大学美術館での催し物について**

受託研究一覧

尾道市立大学で行われた産学連携・産官学連携の受託研究一覧です。

年度	研究題目	対応者		相手方
		教職員	学生	
平成 24 年度	植物エキス配合飲料商品名及び商品デザイン案作成	高岡　陽	–	丸善製薬㈱
平成 24 年度	桂花エキス配合食品商品名及び商品デザイン案作成	高岡　陽	–	丸善製薬㈱
平成 24 年度	看板デザイン作成	岡本　奈都美	–	尾道市（てっぱん協議会）
平成 24 年度	尾道の民話・伝説の紙芝居作成	光原　百合 高岡　陽	日本文学科３名 美術学科４名	尾道市（中央図書館）
平成 24 年度	海フェスタの経済効果算出業務	井本　伸	–	尾道市（海フェスタ推進協議会）
平成 24 年度	野間川ダム・ダム湖名称説明看板デザイン作成	野崎　眞澄	美術学科４名	広島県
平成 24 年度	どんぐり工房カレンダー等のデザインに係る連携協働	高岡　陽	美術学科１名	社会福祉法人尾道さつき会
平成 24 年度	おのみちしぐさ・自転車マナー啓発ポスター等作成	高岡　陽	–	尾道市（環境政策課）
平成 25 年度	サンワファームデザイン、三和鉄構地図作成	高岡　陽	美術学科４名	三和鉄構建設㈱
平成 25 年度	せらワイナリーのワインパッケージデザイン作成	高岡　陽	美術学科１名	㈱セラアグリパーク
平成 25 年度	こだま食品株式会社商品群毎のデザイン統一	高岡　陽	–	こだま食品㈱
平成 25 年度	こだま食品株式会社商品パッケージ等のデザイン案作成	高岡　陽	美術学科２名	こだま食品㈱
平成 25 年度	W eb サイト作成	高岡　陽	経済情報学科３名 美術学科３名	㈱ゆきひろ
平成 25 年度	尾道の民話・伝説の紙芝居作成	光原　百合 高岡　陽	日本文学科３名 美術学科３名	尾道市（中央図書館）
平成 25 年度	どんぐり工房カレンダー等のデザインに係る連携協働	高岡　陽	美術学科１名	社会福祉法人尾道さつき会
平成 25 年度	景観スポットの選定	稲田　全示 桜田　知文	–	しまなみ地域活性化推進協議会連合体
平成 26 年度	社会福祉法人　原田ヒカリ会の法人理念を形式的な図表で表現	高岡　陽	–	社会福祉法人原田ヒカリ会

年度	研究題目	対応者		相手方
		教職員	学生	
平成 26 年度	尾道しぐさ	高岡　陽 灰谷　謙二	–	尾道市（環境政策課）
平成 26 年度	尾道の民話・伝説の紙芝居作成	光原　百合 高岡　陽	日本文学科 3 名 美術学科 3 名	尾道市（中央図書館）
平成 26 年度	グルメマップ	高岡　陽	美術学科 2 名	㈱村上オフセット
平成 26 年度	平成 26 年度今治市大三島美術館夏季特別展示業務	美術学科教員	–	今治市（大三島美術館）
平成 26 年度	尾道市立因島南小学校校章制作業務	高岡　陽	–	尾道市（教育委員会事務局学校経営企画課）
平成 26 年度	行政視察広報用チラシデザイン作成	高岡　陽 灰谷　謙二	–	尾道市（市議会）
平成 26 年度	どんぐり工房カレンダー等のデザインに係る連携協働	高岡　陽	美術学科 1 名	社会福祉法人尾道さつき会
平成 26 年度	グループ名称、グループマーク作成	高岡　陽	–	株式会社円福寺
平成 26 年度	中国横断自動車道尾道松江線の愛称ＰＲのためのデザイン制作業務	高岡　陽	–	中国横断自動車道尾道松江線建設促進期成同盟会
平成 26 年度	Web デザイン制作	高岡　陽	–	しんがいの未来を考える会
平成 27 年度	「おのみちブランド農産物」ロゴマークデザイン作成	世永　逸彦	美術学科 5 名	尾道市（農林水産課）
平成 27 年度	グルメマップ表紙デザイン制作	高岡　陽	美術学科 1 名	㈱村上オフセット
平成 27 年度	どんぐり工房カレンダー等のデザインに係る連携協働	高岡　陽	美術学科 1 名	社会福祉法人尾道さつき会
平成 27 年度	寺岡有機農場　企業パンフレットデザイン制作	野崎　眞澄	美術学科 2 名	寺岡有機農場㈲
平成 28 年度	清涼飲料水の商品名、デザイン案（販促物含む。）作成	高岡　陽	–	丸善製薬株式会社
平成 28 年度	「しまなみ海道トライアスロン大会 in 尾道」大会ロゴ等デザイン	高岡　陽	美術学科 1 名	しまなみ海道トライアスロン
平成 28 年度	「２０１７年版どんぐり工房カレンダー」等のデザイン案の製作等	高岡　陽	美術学科 1 名	社会福祉法人尾道さつき会

受託研究一覧

年度	研究題目	対応者		相手方
		教職員	学生	
平成 28 年度	尾道市立美木原小学校校章制作業務	世永　逸彦	–	尾道市（教育委員会事務局学校経営企画課）
平成 28 年度	美木原小学校校歌作詞業務	光原　百合	–	尾道市（教育委員会事務局学校経営企画課）
平成 28 年度	健康づくり研修用ＤＶＤ作成業務	高岡　　陽	美術学科３名	尾道市（健康推進課）
平成 28 年度	あじば農園レモンケーキのパッケージ等デザイン作成	世永　逸彦	美術学科４名	井場淳一郎
平成 28 年度	ウエルカムおのみちカード等制作業務	野崎　眞澄	美術学科１名	尾道市（市民課）
平成 28 年度	『尾道の本』部分デザイン作成	青井　典子	–	㈲備後レポート社
平成 28 年度	グルメマップ表紙デザイン制作	高岡　陽	美術学科１名	㈱村上オフセット
平成 28 年度	「尾道文化」表紙デザイン作成	野崎　眞澄	美術学科１名	尾道文学協会
平成 28 年度	（仮）ニンジンとトマトのドレッシング　ラベルシール作	青井　典子	–	㈲備後レポート社

尾道市立大学地域総合センター叢書９

印刷・発行日　2017年6月

編集・発行　尾道市立大学地域総合センター
〒722-8506
広島県尾道市久山田町1600番地2
TEL（0848）22-8311
FAX（0848）22-5460

印刷所　有限会社はと印刷
〒722-2102
尾道市因島重井町4080-3
TEL（0845）26-1233
FAX（0845）26-1333

MUKAISHIMA DOCK